

小平市内における玉川上水系分水路網の基礎的環境調査
(玉川上水中流域の小川分水と分水路網の残存状況調査)

2019年

鈴木 利博

学び舎江戸東京ユネスコクラブ 水と緑・環境委員会

目 次

はじめに	・・・・・・・・	1
第1章 小平と玉川上水		
第1節 鈴木遺跡	・・・・・・・・	2
第2節 玉川上水と野火止用水	・・・・・・・・	3
第3節 小川九郎兵衛と小川新田	・・・・・・・・	4
第4節 享保の改革と新田開発	・・・・・・・・	5
第5節 分水口の統合(新堀用水開削)と現在	・・・・・・・・	9
第2章 調査報告		
第1節 調査目的	・・・・・・・・	10
第2節 調査方法	・・・・・・・・	10
第3節 小平市内分水路網図	・・・・・・・・	12
(1) 小平市内の用水・分水路網図(スポット紹介写真入り)		
(2) 本調査で作成した地点のGIS属性情報		
(3) 調査報告書作成地点地図(165地点)		
(4) 全撮影地点地図(770地点,撮影枚数2118枚)		
(5) 9分水路高低差断面図		
(6) 小平市東西断面図		
(7) 小平市南北断面図		
第4節 各分水路の調査報告	・・・・・・・・	20
(1) 野火止用水(調査地点15)		
(2) 新堀用水(調査地点23)		
(3) 小川分水(調査地点50)		
(4) 田無分水(調査地点11)		
(5) 鈴木分水(調査地点27)		
(6) 関野分水(調査地点5)		
(7) 大沼田分水(調査地点13)		
(8) 野中分水(調査地点11)		
(9) 砂川分水(調査地点10)		

第3章 水路の構造と水の多面利用	
第1節 各分水路の分岐水門	194
第2節 各分水路の構造	196
第3節 洗い場	200
第4節 水車場跡(推定地)	201
第5節 流路の変更	205
第4章 残存する水利遺構の様子	
第1節 新堀用水 ほっこぬき(胎内堀・たぬき堀)	206
第2節 大沼田分水 築樋(天井川)	207
第3節 小平市域の悪水堀	208
第5章 多面的利用形態 残したいわがまちの宝もの	211
調査を終えて	222
参考文献一覧	224
参考資料	
小平市の玉川上水・分水路網を取り巻く環境	225
(1) 玉川上水の植物	
(2) 玉川上水の鳥類	

はじめに

今から360余年前、江戸徳川四代家綱の時世、承応3年(1654)羽村から四谷大木戸までの43kmに及ぶ玉川上水が開削され、その翌年川越藩主松平伊豆守信綱によって、玉川上水から分水を受けた野火止用水が開削された。

その玉川上水路と野火止用水路に挟まれた武蔵野台地の西部、水乏と荒野の地といわれた小平の地に、玉川上水を基軸として次々と新田が開発され、小平市域に合わせて9本もの分水路網が張り巡らされることとなり、その後の集落・村落形成の大きな要となった。

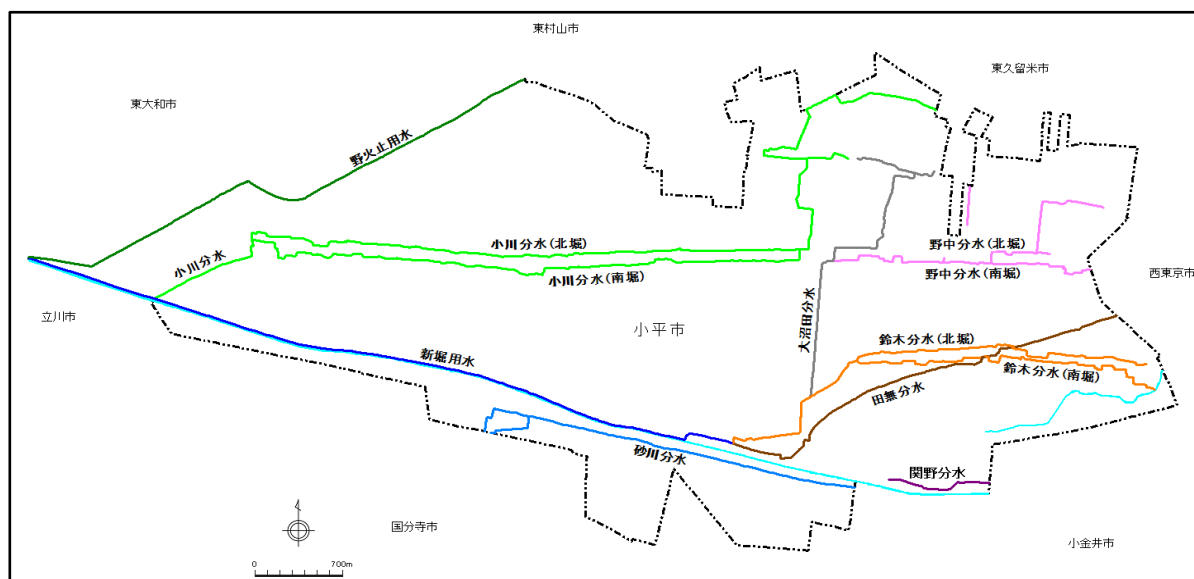
現在では小平の分水路網は総延長約50kmにも及び、玉川上水とともに今なお営々と存在し続けている。

私たちは本調査・研究に取りかかる3年ほど前から、江戸時代から続く小平の分水路網に関心を持ち、分水に関する情報収集や専門家による学習会、講演会を開催し、様々な分水路に関わる知識の習得と吸収を図ってきた。

一方近年、都市化、宅地化の影響を受け、伝統的な小平の分水路網は埋められ、あるいは道路・駐車場、排水路に転用され、その姿は徐々に消えようとしている。

そこで私たちは、玉川上水中流域に分水された小川分水をはじめ、小平市域に現存する分水路網約50kmについて、直に歩き、眼で確かめ、感じたことを記録し、分水路の姿、形はもとより、現況・実態を把握することで、先人の知恵を明らかにしたいという思いに掻き立てられた。

また、分水路の新たな存在価値と魅力を探ることで、既に市当局や各種団体が進めているまちづくり計画などへ、一つでも提言できないものか、さらには「ユネスコ未来遺産の玉川上水・分水路網」として、次世代に伝承しうる方策の手がかりが探り当てられないものかとの強い思いから、ここにチームを結成して、小平の分水路網に関する基礎的環境調査・研究を開始することにした。



凡例	
—	①野火止用水
—	②新堀用水
—	③小川分水
—	④田無分水
—	⑤鈴木分水
—	⑥関野分水
—	⑦大沼田分水
—	⑧野中分水
—	⑨砂川分水
—	玉川上水・石神井川

小平市9分水路網図
(学び舎江戸東京ユネスコクラブ作図)

学び舎江戸東京ユネスコクラブ
水と緑・環境委員会

第1章 小平と玉川上水

第1節 鈴木遺跡

小平の歴史は、鈴木遺跡から始まる

昭和49年(1974)6月、現小平市立鈴木小学校(鈴木町)から多くの黒曜石の石器が発見された。この発見によって江戸時代前期に玉川上水が開通してから始まるとしてきた小平の歴史が、およそ3万年前の後期旧石器時代にさかのぼることが明らかになった。

武蔵野台地のほぼ中央、標高約73~75mの武蔵野段丘上に位置する鈴木遺跡では、1万年前~1万2千年前の地層から縄文式土器も出土している。小平は石神井川のかつての源流部(谷頭部)に位置し、東に開く形の馬蹄形をしている。周辺は水が乏しく、旧石器時代には人々が繰り返し訪れたと思われる立川ローム層の基底部に相当する古い地層から新しい地層までが確認されている。



旧石器時代の人々の暮らしの想像図
(鈴木遺跡資料館より)

鈴木遺跡は、旧石器時代の大規模な遺跡として、学史的にも重要な遺跡として評価されている。地形上、立地上の特徴もあり、東京都では最大級の規模面積を有する遺跡である。

多摩川の支流の野川沿いや恋ヶ窪遺跡などでは住居跡や縄文式土器が出土するが、弥生時代遺跡は、小平を含む武蔵野台地内陸部でほとんど認められていない。その理由は、水田経営に適する可耕地が少ないこと、農業用水等の水の確保のむずかしさ等があったのではないかと考えられている。

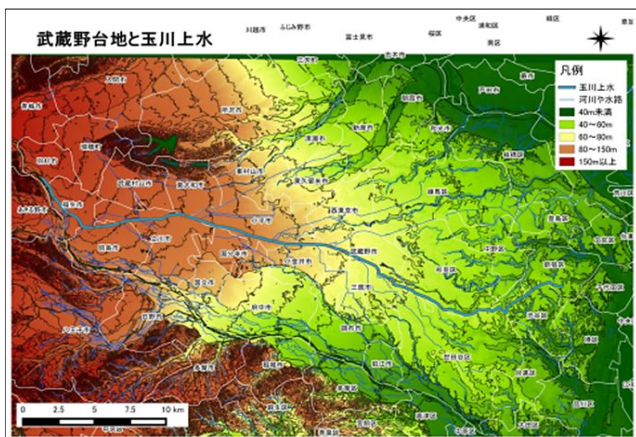
八小遺跡

八小遺跡は、昭和44年(1970)に現小平第八小学校(鈴木町)の校庭の東側から発見された竪穴式住居跡である。土器、石器なども発見された。約1200年以上前の奈良時代から平安時代にかけてのもので茅刈りのための一時的居留施設で人が住んだ形跡はないと考えられている。老朽化により取り壊され、現在は竪穴式住居跡となっている。



平成17年度までの「八小遺跡」
(小平第八小学校ホームページより)

武蔵野台地の特徴



武蔵野台地と玉川上水と分水路網
(学び舎江戸東京ユネスコクラブ作図)

武蔵野台地は、古い時代の多摩川などの河川が浸食と堆積を繰り返して形成された土地である。砂礫層の上位には関東ローム層の明褐色から暗褐色の火山灰層が堆積していて、その厚さは、古い時代に形成された高い段丘面ほど厚くなっている。

武蔵野台地の東端は、台東区の上野公園(標高15m)、西端は青梅、南端は大田区(久が原)北端は埼玉県川越で、東西47km、南北約30kmの広さとなる。台地の概形は東青梅(標高190m)を要とする扇状地である。

第2節 玉川上水と野火止用水

玉川上水=羽村取水堰～四谷大木戸(現在の新宿区四谷四丁目)までの約43km

野火止用水=玉川上水(小平監視所)～引又宿(現在の埼玉県志木市)までの約25km

玉川上水開削以前の武蔵野台地

小平周辺の武蔵野台地で僅かに集落が見られたのは狭山丘陵の麓や国分寺崖線付近である。

玉川上水開削以前の小平の地は、旧鎌倉街道は寂れ、東西方向の青梅街道(成木街道)が通っているのみ、水が無いので人が住めず集落が無い茫漠たる原野だった。



1650年頃の武蔵野台地
(わたしたちの小平市より)

玉川上水開削の必要性と時期

徳川家康の江戸入府後、小石川上水(後の神田上水)が開かれた。寛永12年(1635)、三代将軍家光の参勤交代制度により江戸の人口は急増したことで水不足に苦慮した幕府は多摩川上流部からの引水を計画、水路調査が開始された。

それまでの神田上水や溜池からの上水では賄いきれず、四代家綱の承応3年(1654)、玉川上水が開削された。総奉行は老中松平伊豆守信綱、水道奉行に關東郡代伊奈半十郎、庄右衛門・清右衛門兄弟が工事を請け負った。工事は、4月からわずか8か月で四谷大木戸までの約43kmを完成させた。翌年半ばには、虎の門はじめ江戸市中に石樋、木樋などで配水された。

玉川上水の用途は、飲料水、生活用水、田畑用水、水車の動力、防火用水、大名屋敷の泉水等である。

玉川上水は、江戸城内や江戸市中への飲水とされていたが、翌年開削された野火止用水へ分水するなど享保から江戸後期には、羽村からの水量の約半分は、玉川上水沿いの各新田に分水され武蔵野台地の開発につながった。

江戸後期には33分水となり、玉川上水沿いの新田の飲水・田用水として利用されるとともに、精米・製粉の水車の動力源となった。幕末には、製糸・製粉の他に火薬製造など工業用水として使われた。

明治3年(1870)4月から明治5年(1872)5月までのわずか2年間だが、玉川上水に舟運事業が許された。現在でも遺構として確認できる船溜跡がある。

野火止用水

野火止用水は、玉川上水完成の翌年、承応4年(1655)、川越藩主松平伊豆守信綱により、武蔵野開発の一環として野火止台地開発のために入植した人々の飲料水・生活用水確保を目的に開削された用水路である。現在の小平市中島町を流れる玉川上水から分岐され、野火止台地を経て、新河岸川にいたる全長約25kmになる。小平市域を流れるのはそのうちの約4.5kmである。



玉川上水と野火止用水

玉川上水完成の翌年、玉川上水からの全取水量の約1/3が野火止用水に認められた。また、僅か40日で掘り終えたとの記録が残されている。野火止は元禄期までは「野火留」と書かれていた。当時の老中松平伊豆守信綱により開削されたことから「伊豆殿堀」とも呼ばれている。

昭和19年(1944)埼玉県指定史跡、昭和49年(1974)都内の野火止用水とその周辺の緑地が、東京都における自然の保護と回復に関する条例に基づき「東京都歴史環境保全地域」に指定され保護されるようになった。

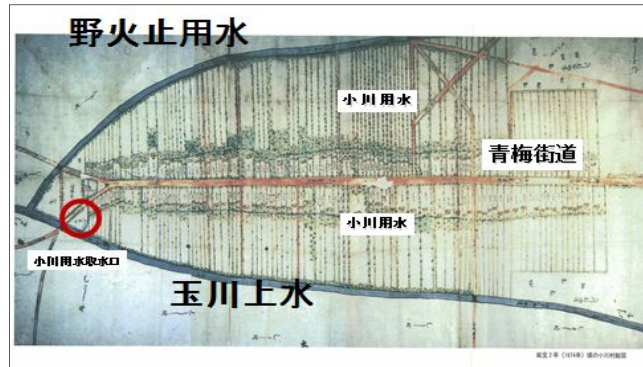
第3節 小川九郎兵衛と小川新田

小平開拓の始まり = 小川九郎兵衛が小川村の開拓をはじめめる。

小平開拓の始まり

明暦2年(1656)、岸村(現在の武蔵村山市)の小川九郎兵衛は、玉川上水と野火止用水にはさまれた土地の新田開発をいち早く幕府に願い出る。

小川分水として、玉川上水に1尺(30cm)四方の樋口を設け分水することが許可され、約200軒の農家が飲み水を得た。小川新田(後の小川村)の誕生となる。小川九郎兵衛が開発する条件としたのは、伝馬継場の設置と街道の整備の2つだった。



新田開発と地割り(1674年頃の小川村絵図)
(わたしたちの小平より・一部加筆)

小川新田の開発と小川分水

幕府から開発を許された土地は、玉川上水と野火止用水との間であった。玉川上水から引かれた水は、集落の西のはずれで2本に分かれ1本は青梅街道の南側に、1本は街道をくぐり北側に。どちらも屋敷の裏側を東に向かって流れる。それぞれの家では、水路のわきに洗い場をつくり、そこから水を台所やふる場へと運ぶ。

青梅街道を間口として1軒分の幅は10~15間(1間は約1.8m)に区切る。青梅街道の南北両側に家を建て、北側は野火止用水まで、南側は玉川上水までの細長い畑となっている。畑の奥は草原と雑木林。短冊形地割という。

小川村の役割

小川新田(享保10年(1725)に小川村に改称)は、青梅街道の宿場として開かれた。

青梅街道は、江戸城の城壁に使う石灰を成木(青梅市)から馬に積んで運ぶ道だった。西の箱根ヶ崎(現東京都瑞穂町)と東の田無宿(現東京都西東京市)の間が24kmあり、厳寒・酷暑の時期は人馬ともに困難を極めた。分水を受けた小川村は開発が進み馬継の宿場町となり、小川家は名主を続けた。

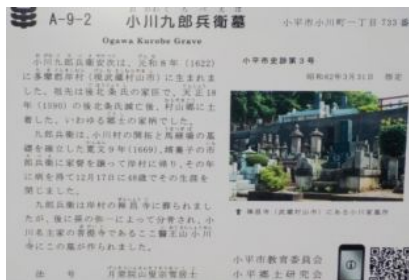
小川九郎兵衛

小川九郎兵衛は、元和8年(1622)に多摩郡岸村(現武蔵村山市)で生まれ、祖先は後北条氏の家臣。天正18年(1590)北条氏滅亡後、村山郷に土着したいわゆる郷土の家柄である。九郎兵衛は、承応3年(1654)に玉川上水が、翌承応4年(1655)に野火止用水が開通したことで、水を確保できると考え、明暦2年(1656)に新田開発と箱根ヶ崎と田無の両馬継場6里の中間に、馬継場の新設を願い出、同年老中松平信綱の許可を得る。

玉川上水と野火止用水の内側に位置する一本榎(現小平市仲町)までの約七百町歩の自費開拓と、青梅街道の整備を進めながら、街道筋の南北に10~15間の間口の屋敷地を1軒毎に割り当て、北は野火止用水までを南は玉川上水までを開拓した。

小川九郎兵衛の墓碑(小川寺)

小川寺には、小平市教育委員会による小川九郎兵衛の碑文(出自と業績)がある。



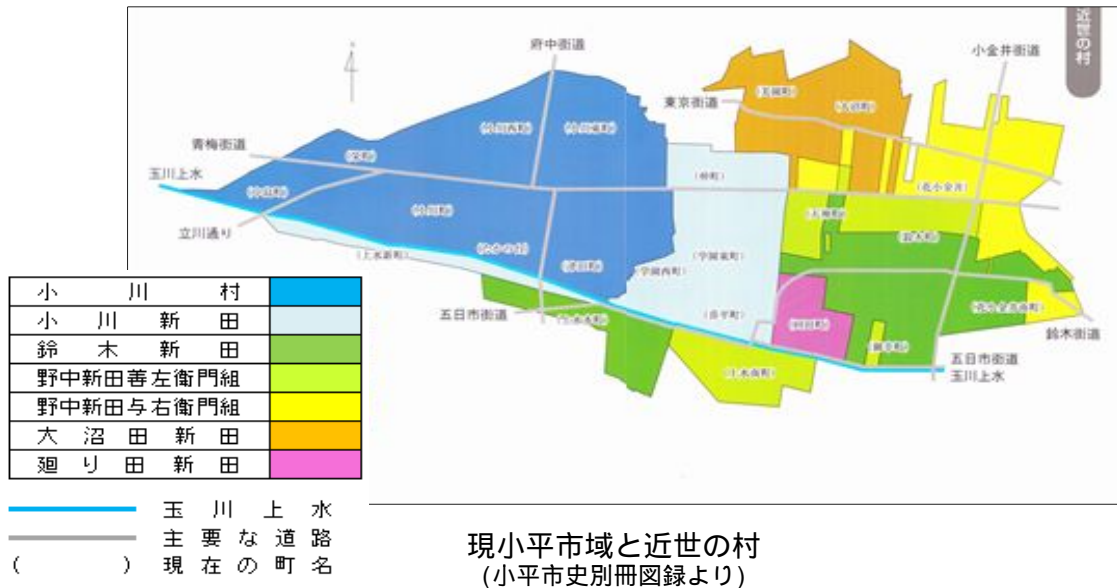
第4節 享保の改革と新田開発

享保の改革

徳川八代将軍吉宗は、享保7年(1722)全国に新田開発を進める高札を江戸日本橋に立てる。新田開発の目的は財政再建のためであり、水田を作り米の増産が狙いであった。しかし、武蔵野台地(関東ローム層)では、水利条件が乏しかったため畑作新田が大半を占めていた。

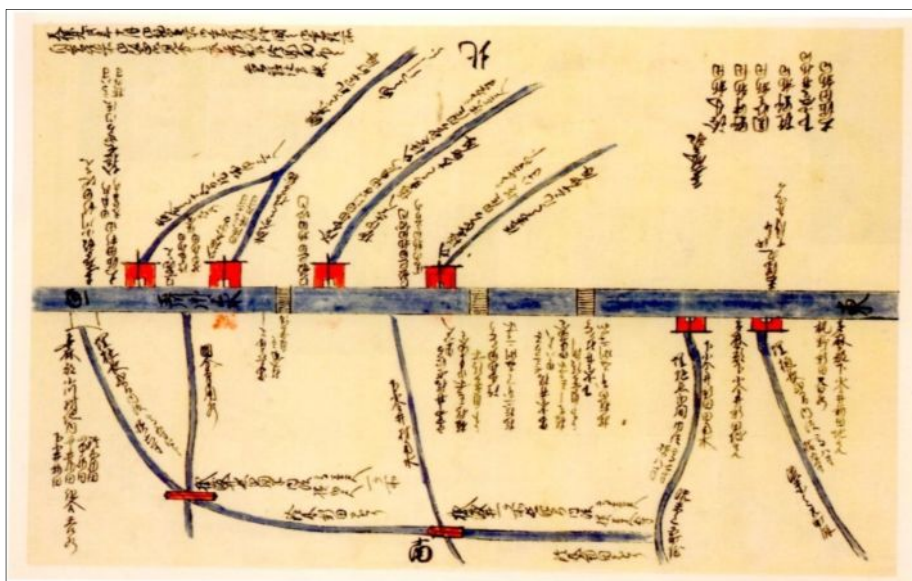
立川・国分寺・小平・小金井市は、この時期に開発された多くの新田村として発展していく。ことに小平市では、小川九郎兵衛の小川新田のほかは、すべて享保の改革による新田開発の村々から成っている。

小平の新田開発



享保の改革では、分水路網はさらに拡張された。鈴木新田・野中新田善左衛門組・野中新田与右衛門組・大沼田新田・廻り田新田などが開拓され、現在の小平市域の原型ができた。

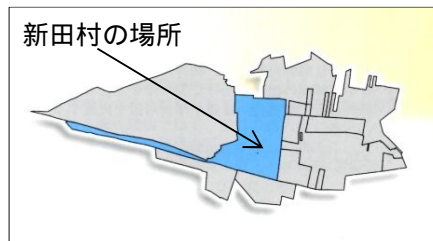
この時以来、小平の分水路網は地域住民の生活と密接に関わり、地域の歴史や文化を形作ってきた財産として守られてきた。



武蔵野新田開発と分水口
(小平市史別冊図録より)

小川新田の開発

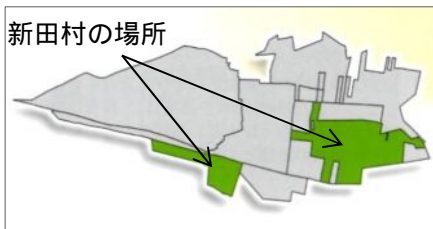
小川新田の開発は、享保7年(1722)に小川弥市と小川村が願い出したことにはじまる。同9年に許可され双方に開発地が割り当てられた。
小川新田の村域は、およそ現在の仲町・学園東町・学園西町・喜平町・上水本町・上水新町の辺りを範囲とする。



小川新田の寺社は、元文4年(1739)建立「平安院」(檀那寺として引寺されたとみられる。)と、宝永元年(1704)建立「熊野宮」(目印の榎の大樹に岸村(現武蔵村山市)阿豆佐味天神の摂社を遷祀したと伝わる)である。

鈴木新田の開発

鈴木新田は、貫井村の名主鈴木利左衛門と百姓が、享保期以前から武蔵野地域の開発を何度も試みていたことが開発のきっかけとなった村である。また、ようやく開発が許可された後も一時、野中新田に含まれたことがあった。鈴木新田の村域は、およそ現在の鈴木町、花小金井南町、上水本町のほか、天神町、御幸町、上水新町にも該当する地域がある。



鈴木新田の寺社は、元文元年(1736)に現在の地に引寺された「海岸寺」、享保11年(1726)に引寺した「宝寿院」、享保9年(1724)に開発が許可された「鈴木稻荷神社(鈴木町)」と「上鈴木稻荷神社(上水本町)」である。

・鈴木新田の悪水堀と田場(模式図)

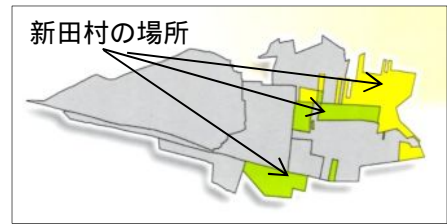
鈴木新田には、村の東西を貫くように悪水堀が流れていた。
これは、悪水堀・田用水・田場・水車の位置などを描いた図である。



天保8年(1837)11月 「鈴木新田田用水之絵図差出覚」
(鈴木家文書より作成) 小平市史別冊図録より

⑤ 野中新田の開発

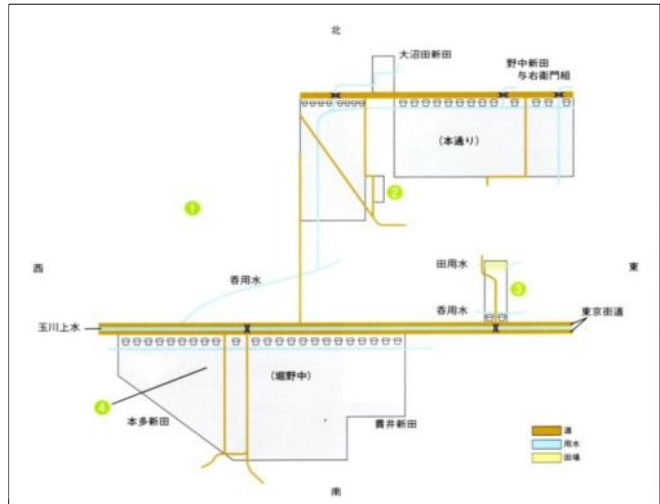
野中新田は、享保期に野中善左衛門らによって成立した。武蔵野新田のうち開発当初は最も面積の広い村であった。野中新田の村域は、およそ現在の天神町、花小金井、花小金井南町、上水南町のほか、大沼町や御幸町の一部、また国分寺市にも該当する地域がある。



・ 明治2年(1869)に描かれた野中新田善左衛門組「村絵図」(野中家文書)の模式図である(小平市市別冊図録より)

明治初期に野中新田善左衛門組の全体を描いた模式図。村域が飛び地になっているのが判かる。道路や水路も丁寧に描かれている。

青梅街道や五日市街道など、各街道に沿って家が描かれていて水の恩恵を受けた生活が想像できる。



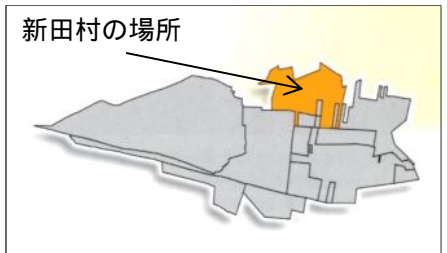
野中新田の寺社

享保12年(1727)に引寺した「円成院」、享保13年(1728)に許可された「鳳凰院」(現国分寺市)、享保18年(1733)に引寺した「延命寺」と稲荷神社(上水南町)がある。

大沼田新田の開発

大沼田新田は、當麻弥左衛門らが開発を主導した村。大沼田新田の村域は、およそ現在の大沼町、美園町のほか、天神町、花小金井などにも該当する地域がある。

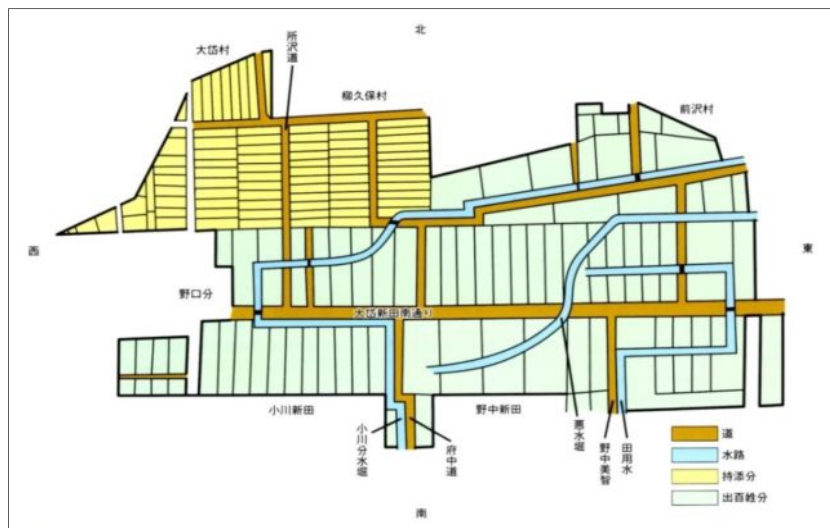
酒造や醤油造経営を行っていた弥左衛門の敷地内の様子を描かれていた図面から4つの土蔵や水車場も確認できる。(當麻家文書より)



・ 大沼田新田の地割図(模式図)(小平市市別冊図録より)

享保21年(1736)3月に大沼田新田を描いた「村絵図」の地割図の模式図。新田當麻家に残されていたものである。

東西を貫く「大沼新田南通り」(現東京街道)や「所沢道」など、街道に沿って地割されていることが判る。

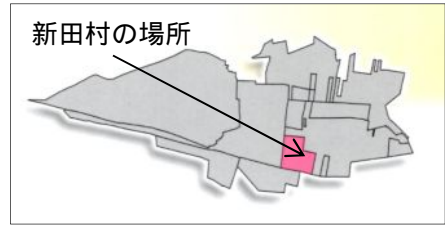


大沼田新田の寺社

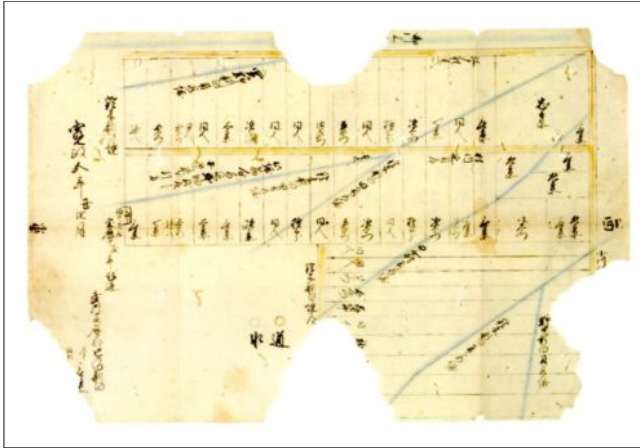
延享元年(1744)7月、開発当初から新田での寺院建立を望んでいた開発人の弥左衛門と伝兵衛が、寺地を寄進し「泉蔵院」を引寺した。村内の鎮守として「稲荷神社」(大沼町)がある。

廻り田新田の開発

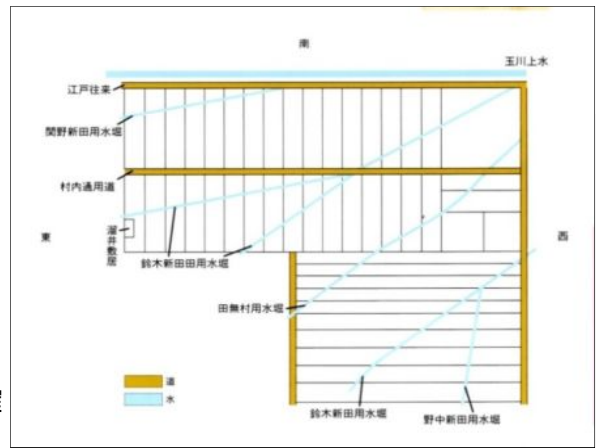
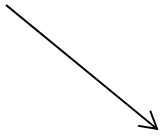
廻り田新田は、廻り田村(現東村山市)を本村とする新田で他の村に比べて開発に関わる時期は若干遅い。現小平市域の旧村のうちでは最も面積が狭い。廻り田新田の村域は、およそ現在の回田町にあたるが、鈴木町にも該当する地域がある。



- ・廻り田新田の地割 (小平市史別冊図録より)



寛政5年4月(1793)「廻り田新田地割図」
(山田家文書)32.6×46.5cm

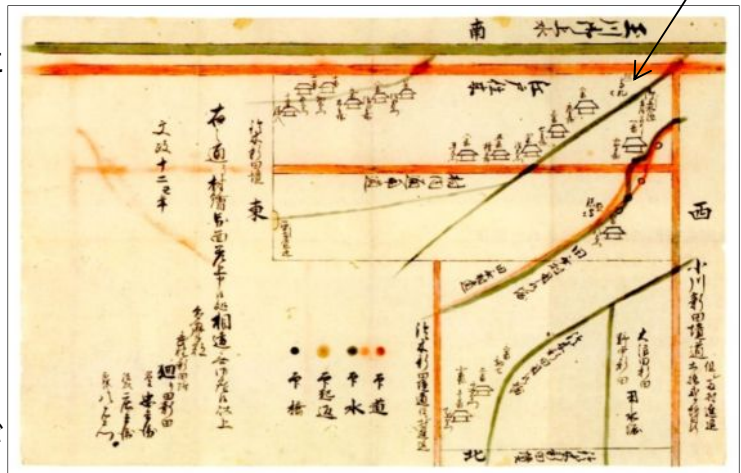


- ・廻り田新田の地割(模式図)
寛政5年4月(1793)当時の廻り田新田を描いた模式図になる。南北方向に地割されている場所と、東西方向に地割されている場所がある。用水堀が確認される。

廻り田新田の地割(模式図)



- ・文政12年(1829)の絵図
水際に家々が並ぶ様うかがえる。家には、番号が振られている。村の南西には高札が描かれている。



- ・廻り田新田の檀那寺と寺社
廻り田新田に寺院はなく、檀那寺は鈴木新田の海岸寺、宝寿院になる。宝暦5年(1755)、齊藤弥兵衛の持地が提供され氷川神社が勧請された。

文政12年(1829)「廻り田新田村絵図」
(齊藤家文書)32.9×47.7cm

第5節 分水口の統合(新堀用水開削)と現在

分水口の統合(分水改正)

明治3年(1870)に現在の小平市域の分水口が改正される。通船計画により、それまで玉川上水に直接設けられていた19の各分水口は、南北2つの分水口に統合されることになる。

玉川上水南岸の柴崎分水から境分水まで11の分水は、砂川用水(翌年深大寺村まで延長。深大寺用水とも呼ぶ)を中心にした1つの流れにまとめられた。北岸は野火止用水から千川上水までの8つの分水口は、新たに掘られた新堀用水を中心まとめられた。(柴崎分水、野火止用水、千川上水は後に単独の分水口にもどる)

分水口統合は当時慢性化していた水不足対策でもあり、各分水口を利用量に応じた大きさに改められた。それまで水料を免除されていた享保改革以降の各新田の分水からも水料を徴収されるようになった。しかし最大の狙いは、各分水口での盗水防止対策にあったといわれている。玉川上水の通船事業の開始にともなう水路の整備として、船の通行に支障となる分水口の整理も分水改正のねらいの1つであったといわれている。

今でも多摩川の清流が流れている

小平市内の全長約50kmの分水路網には、現在、水量不足で部分的に流れが途絶えた所もあるが、開削当時より多摩川の原水が流れ、水と緑の空間として潤いを与えている。

但し現在では、玉川上水と野火止用水(川越街道・野火止公園まで)、千川上水(青梅街道・伊勢橋まで開渠)などの分水路には、高度再生処理水が流れている。



明治22年(1889)7つの新田と久米川村の飛地が合わさって、現在の小平市の前身、小平村が誕生する。昭和初期から戦前まで小平は農村として発展していく。昭和30年代に入ると小平にも都市化の波が押し寄せ、畑や山林は激減し宅地化の進行と人口が増加したことで都営住宅も増えてきた。

小平市内の分水路は古くから住民に「川」や「用水」と呼ばれ大切にされてきた。昭和40年(1965)淀橋浄水場の廃止に伴い流水の無い分水路が増え、生活排水の流入などによる荒廃から一時市民の関心、愛着が薄れた時もあった。昭和40年代後半には、こうした分水路網の変貌に対し「公民一帯として小平の自然環境には、水と緑こそ大切ではないか」との声も大きくなってきた。昭和59年(1984)には野火止用水に、昭和61年(1986)には玉川上水に高度再生処理水の清流が各々復活した。

平成7年(1992)「小平市用水路活用計画」が策定され、「地方分権一括法」により、平成13年(2001)東京都から小平市へ用水路網が移譲された。平成20年(2008)小平市用水路活用検討委員会でも用水路の活用区分の見直しが行われた。

平成28年(2016)12月、玉川上水ネット(学び舎江戸東京ユネスコクラブ加入団体)の「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」が公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産2016」に登録された。今後も、多くの関連団体、有識者の方々と手を携え、水循環都市東京の再生へとつなげたい。そして、持続的に保全・活用するために、江戸東京の水利システム保全の意義を伝え、東京の安全で快適なまちづくりのために日本遺産・世界遺産の登録を目指している。

第2章 調査報告

第1節 調査目的

小平市内9分水路の現状・実態を調査し、各分水路の存在価値を把握するとともに未来遺産として伝承できる方策を提示すること。

第2節 調査方法

調査原則

調査は、分水路ごとの各地点の状況(水路構造・水の有無・景観など)を可能な限り、歩いて見て感じたことを記録する。

各地点の現状を撮影し、分水路網調査報告書(様式次ページ)を基に水路構造、景観などを撮影し聞き書きなど記録する。将来も各地点を調査できるようにする。

調査時期 調査時期は2018年4月～2019年3月の12ヶ月間(補足調査含む)

小平市内9分水を東西に分け調査

分水路名	距離(Km)		調査担当 (監修・渡部)	
	小平市 (平成28年)	GISデータ (平成30年)		
野火止用水	4.5	4.481	西班	亀岡・久保田 現地応援 安藤
新堀用水	6.1	5.929		
小川分水(南北)	17.1	14.44		
砂川分水	3.5	3.645		
田無分水	3.6	3.577	東班	鈴木・櫻田 現地応援 藤原
鈴木分水(南北)	6.7	6.855		
関野分水	0.9	0.842		
大沼田分水	3.6	3.234		
野中分水(南北)	3.6	4.247		
合計距離	49.6	47.25		
悪水堀		3.32	(調査時点測量)	

小平市距離：水と緑と公園課(平成28年3月31日現在)より

調査地点について

各分水路始点より500m地点毎にプロットし調査地点とする。ただし、付近に特記する項目があるときは、その限りではない。

⑤ 地図データ

調査データは、コンパクトGISソフト「地図太郎PLUS」(東京カートグラフィック株式会社製)を使用してデータ化し、地図上に表示する。

背景地図には、国土地理院の地図を使用する。今後、このデータはGIS(地理情報システム)を用いて多方面の角度から分析するために使用する。

分水路高低差図・東西断面図・南北断面図等より地理的環境を把握する。

写真データ

各班毎にデジタルカメラにて撮影しパソコンに保存する。

個人情報に配慮した撮影を心がけながら、近隣の様子も記録する。

撮影場所の北緯東経がわかるようにデータ化する。

報告書作成

調査と並行してデータ化を図る。

10月より分析及び取り纏め作業に入る。

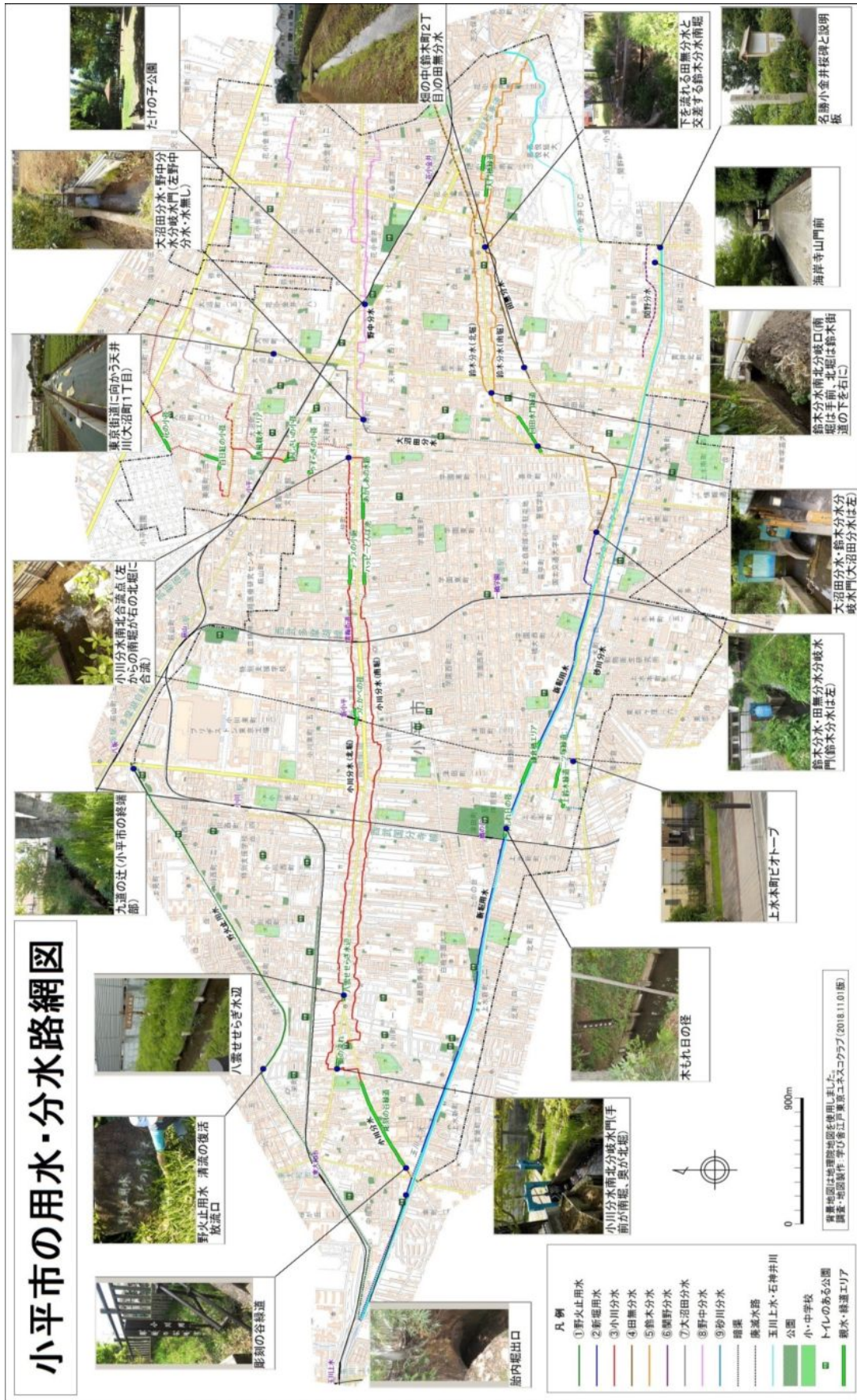
分水路網調査報告書(様式)

調査年月日	2018年 月 日() 時~ 時		調査者	
調査報告			分水路名	
住所	町 付近		北緯	東経
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他[]			
小平市の分水路全体地図			調査地点がわかる地図	
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他[]			
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし			
残したい風景	優 良 可		春の小川風景 有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌			
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他[])			
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他[])			
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他[])			
	廃滅(1 下水 2 不明)			
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他[]			
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm
コメント	<p>地点を表示し 短文の説明(写真)を入れる 地点写真は左端とする 地点説明をここに書く</p> <p>次の写真の説明 (写真) 写真枚数は、1枚以上4枚以内</p> <p>現地で聞き取り調査をした場合は、個人情報に触れないように注意しながらまとめる</p>			
写真番号	写真番号	写真番号	写真番号	
地点写真				

第3節 小平市内分水路網図

(2018年12月作図)

(1) 小平市の用水・分水路網図(スポット紹介写真入り)



(2) 本調査で作成した地点のGIS属性情報

地理情報システム (GIS : Geographic Information System) は、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ (空間データ) を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術である。

(国土地理院のホームページより)

作成した主なデータ

- ・小平の用水路 (線データ) 属性情報リスト (サンプル 参照)
- ・500mポスト (点データ)
- ・写真撮影ポイント (点データ) 属性情報リスト (サンプル 参照)
- ・調査報告地点 (点データ) 属性情報リスト (サンプル 参照)
- ・玉川上水・石神井川 (線データ)
- ・小平市の公園エリア (面データ) 属性情報リスト (サンプル 参照)
- ・小平市の橋 (点データ)
- ・鉄道 (線データ) 国土数値情報を使用
- ・駅 (線データ) 国土数値情報を使用
- ・小平市界 (線データ) 国土数値情報を使用

使用した背景地図

- ・国土地理院 地理院地図
- ・国土地理院 基盤地図情報 基本項目
- ・国土地理院 基盤地図情報 5mメッシュ標高データ

属性情報サンプル

小平の用水路

No.	J..	タイトル	登録日	登録キーワード	内容	画	リ	備考	更新日	表示色	線種	距離(m)
30	1	新堀用水	2018-05-11							16711680	3	376
1...	1	新堀用水	2018-05-11							16711680	3	127
1...	1	新堀用水	2018-05-11							16711680	3	753
1...	1	新堀用水	2018-05-11							16711680	33	200
1	1	新堀田水	2018-05-11									

}

写真撮影ポイント

No.	UserID	タイトル	登録日	登録キーワード	内容	画像ファイル	リ	備考	更新日	表示色	記号
1	1	NE001	2018/8	野火止用水	147~149	C:\WUk				0	19
2	2	NE002	2018/8	野火止用水	153	C:\WUk				0	19
3	3	NE003	2018/8	野火止用水	154	C:\WUk				0	19
4	4	NE004	2018/8	野火止用水	156	C:\WUk				0	19
5	5	NE005	2018/8	野火止用水	157	C:\WUk				0	19
6	6	NE006	2018/8	野火止用水	158	C:\WUk				0	19

}

調査報告地点

No.	UserID	タイトル	登録日	登録キーワード	内容	画像ファイル	リ	備考	更新日	表示色	記号
1	1	野火止01	2018/9/1			C:\WUk				255	6
2	2	野火止02	2018/9/1			C:\WUk				255	6
3	3	野火止03	2018/9/1			C:\WUk				255	6
4	4	野火止04	2018/9/1			C:\WUk				255	6

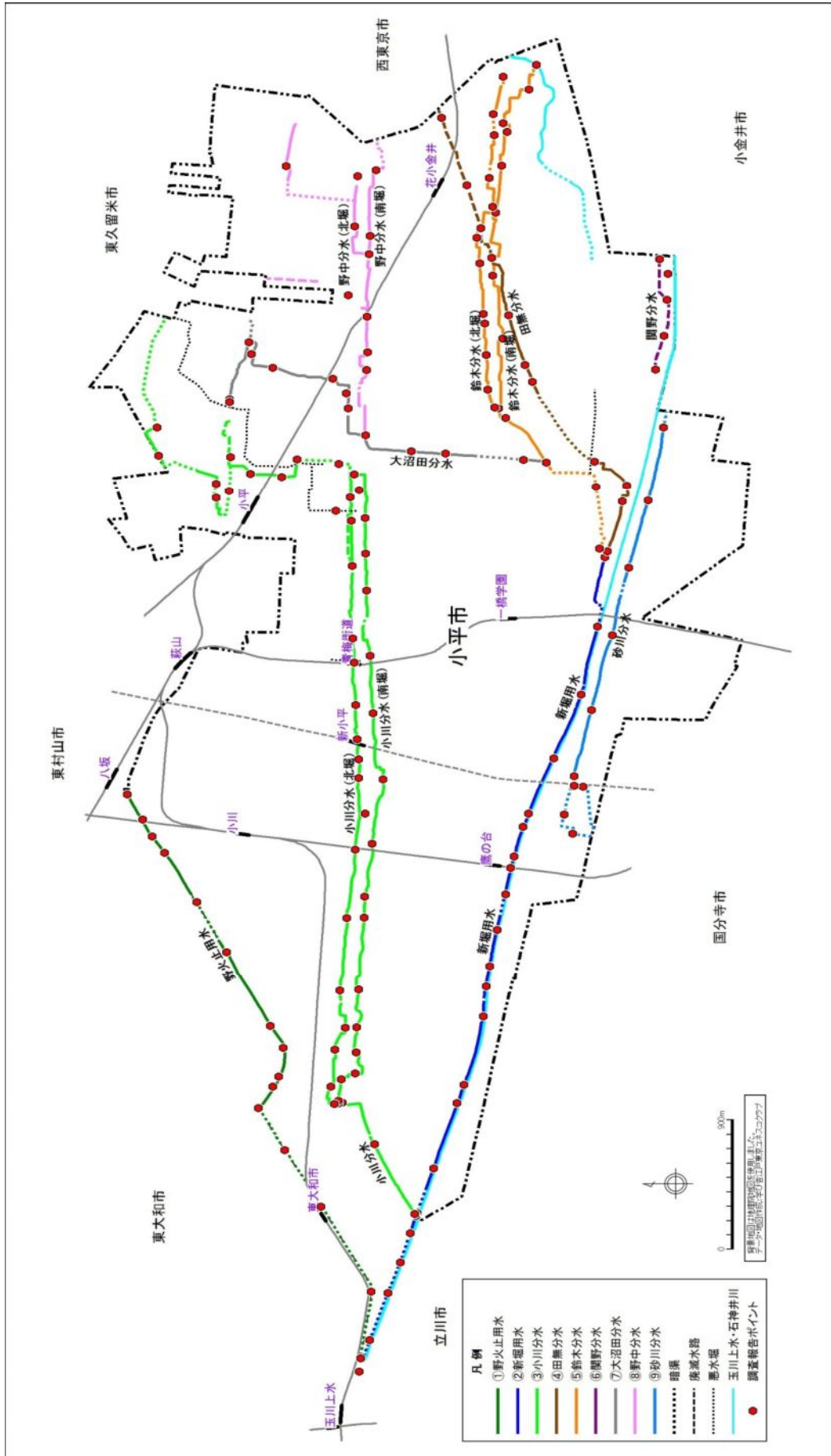
}

小平市の公園

No.	J..	タイトル	登録日	登録キーワード	内容	画	リ	備考	更新日	表示色	塗り	境界線色	境界線	面積(m2)	周長(m)	
1	1	中島町第1	A-1	1	中島町17...				281	条例公園	32768	10	10526880	1	332	75
2	2	中島町第2	A-1	2	中島町16...				210	条例公園	32768	10	10526880	1	455	85
3	3	中島町東	A-1	3	中島町34...				1000	条例公園	32768	10	10526880	1

}

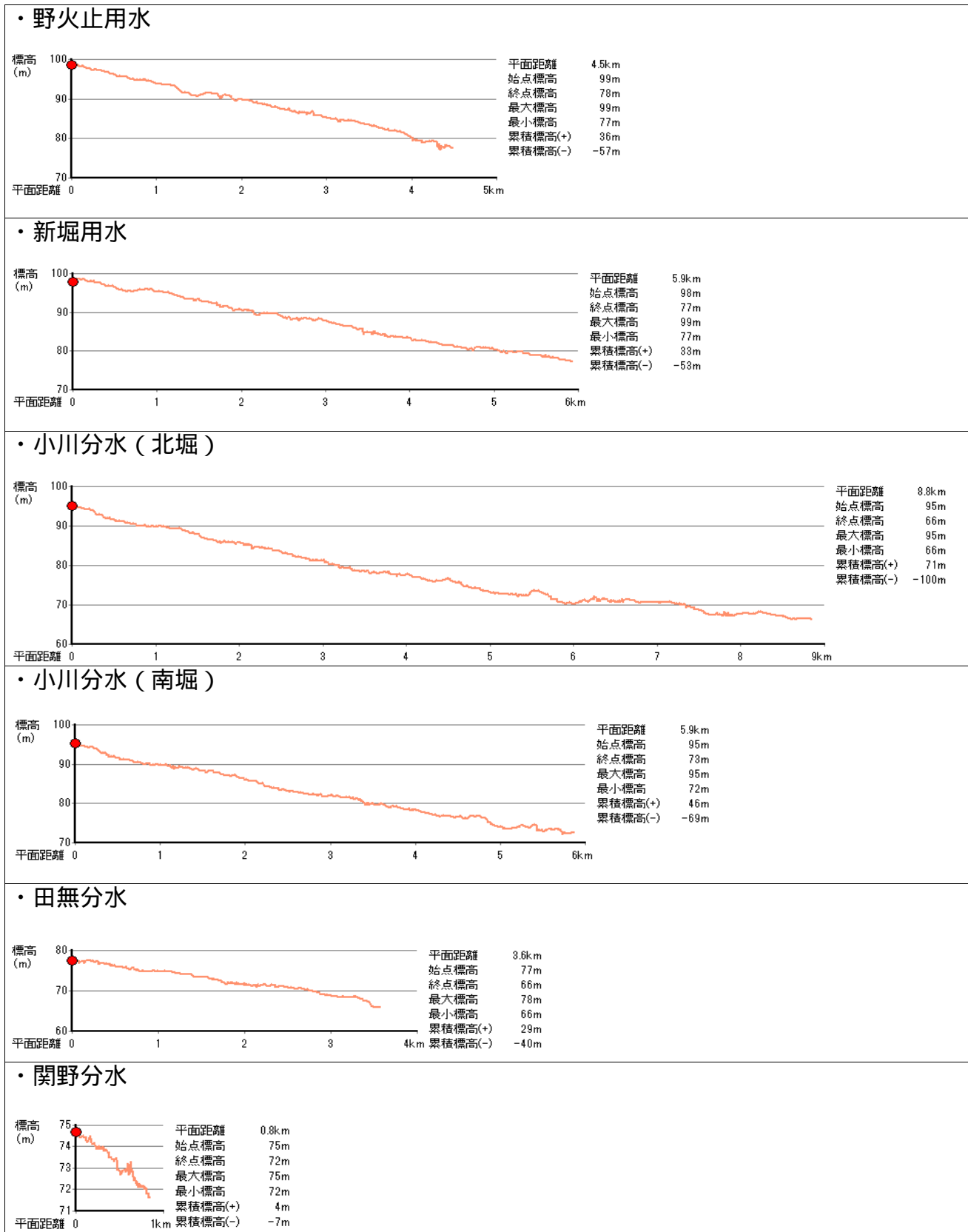
(3) 調査報告書作成地点地図(165地点)



(5) 9分水路高低差断面図

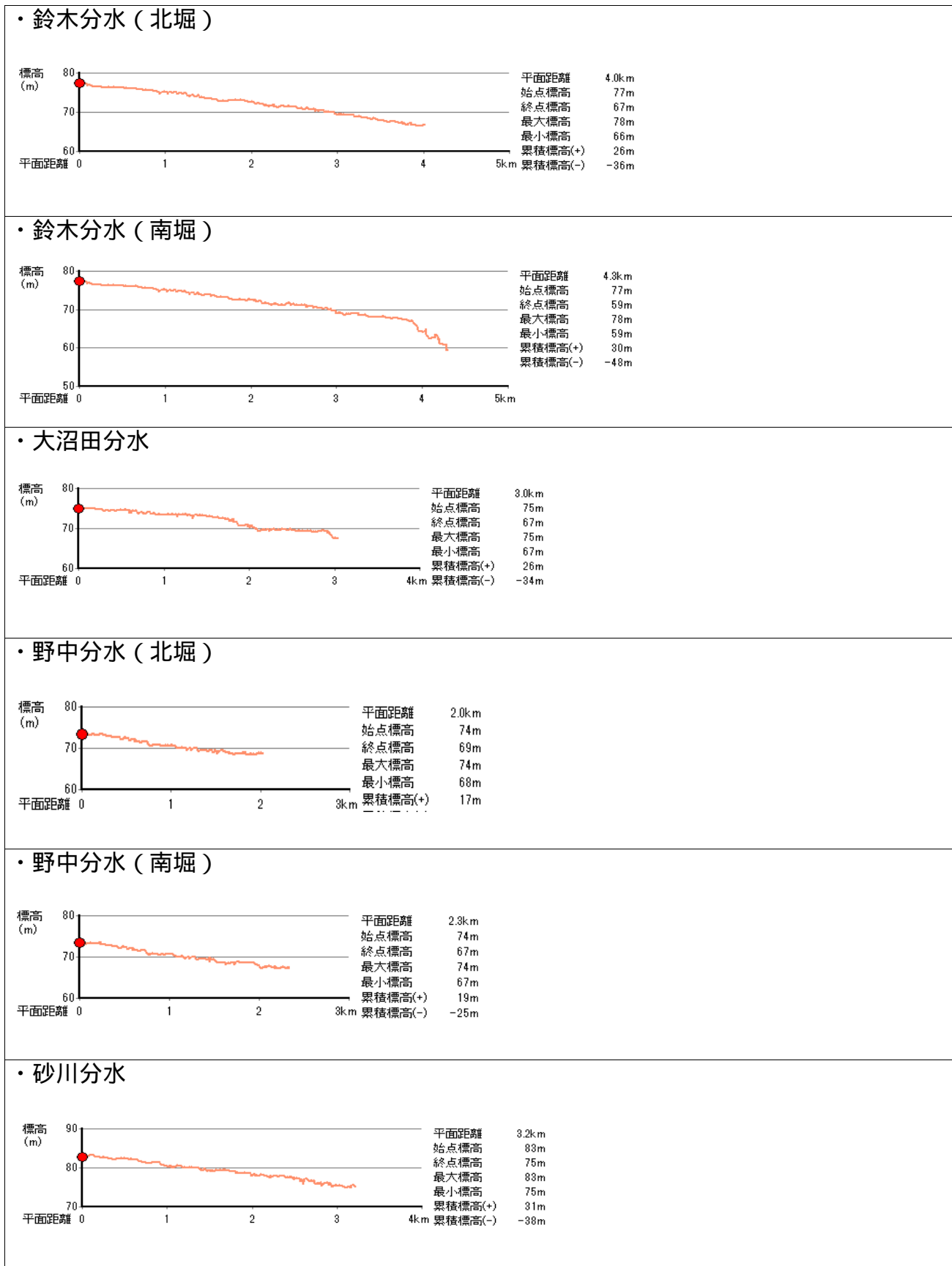
(2018年12月作図)

第1章 第5節でふれているように、9分水路網全長約50Kmが残っている。
 ここでは、縦軸に標高(m)、横軸に各分水の距離(m：市内部分)を比較できるように一覧とした。
 地形の違いと水の性質を知った先人の知恵があつてこそこの分水路である。
 ただし、南北分水路の平面距離は、各分水口からの距離とした。



(5) 9分水路高低差断面図

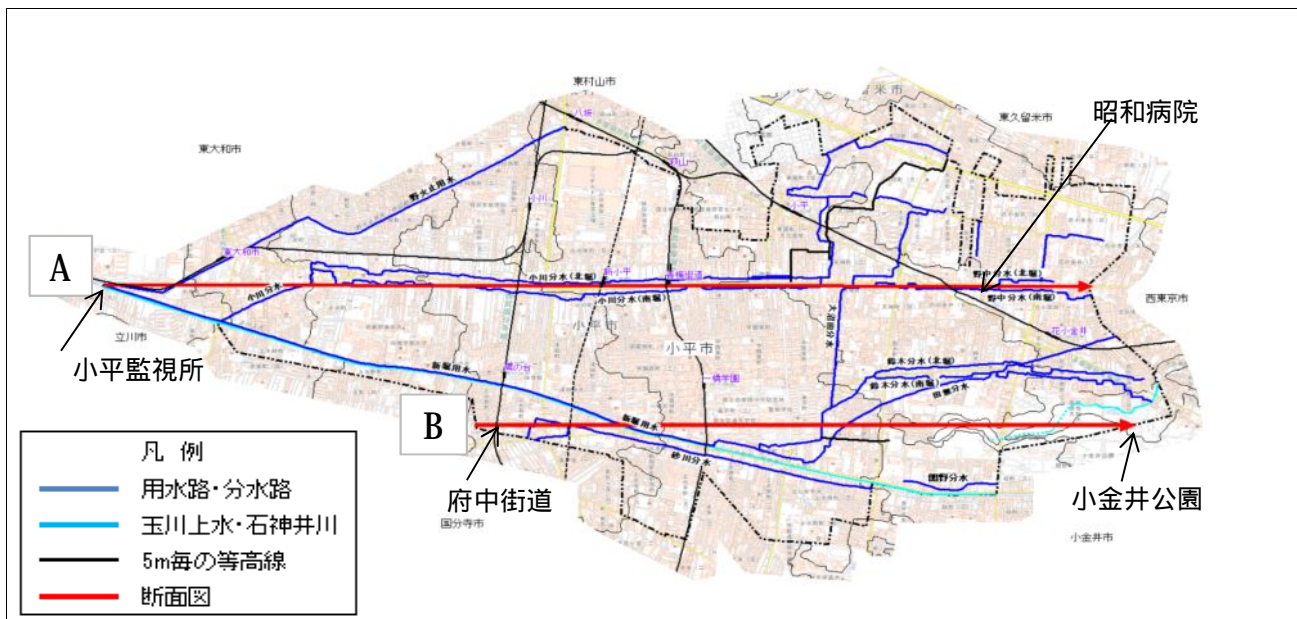
(2018年12月作図)



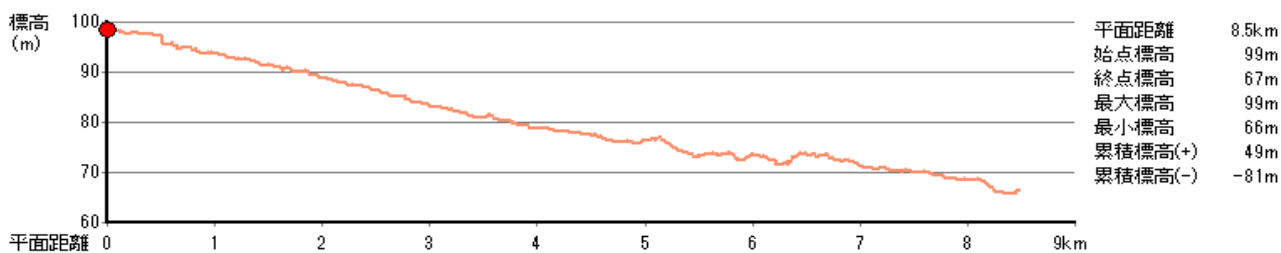
(6) 小平市東西断面図

(2018年12月作図)

小平市全景図の西端部中島町(立川市境)の標高は98m。東端部花小金井1丁目(西東京市境)の標高は70mである。ほぼ西高東低の標高差のある地形である。ここでは、東西Aライン(青梅街道沿いの断面、小平監視所～昭和病院～花小金井2丁目西東京市境)、東西Bライン(府中街道～石神井川源流～小金井公園を含む断面)の微地形の変化を示した。縦軸は標高(m)、横軸は距離(m)を示す。

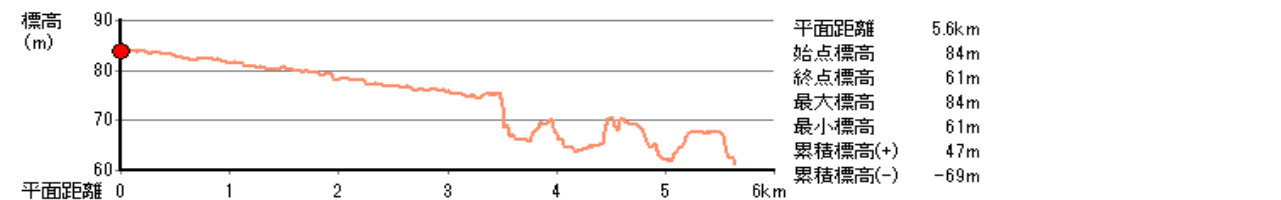


A 小平監視所～昭和病院



小平監視所～ 野火止用水～ 小川分水～ 西武国分寺線～ 青梅街道駅～
 天神町交差点～ 昭和病院

B 府中街道～小金井公園



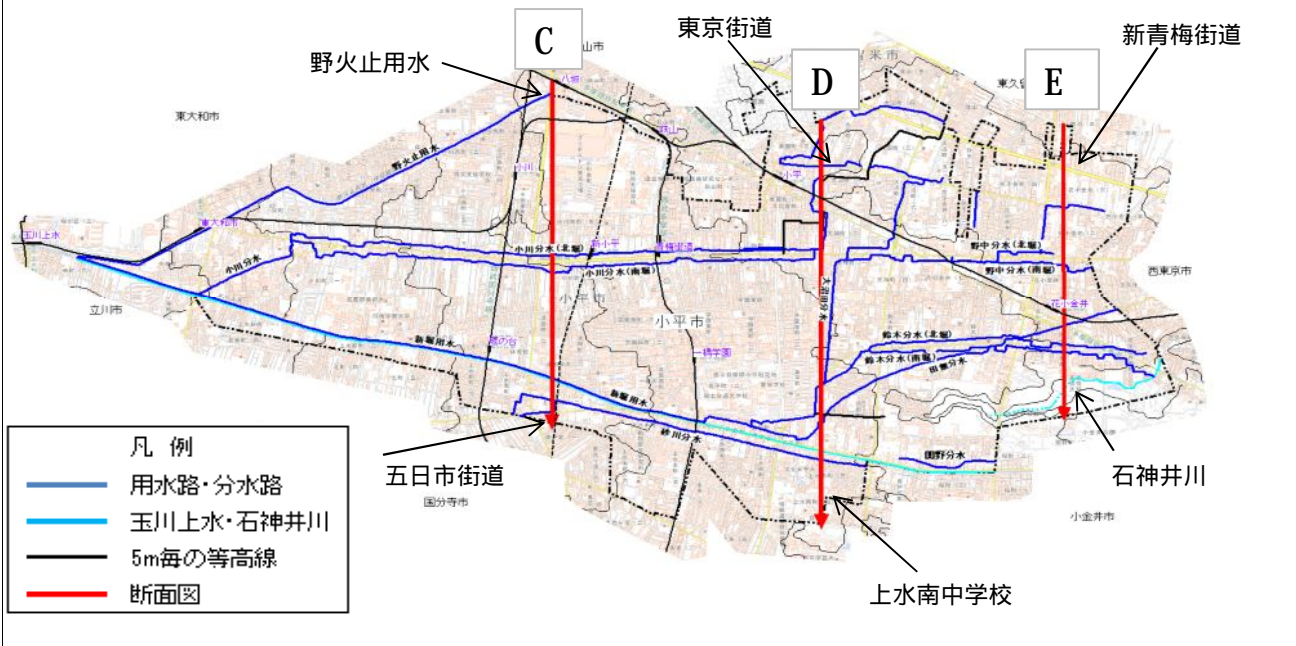
府中街道～ 玉川上水～ 西武多摩湖線～ 田無分水～ 鈴木遺跡～
 石神井川～ 小金井公園

(7) 小平市南北断面図

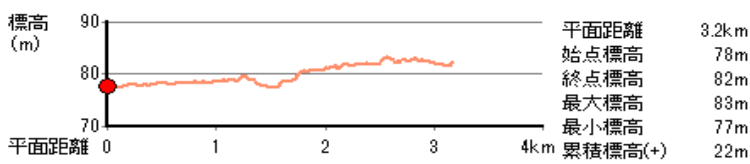
(2018年12月作図)

南北断面C, D, Eラインを記す。Cライン(野火止用水~五日市街道)、Dライン(東京街道~上水南中学校)、Eライン(新青梅街道~石神井川)の微地形の変化を示す。縦軸は標高(m)、横軸は距離(m)を示す。

小平市の地図

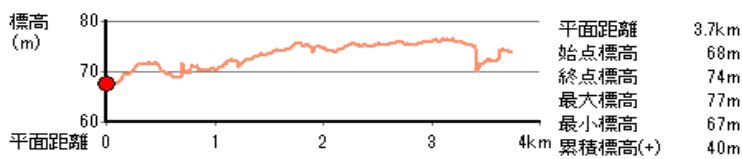


C 野火止用水~五日市街道



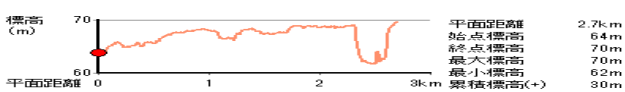
野火止用水 ~ ブリジストン東京工場 ~ 青梅街道 ~ 鷹の街道 ~ 五日市街道

D 東京街道~上水南中学校



東京街道 ~ あじさい公園 ~ 天神町交差点 ~ 鈴木分水 ~ 田無分水 ~
玉川上水 ~ 上水南中学校

E 新青梅街道~石神井川



新青梅街道 ~ 東京街道 ~ 青梅街道 ~ 鈴木街道 ~ 石神井川

第4節 各分水路の調査報告

- (1) 野火止用水 (調査地点15)
- (2) 新堀用水 (調査地点23)
- (3) 小川分水 (調査地点50)
- (4) 田無分水 (調査地点11)
- (5) 鈴木分水 (調査地点27)
- (6) 関野分水 (調査地点5)
- (7) 大沼田分水 (調査地点13)
- (8) 野中分水 (調査地点11)
- (9) 砂川分水 (調査地点10)

分水路網調査報告書

分水路名	野火止用水		調査期間	2018年 4月 ~ 2018年12月															
開始地点	小平市中島町付近(立川市幸町)		北緯	35.730580	東経	139.423053													
			調査地点	32点	撮影枚数	61枚													
調査分水位置図																			
調査分水高低差図	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <tr> <td>平面距離</td> <td>4.5km</td> </tr> <tr> <td>始点標高</td> <td>99m</td> </tr> <tr> <td>終点標高</td> <td>78m</td> </tr> <tr> <td>最大標高</td> <td>99m</td> </tr> <tr> <td>最小標高</td> <td>77m</td> </tr> <tr> <td>累積標高(+)</td> <td>36m</td> </tr> <tr> <td>累積標高(-)</td> <td>-57m</td> </tr> </table>					平面距離	4.5km	始点標高	99m	終点標高	78m	最大標高	99m	最小標高	77m	累積標高(+)	36m	累積標高(-)	-57m
平面距離	4.5km																		
始点標高	99m																		
終点標高	78m																		
最大標高	99m																		
最小標高	77m																		
累積標高(+)	36m																		
累積標高(-)	-57m																		
調査分水概略	開削願済年・名称	1655年(承応4)・『上水記』では、野火留分水とある。																	
	分水の長さ	全長25Kmの内、小平市内は4.5Km流水有り。末端は新河岸川へ。																	
	開削願い者	老中松平伊豆守信綱																	
	開削時利用村	野火止村他 7村																	
	分水口サイズ内寸(縦×横)	1791年(上水記3巻) 6尺(約180cm)×2尺(約60cm) 1,200坪 1870年(東京市史稿) 1尺3寸×1尺5寸4分 200坪																	
野火止用水は、東京都水道局の小平監視所から東村山市や新座市などを通り、志木市の新河岸川(柳瀬川との合流付近)に注ぐ約25Kmの用水である。 承応4年(1655)開削当時、玉川上水から野火止用水への分水は約3割とされ、堀幅は3尺(90cm)だった。その後に、開削された小川分水などは堀幅1尺であったことから、その規模の大きさがうかがえる。 野火止用水の開削と同時に、川越藩では周囲の新田開発を行い生活が豊かになり、伊豆守にあやかって『伊豆殿堀』とも称されている。 今回の調査は、小平監視所(小平市中島町)から小平市小川東町2丁目「九道の辻」までの約4.5kmである。																			

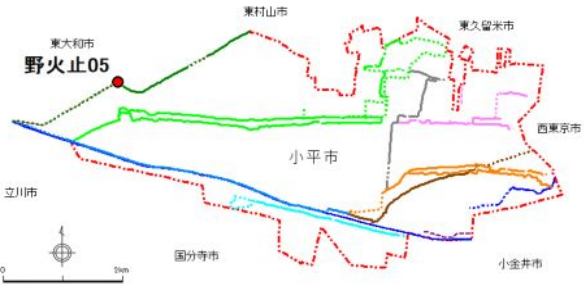




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	野火止03(1000m付近)	分水路名	野火止用水		
住所	小平市中島町 付近	北緯	35.732859	東経	139.434737
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【地中配管】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	1000m地点 西武拝島線東大和市駅南側駅舎フェンス沿い(写真156) 青梅街道交差点「青梅橋」を横断して「野火止放流口迄650m(徒歩10分)」の道標からさらに暗渠化された遊歩道「野火止用水歴史環境保全地域」(野火止用水緑道小平市小川町1-73)に入る 青梅橋付近、東村山浄水場導水路(写真157)・松の木通り車道(写真158)が併行する。「青梅橋」は、もともと野火止用水が青梅街道を横断するため架けられた橋。両岸は石積み幅2.5m、橋長4mの木造橋だったが昭和に入り架け替えられた。昭和38年(1963)5月東村山浄水場開設に伴い、玉川上水からの取水口が、上流からこの橋のすぐ下流まで暗渠化されたため、この橋は取り壊され名前だけが残っている。 南側に薬用植物園がある。				
写真番号156	写真番号157	写真番号158			
					

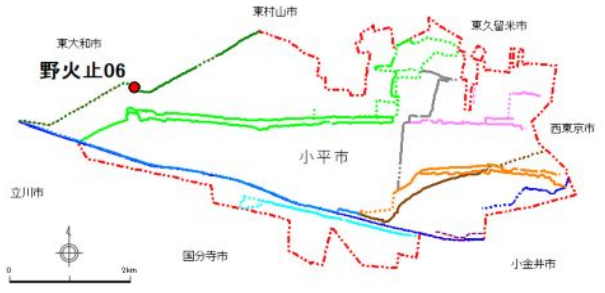

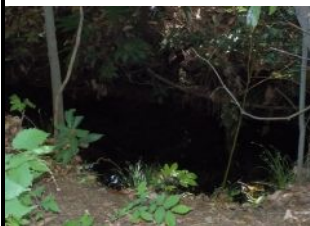

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤			
調査地点	野火止04(1500m付近)	分水路名	野火止用水			
住所	小平市栄町1丁目 付近	北緯	35.734958	東経	139.439069	
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【地中配管】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	11	cm	
コメント	1500m地点 ぐみ窪通り開始部(写真164) 「せせらぎ水路」の開始(写真160) その流れ(写真161・162) 野火止用水の暗渠化されている上部に緑地帯と開渠の「せせらぎ水路」が走る。「せせらぎ水路」幅165cm 水深11cm 開渠部分の延長 約620m 「せせらぎ水路」左岸は石積壁面、右岸にセキショウがはえている。ザリガニ多く生息。 「ホタルを大切に!このせせらぎにはホタルが棲んでいます。大きく育つまで見守って下さい。(東大和市環境部)」の看板あり。 「せせらぎ水路」の下に野火止用水が暗渠で流れていると思われる。					
写真番号164	写真番号160	写真番号161	写真番号162			


分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤
調査地点	野火止05(1800m付近)	分水路名	野火止用水
住所	小平市栄町1丁目 付近	北緯	35.736469
		東経	139.442329
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	1800m付近 東村山浄水場への導水路は、ここから北上(写真167) 「野火止緑地」が始まる。「せせらぎ水路」が終わる。 「せせらぎ水路」の終了(写真168) 遊歩道の小道が分岐して一つは東村山浄水場への導入路の北上域、もう一方の右方向は「野火止用水路のルート」 放流口の場所(写真171) 「野火止用水清流復活(昭和59年7月)」の碑あり。 これより野火止用水路に沿って、さらに「NO.2雑木林の道」の標示板が続く。		
写真番号167	写真番号168	写真番号171	
			

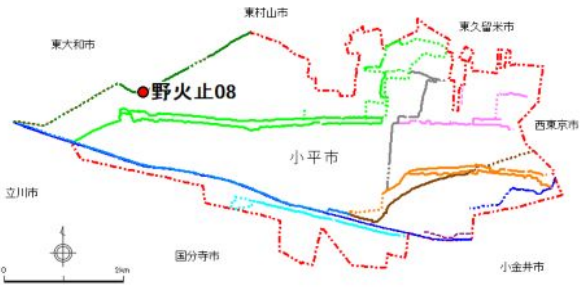



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	野火止06(2000m付近)	分水路名	野火止用水		
住所	小平市栄町2丁目 付近	北緯	35.735632	東経	139.443980
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm		
コメント	2000m地点 「野火止橋」上流(写真183) 右岸の柵が崩れかかっている(写真176)				
写真番号183	写真番号176				
					





分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	野火止07(2100m付近)	分水路名	野火止用水		
住所	小平市栄町2丁目 付近	北緯	35.735290	東経	139.444722
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	310 cm	
コメント	2100m地点 「野火止橋」下流左岸(写真186・181) 「野火止橋」(平成元年2月完成、橋幅6.8m) 「野火止橋から九道の辻まで2200m」の標示板あり 橋から100m右岸の柵が倒れそうになっていた。 「野火止橋」の左側に「用水工夫」のブロンズ像(1993年1月27日設置)の説明板(東大和市美術工芸品設置事業の一環)(写真7906・179)				
写真番号186	写真番号181	写真番号179	写真番号7906		
					
					

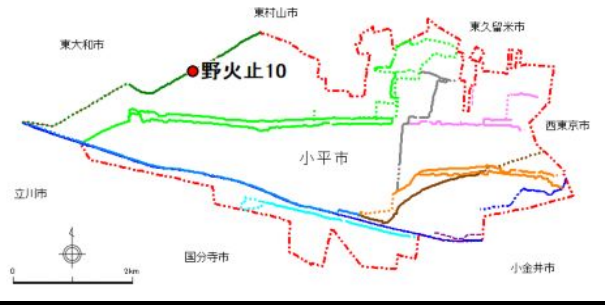




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	野火止08(ふれあい橋付近付近)	分水路名	野火止用水		
住所	小平市栄町2丁目 付近	北緯	35.735021	東経	139.446948
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	ふれあい橋付近 (写真188上流・190下流) 「ふれあい橋」木製(平成5年3月竣工、橋長7m・幅195cm・両岸石積み) 一見、親水公園風の場所				
写真番号188	写真番号190				
					

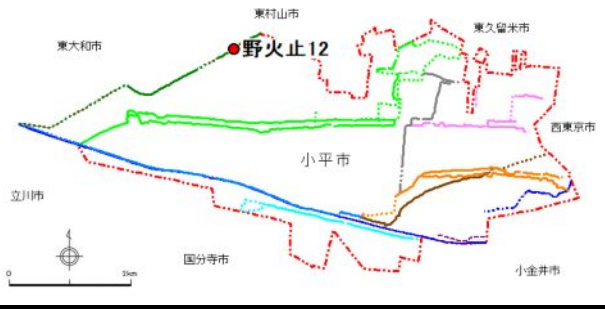

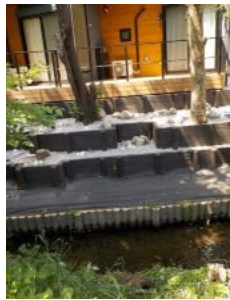

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	野火止09(2500m付近)	分水路名	野火止用水		
住所	小平市栄町3丁目 付近	北緯		東経	139.448622
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	20 cm	
コメント	2500m地点 「どんぐり橋」地点(写真400) 上流の東野火止橋の西側は「ゆりのき通り」(東大和市)、東側は「こぶし通り」(小平市)を渡ってすぐ東側 橋が続く。 「ほのぼの橋」(橋長5.2m・橋幅6m・水深15cm)下流(写真197) 2700m地点 「さいわい橋」(平成7年2月竣工・橋長4.6m) 「こなら橋」(橋長6.2m・橋幅1.97m・コンクリート製・水深34cm) 下流(写真199) 「土橋」(橋長4.6m・橋幅4.4m・コンクリート製) 「ほのぼの橋」~「さいわい橋」の間付近(写真198)				
写真番号400	写真番号197	写真番号198	写真番号199		
					

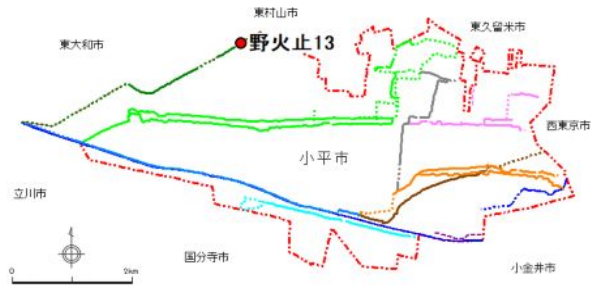



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	野火止10(3000m付近)	分水路名	野火止用水		
住所	小平市小川西町1丁目 付近	北緯	35.738275	東経	139.454352
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【地中配管】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	3000m地点(写真206)のすぐ左岸側マンション前に「公有土地水面利用許可 東村山市」の表示あり。(マンションの入口スペースとなっている) 「富士見橋」北側は、東村山市富士見町2丁目(写真207)小平市側は「元中宿通り」となり、東村山市側の道は「学園通り」 ここから暗渠になる(写真208)				
写真番号206	写真番号207	写真番号208			
					

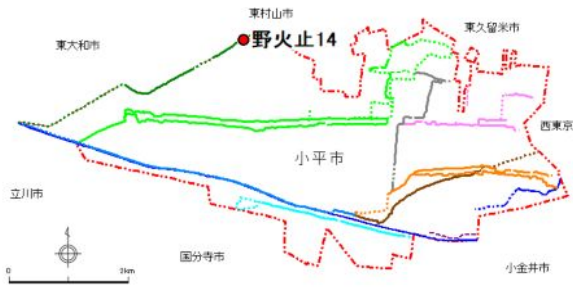


分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土)9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	野火止12(3500m~4000mの間付近)	分水路名	野火止用水		
住所	小平市小川西町3丁目 付近	北緯	35.741839	東経	139.462034
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無				
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	「中宿橋」下流左岸(写真219) 「中宿橋」(平成11年3月竣工) 小川西町3-9辺りの分水路左岸壁面は土地3段に整備。 「第二富士見橋」のすぐ下流から開渠となる(東村山市富士見町1-12)(写真213)				
写真番号219	写真番号213				
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	野火止13(4000m付近)	分水路名	野火止用水		
住所	小平市小川西町3丁目 付近	北緯	35.742547	東経	139.463279
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無				
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【土囊】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	4000m地点 「人道橋」(橋名の記載無し)(写真220) 北側は「東村山市富士見町1丁目」にあたる その下流側(写真222)				
写真番号220	写真番号222				
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤			
調査地点	野火止14(4110m付近)	分水路名	野火止用水			
住所	小平市小川西町3丁目 付近	北緯	35.743114	東経	139.464571	
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水路壁面状況						
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm		
コメント	西武国分寺線踏切地点 ... 鉄路敷はレンガ製(写真223) 南側に「小川駅」がある。					
写真番号223						
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤
調査地点	野火止15(4380m付近)	分水路名	野火止用水
住所	小平市小川東町2丁目 付近	北緯	35.743988
		東経	139.466508
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 cm
	府中街道に接する地点(4380m) 九道の辻の府中街道の橋(写真225) 「天王橋」交差点は、九道の辻(八坂)。野火止用水小平市域の終端部となる。 府中街道を横切る道は「東京街道」に通じる。 天王橋上流より(写真226) 天王橋上流右岸から左岸を撮影(写真224) 「野火止用水歴史環境保全地 小平市」の標示板あり。 北東方向に西武多摩湖線「八坂駅」がある。 「九道の辻」とは東村山市の南端にあたり、その昔、この付近は鎌倉街道の ほぼ中間地点。鎌倉まで18里(72Km)、前橋まで18里あった。 江戸、引股、宮寺、秩父、御窪、大山、清戸、奥州、鎌倉の九つの道がこの 地点で分岐していたことからつけられたと言われている。		
写真番号225	写真番号226	写真番号224	
			

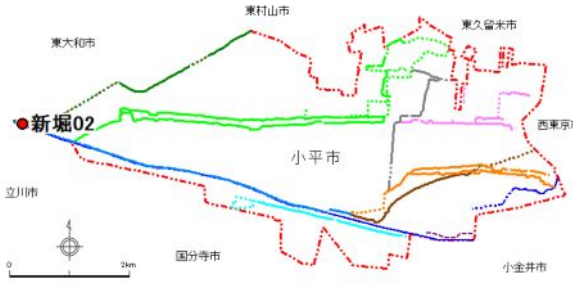



分水路網調査報告書

分水路名	新堀用水		調査期間	2018年 4月 ~ 2018年12月															
開始地点	小平市中島町付近(立川市幸町)		北緯	35.7306772	東経	139.422026													
			調査地点	23点	撮影枚数	141枚													
調査分水位置図																			
調査分水高低差図	<table border="1" style="float: right; margin-top: 10px;"> <tr><td>平面距離</td><td>5.9km</td></tr> <tr><td>始点標高</td><td>98m</td></tr> <tr><td>終点標高</td><td>77m</td></tr> <tr><td>最大標高</td><td>99m</td></tr> <tr><td>最小標高</td><td>77m</td></tr> <tr><td>累積標高(+)</td><td>33m</td></tr> <tr><td>累積標高(-)</td><td>-53m</td></tr> </table>					平面距離	5.9km	始点標高	98m	終点標高	77m	最大標高	99m	最小標高	77m	累積標高(+)	33m	累積標高(-)	-53m
平面距離	5.9km																		
始点標高	98m																		
終点標高	77m																		
最大標高	99m																		
最小標高	77m																		
累積標高(+)	33m																		
累積標高(-)	-53m																		
調査分水概略	開削願済年・名称	1870年(明治3)・『上水記』には、記載されていない。																	
	分水の長さ	小平市内は、6.1 km。流水有り。四水路に分水。																	
	開削主体	当時の東京府																	
	統合された分水	野火止・小川・大沼田・野中・田無・鈴木・関野・千川																	
	開削目的	玉川上水の通船計画に基づき、小川分水等の取水口統合のため飲料水、生活用水																	
	<p>新堀用水は、玉川上水の北側に沿って流れている。現在も、多摩川の水が開渠で流れている。</p> <p>明治3年(1870)3月、分水口改正(統合)が発表され、南側は砂川分水に、北側は新堀用水に統合されることになった。</p> <p>これは、主として玉川上水の通船計画に基づくもので、野火止・小川・大沼田・野中・田無・鈴木・関野・千川の8分水の取水口が、新堀用水へと統合された。分水口統合は当時慢性化していた水不足対策との狙いもあった。</p> <p>通船事業終了後、野火止用水と千川上水の分水口は、玉川上水に戻された。</p>																		

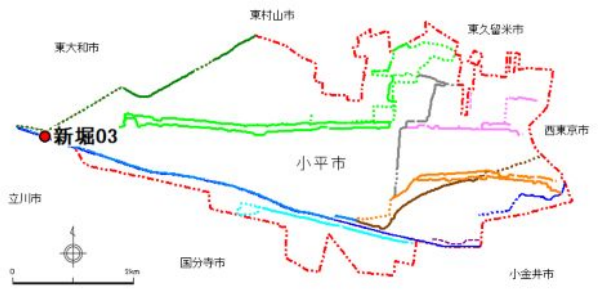


分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀01 (0m スタート地点付近)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市中島町付近 (立川市幸町)	北緯	35.7306772	東経	139.422026
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋(上水小橋) 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【地中配管】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	東京都水道局小平監視所(玉川上水分岐口からの分水)(写真6474) 玉川上水路から小平監視所のスクリーンを通り抜け暗渠化の「新堀用水路」へ。 新堀用水の掘削図(写真6478) 暗渠部開始(写真255・256)				
写真番号6474	写真番号6478	写真番号255	写真番号256		

分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀02 (0m~500m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市中島町付近	北緯	35.7300557	東経	139.424475
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無				
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【地中配管】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm	
コメント	暗渠部上部の小平市マンホール(暗渠部上部) 直径112cm (写真6483) 緑道沿いは、玉川上水の左側 御影石の「水道用地」標示の埋め込み杭(頭部は朱塗り)を発見 暗渠部上部の杭(水道用地)(写真6482)				
写真番号6483	写真番号6482				
					



分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀03 (500m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市中島町付近	北緯	35.729011	東経	139.428088
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【地中配管】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm	
コメント	500m地点 小平市清掃事務所付近(写真257) (この奥北側にある) 11月にはフユシャク(蛾類)が飛んでいる。				
写真番号257					
					

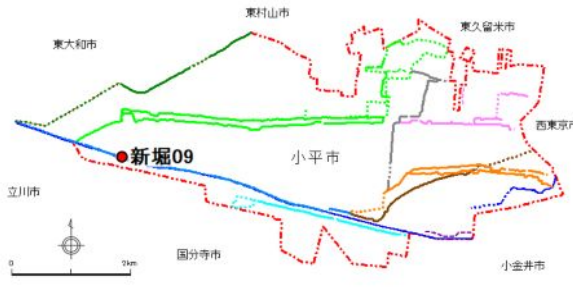


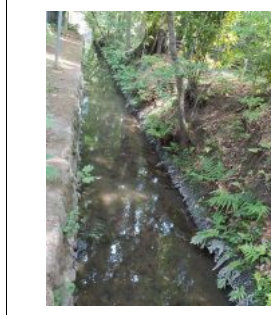
分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤
調査地点	新堀05(胎内堀杭口(出口))	分水路名	新堀用水
住所	小平市中島町付近	北緯	35.7277611
		東経	139.432665
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
	 		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	<p>ほっこぬき坑口(出口)(写真1864) 別名胎内堀・たぬき堀坑口 地下約5~6mの4ヶ所目の鉄柵から東方下流約15m程で開渠となる。開渠坑口の「改修工事標識」あり。</p> <p>出口下流部分(写真6495)</p> <p>胎内堀改修工事説明図(写真6499)</p>		
写真番号1864	写真番号6495	写真番号6499	
			

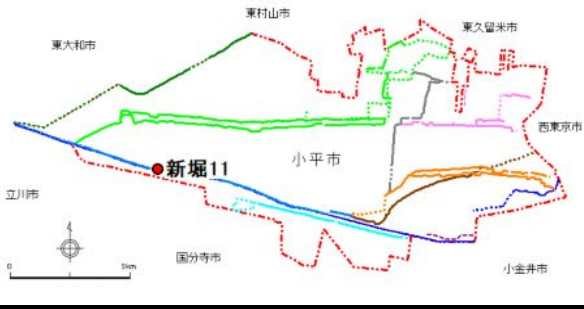



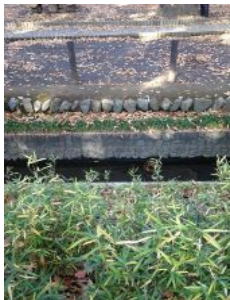
分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時		調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀07 (1000m~1500mの間)		分水路名	新堀用水		
住所	小平市小川町1丁目付近		北緯	35.7273369	東経	139.434220
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 地中配管 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm		
コメント	「小川橋」下流から暗渠開始(写真16) 「小川橋」~「さつき橋」暗渠出口(写真6503) 「森田オープンガーデン農地」東端部で開渠になる。 開渠部壁面北側(左岸)のみ整備され、石積みとコンクリートによる壁面が続く。右岸壁面には、土止め用鉄板が入っている。 立川通りを横断し「小川橋」東方を下流域へ。 「さつき橋」の下流60m先付近から開渠になる。 「さつき橋」下流側 (写真6504)					
写真番号16	写真番号6503		写真番号6504			
						

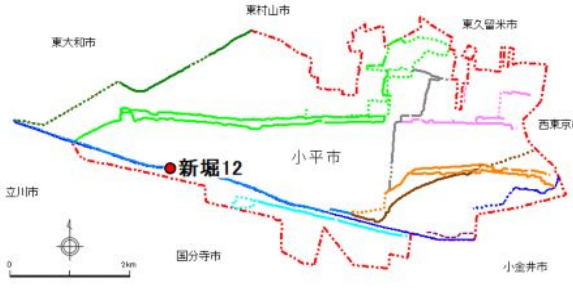





分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀09 (2000m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市小川町1丁目付近	北緯	35.7250483	東経	139.442693
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	2000m地点 「小平西高校」通用門から東端部(写真401・402) 小平西高校側壁面は、遊歩道として整備されているが、土手には全く雑草も植栽もない。 上流側に「くぬぎ橋」(玉川上水架橋)。 下流側に「百石橋」(玉川上水と新堀用水共有架橋)あり。				
写真番号401	写真番号402				
					





分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀11 (2500m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市小川町1丁目付近	北緯	35.7235489	東経	139.449372
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	2500m地点 朝鮮大学校(東京朝鮮学園)~「上水公園」西端部付近の壁面(写真6514・6515・6516) 「上水公園」域の水路部分は親水公園風壁面(薄い割石壁面構造) 橋は上流方向に「寺橋」(玉川上水架橋)あり。北側に「東京朝鮮学園」。				
写真番号6514	写真番号6515	写真番号6516			
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀12 (2500m~3000mの間)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市小川町1丁目付近	北緯	35.7233632	東経	139.451704
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 地中配管 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	「上水公園」付近 空爆地点2ヶ所目の崩壊(写真6517) 「上水公園」東端部付近の一部は、米軍爆撃崩壊の2ヶ所目の地点で暗渠化。 崩壊部暗渠(写真6518・390)、崩壊部を補強した水路(写真6519) 玉川上水架橋に「いこい橋」あり。				
写真番号6517	写真番号6518	写真番号390	写真番号6519		
					

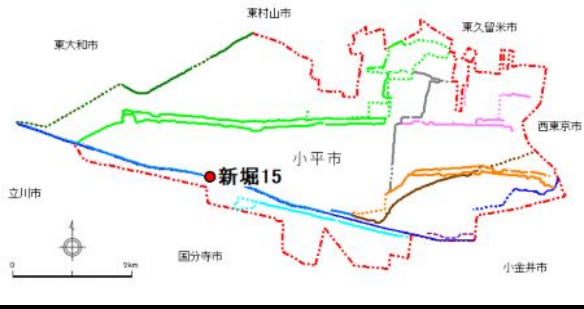



分水路網調査報告書

調査年月日	2017年11月28日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀13 (3000m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市小川町1丁目付近	北緯	35.7231741	東経	139.453288
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	20 cm		
コメント	3000m地点 創価学園栄光橋下流側(写真396) 3000mの下流方向「くさぼけ橋」下流(写真268) 北側に創価学園あり。				
写真番号396	写真番号268				
					

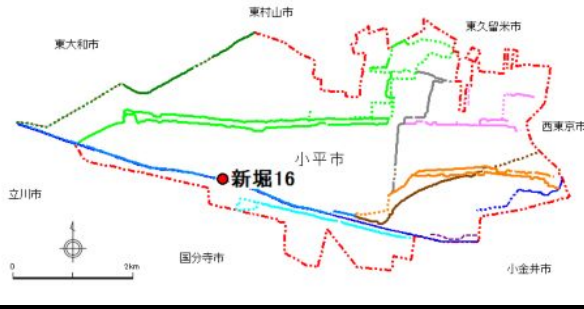



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀14 (3260m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市たかの台付近	北緯	35.7227522	東経	139.456081
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無				
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 不明 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明) 回し堀は廃滅				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10~20 cm	
コメント	「新小川橋」(玉川上水架橋)の上流域 「小島水車」回し堀分水口跡(写真7527) 「新小川橋」(平成14年3月竣工)「すいしゃ橋」(昭和60年8月竣工)いずれも玉川上水架橋 この下流は、一部暗渠となる(約150m程) 「のあざみばし」下流約20m地点付近に「小島水車」の分水口跡と回し堀跡(写真77・81・79) 「小島水車」の分水口跡と回し堀跡地は元小島精米店、現在のローソン裏手の雑木林の中にある。				
写真番号7527	写真番号77	写真番号81	写真番号79		
					

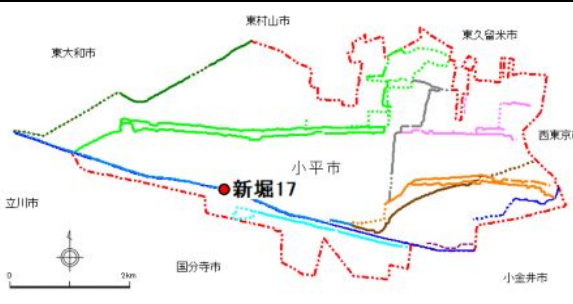


分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀15 (3500m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市たかの台付近	北緯	35.7222468	東経	139.458827
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 地中配管 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm	
コメント	3500m地点 「新小川橋」~西武国分寺線 暗渠から開渠となる(写真82・83・85) (開口部幅180cm・土手幅350cm) 分水路左岸は石積みコンクリートの壁面、右岸は自然護岸。(水路深2m~2.5m) ヤマブキ・アジサイ・オカメザサ・アオキ・コナラの植栽あり。 玉川上水オープンギャラリー跡地(現在撤去)の前を通過するとその先から再び開渠。				
写真番号82	写真番号83	写真番号85			
					

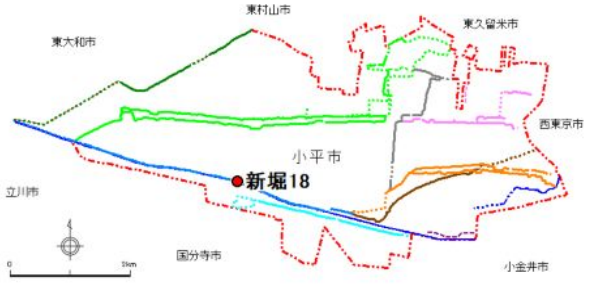




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀16 (3500m~4000mの間)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市たかの台付近	北緯	35.7219755	東経	139.460862
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm	
コメント	西武国分寺線の旧川越鉄道開業当時の新堀用水のレンガ橋台(写真86) 同 玉川上水のレンガ橋台(写真90) 西武国分寺線脇(上流側車道)架橋は「鷹の橋」(玉川上水架橋と新堀用水)昭和34年初めの檜組(ろぐみ)式木製架設(橋幅1.8m)から昭和40年にコンクリート製になる(長さ13m・幅4.5m) 北側に西武国分寺線「鷹の台駅」があり、この橋の名称は「鷹の台駅に通ずる橋」ということから命名された。(小平市30年史より)				
写真番号86	写真番号90				
					

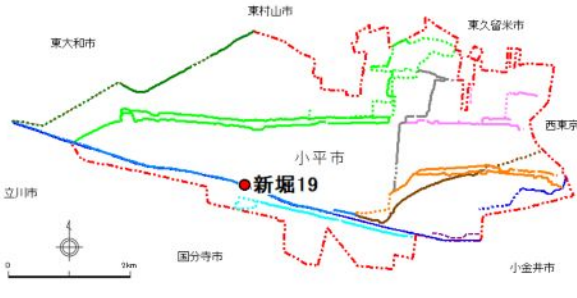


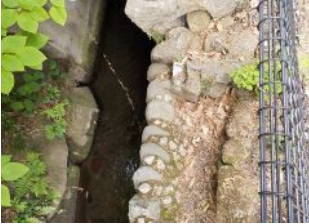

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀17 (3500m~4000mの間)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市津田町付近	北緯	35.7217711	東経	139.461743
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無				
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm	
コメント	西武国分寺線~「久右衛門橋」間の中央公園脇水路「木もれ日の径」(写真7909・7381) 分水路架橋「うさぎ橋」(平成13年11月改修、長さ4m・幅1.8m)から公園の進入路に沿った水路は、木製の壁面が続く。 植栽は、アオキ・ヤツデ・エゴ・コナラ・ネズミモチ・オカメザサなど。 新堀用水の標示板(写真7382) 北側に小平中央公園あり。 中央公園駐車場側土手に沿ってシュロ・ヒサカキ・アオキ・コナラ・イヌツゲ・クヌギが植栽。				
写真番号7909	写真番号7381	写真番号7382			
					





分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀18(4000m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市津田町付近	北緯	35.7212543	東経	139.464042
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無				
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm	
コメント	4000m地点 府中街道と久右衛門橋(玉川上水架橋)の手前上流部(写真94) 4000m地点よりさらに上流部(写真7914・92)				
写真番号94	写真番号7914	写真番号92			
					

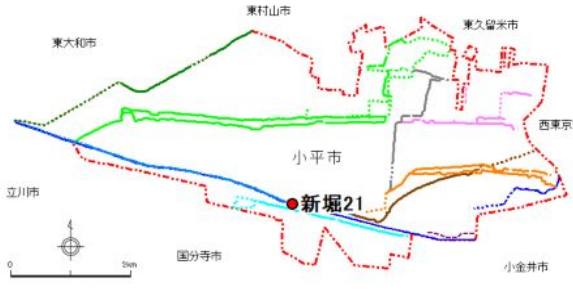





分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀19(4000m~4500mの間)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市津田町付近	北緯	35.7209381	東経	139.465048
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深		10 cm
コメント	「久右衛門橋」から下流域、「津田塾大学敷地南側」に分水路から排出される坑口跡複数あり(現在不使用か)(写真96・95) 「鎌倉橋親水エリア」下流にモニユメントの跡あり(写真7353) JR武蔵野線トンネルが地下を横断している。 JR武蔵野線地下トンネル内から排出された地下水放流口跡あり(写真99) 北側に津田塾大学あり。 夏に「ハグロトンボ」が飛ぶ。				
写真番号96	写真番号95	写真番号99	写真番号7353		
					

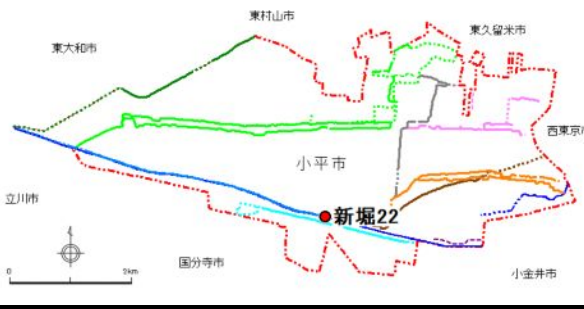





分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時		調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀20 (4500m)		分水路名	新堀用水		
住所	小平市津田町付近		北緯	35.7194995	東経	139.469289
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10~20 cm		
コメント	4500m地点 都営津田町アパート北側 玉川上水架橋「鎌倉橋」エリア下流域から「小松橋」付近(写真103・101) 「鎌倉橋」(玉川上水架橋)付近からの分水路壁面は比較的大きめの石積みのみ。その先、下流域は素掘り。 「小松橋」付近の用水路上流右岸はケヤキの大木の根が張り壁面化している(写真104) 「小松橋」下流域に玉川上水エリアとして「小川水衛所跡」(親水公園)がある。					
写真番号103	写真番号101		写真番号104			
						

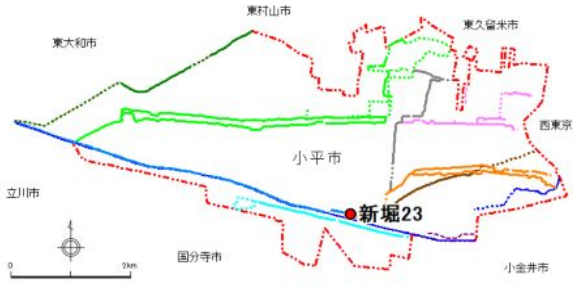




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀21 (5000m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市学園西町1丁目付近	北緯	35.7179215	東経	139.474217
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無				
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm	
コメント	5000m地点 「商大橋」上流域付近(写真106・107・108) 「商大橋」(玉川上水架橋・平成2年3月)につながる無名の分水路架橋あり。 小金井桜No.14あたりから開渠(分水路幅90cmと狭い) 北側に一ツ橋大学あり。 上流側に小川水衛所跡あり。その部分は暗渠(写真394)				
写真番号107	写真番号108	写真番号106	写真番号394		
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀22 (5500m)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市学園西町1丁目付近	北緯	35.7169632	東経	139.479466
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 地中配管 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	10~20 cm	
コメント	5500m地点 西武多摩湖線上流部から小金井桜No.37付近より下流域へ「清水水車」の分水口跡と橋がある(写真110・111・7360) 小金井桜No.37辺りの分水路に簡易架橋(無名 長さ1.8m・幅1.12m~1.5m)あり。玉川上水緑道から左手の道路に出るための橋と考えられる。 桜No.39辺りから再び暗渠となり、約10m程続いて開渠となる。 下流方向に「桜橋」と「西武多摩湖線」が渡る。この先から西武多摩湖線を越えた下流部までしばらく暗渠(写真7265) 北側に「一橋病院」あり。				
写真番号110	写真番号111	写真番号7360	写真番号7265		
					

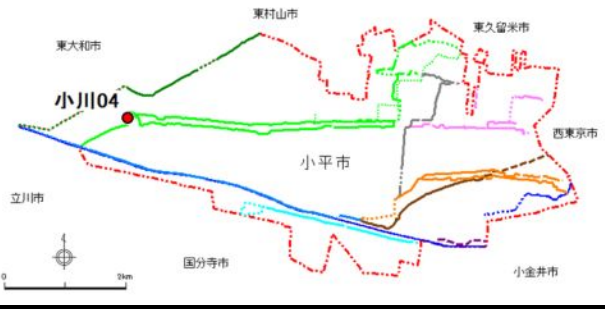
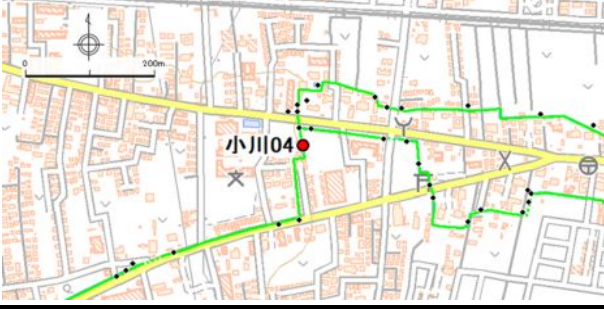
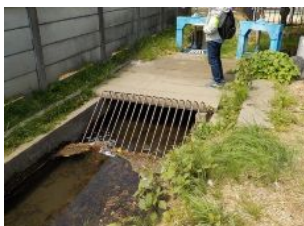


分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月24日(火) 9時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	新堀23(終端部付近)	分水路名	新堀用水		
住所	小平市喜平町2丁目付近	北緯	35.7165463	東経	139.484805
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	10~20 cm	
コメント	玉川上水から離れて国交大通り(建大通り)の南方の流れで新堀用水終端部となる(写真126・123・125) 喜平町分岐水門。左は鈴木分水、直進は田無分水(水門なし)。どちらも水流有り。 少し上流部に旧分水口跡が残っていた。(写真7778)				
写真番号126	写真番号123	写真番号125	写真番号7778		
					

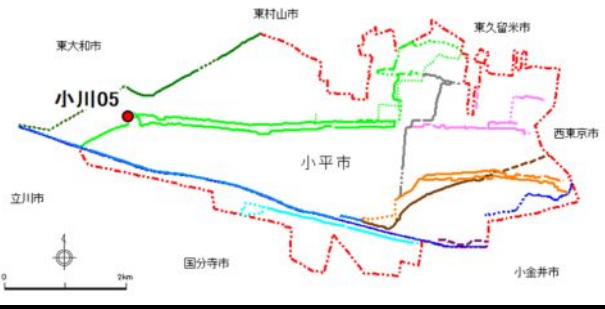
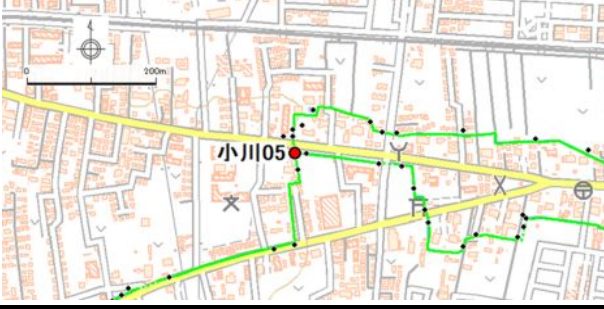


分水路網調査報告書

<p>分水路名</p>	<p>小川分水</p>		<p>調査期間</p>		<p>2018年 4月 ~ 2018年12月</p>																													
<p>開始地点</p>	<p>小平市中島町 付近</p>		<p>北緯</p>	<p>35.7274129</p>	<p>東経</p>	<p>139.434029</p>																												
			<p>調査地点</p>	<p>209点</p>	<p>撮影枚数</p>	<p>525枚</p>																												
<p>調査分水位置図</p>																																		
<p>調査分水高低差図</p>	<p>北堀</p> <table border="1" style="float: right; margin-top: 10px;"> <tr><td>平面距離</td><td>8.8km</td></tr> <tr><td>始点標高</td><td>95m</td></tr> <tr><td>終点標高</td><td>66m</td></tr> <tr><td>最大標高</td><td>95m</td></tr> <tr><td>最小標高</td><td>66m</td></tr> <tr><td>累積標高(+)</td><td>71m</td></tr> <tr><td>累積標高(-)</td><td>-100m</td></tr> </table> <p>南堀</p> <table border="1" style="float: right; margin-top: 10px;"> <tr><td>平面距離</td><td>5.9km</td></tr> <tr><td>始点標高</td><td>95m</td></tr> <tr><td>終点標高</td><td>73m</td></tr> <tr><td>最大標高</td><td>95m</td></tr> <tr><td>最小標高</td><td>72m</td></tr> <tr><td>累積標高(+)</td><td>46m</td></tr> <tr><td>累積標高(-)</td><td>-69m</td></tr> </table>						平面距離	8.8km	始点標高	95m	終点標高	66m	最大標高	95m	最小標高	66m	累積標高(+)	71m	累積標高(-)	-100m	平面距離	5.9km	始点標高	95m	終点標高	73m	最大標高	95m	最小標高	72m	累積標高(+)	46m	累積標高(-)	-69m
	平面距離	8.8km																																
始点標高	95m																																	
終点標高	66m																																	
最大標高	95m																																	
最小標高	66m																																	
累積標高(+)	71m																																	
累積標高(-)	-100m																																	
平面距離	5.9km																																	
始点標高	95m																																	
終点標高	73m																																	
最大標高	95m																																	
最小標高	72m																																	
累積標高(+)	46m																																	
累積標高(-)	-69m																																	
<p>調査分水概略</p>	<p>開削願済年・名称</p>	<p>1657年(明暦3)・『上水記』では、小川村分水とある。</p>																																
	<p>分水の長さ</p>	<p>青梅街道の南北を合わせ17.1Km。流水有り。末端は、黒目川へ</p>																																
	<p>開削願い者</p>	<p>小川九郎兵衛(岸村・現武蔵村山市出身)</p>																																
	<p>開削時利用村</p>	<p>小川村</p>																																
	<p>分水口サイズ 内寸(縦×横)</p>	<p>1791年(上水記3巻) 1尺(30cm)四方 100坪 1870年(東京市史稿) 7寸×7寸7分 54坪</p>																																
<p>現在の小川分水は、玉川上水の北側に並行して流れる新堀用水から取水されている。分水口は2度ほど付け替えられており、明暦2年(1656)開削当時、玉川上水の小平監視所から約400m下流、東小川橋付近に分水口が設けられて玉川上水から直接取水され、その大きさは1尺(30cm)四方ほどだった。文化4年(1807)に反対の上流側100mほどの場所に付け替えられ、更には明治3年(1870)に玉川上水の通船計画に基づく分水口改正(統合)により開削された新堀用水からの分水に改められた。</p>																																		

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月8日(日) 10時~13時	調査者	渡部・鈴木・久保田・櫻田・亀岡・藤原・安藤		
調査地点	小川04	分水路名	小川分水		
住所	小平市小川町1丁目 付近	北緯	35.7316339	東経	139.442722
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	1000m地点 南北分岐水門手前南側(写真58) 小川分水南北分岐水門 上流より(写真60) 分岐水門左手から小川分水本流の流入口(幅 166cm・水深 29cm) 水門から北方向(北ルート水路幅 70cm・水深 8cm) (南ルートは、水路幅 70cm・水深 13cm) 左 北堀、右 南堀 1000m地点より上流部の立川通りから(北上)小川分水が南北に分岐する手前のバス車庫~公会堂前(写真42・45)				
写真番号58	写真番号60	写真番号42	写真番号45		
					

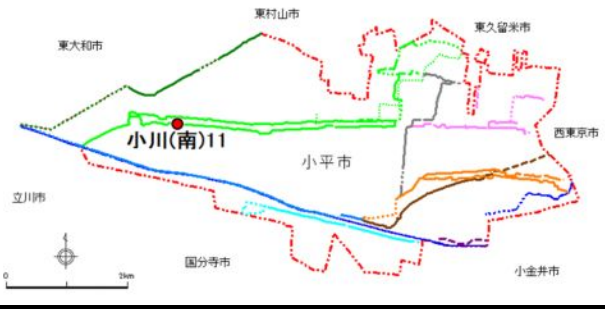



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月8日(日) 10時~13時	調査者	渡部・鈴木・久保田・櫻田・亀岡・藤原・安藤		
調査地点	小川05	分水路名	小川分水		
住所	小平市小川町1丁目 付近	北緯	35.7318709	東経	139.442674
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	南北分岐箇所下流より(写真56) 左手は南堀、右手は北堀。 北堀の水門(写真59)				
写真番号56	写真番号59				
					

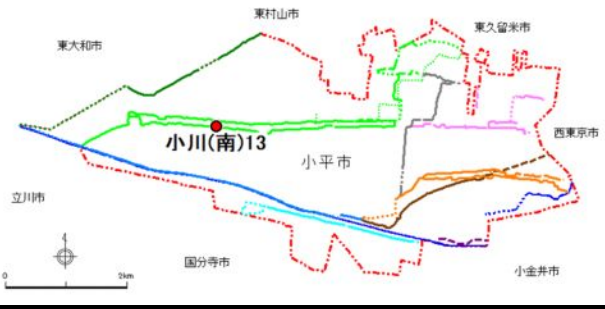


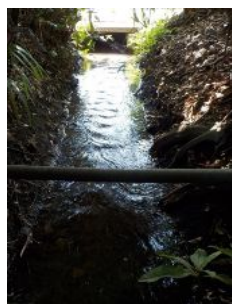

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月26日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・安藤
調査地点	小川(南)07	分水路名	小川分水(南堀)
住所	小平市小川町1丁目 付近	北緯	35.7316805
		東経	139.444513
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	日枝神社西側にある「小川緑地」(写真7339) 分水がピオトープとして緑地内に引き入れられ弧を描く形で流れ、左折して再び分水路本流に戻っている。(回し堀形式) ピオトープの植栽は、オモダカ類、ミソハギ、モミジ、ミズバショウ。 昆虫類は、シオカラトンボ、ハグロトンボ、アメンボなどが生息。 小川緑地内への分水入口(写真7340・7341) 小川緑地内からの分水出口(写真7342)		
写真番号7339	写真番号7340	写真番号7341	写真番号7342
			





分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月26日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・安藤
調査地点	小川(南)11	分水路名	小川分水(南堀)
住所	小平市小川町1丁目 付近	北緯	35.7306831
		東経	139.451442
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	1000m地点 「内藤歯科医院」西方の道(写真7298) 地点の上流側に南北の敷地に架かる「たからばし」(簡易私設)の表示あり。 (水路敷幅400cm・水路幅115cm) そこから下流側へ(写真7300) カワニナが多く生息している。		
写真番号7298	写真番号7300		
			

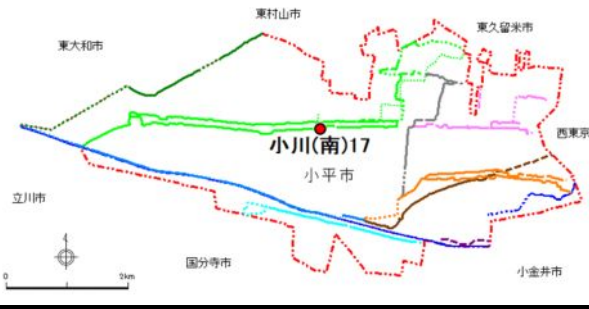

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月26日(火) 9時~14時	調査者	亀岡・安藤
調査地点	小川(南)13	分水路名	小川分水(南堀)
住所	小平市小川町1丁目 付近	北緯	35.7303429
		東経	139.458633
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 cm
コメント	「けみとく苑」裏(写真7272) 江戸時代から継承されている「けみとく苑」の敷地裏を分水路が流れている。 江戸時代は「萬屋」といった。 分水路の両岸は、薄暗い自然護岸。植栽は、ツツジ・ツゲ。(写真7273) 豊川稲荷(吒枳尼真天(ダキニシテン)神社)の祠がある。(写真6193)		
写真番号7272	写真番号7273	写真番号6193	
			

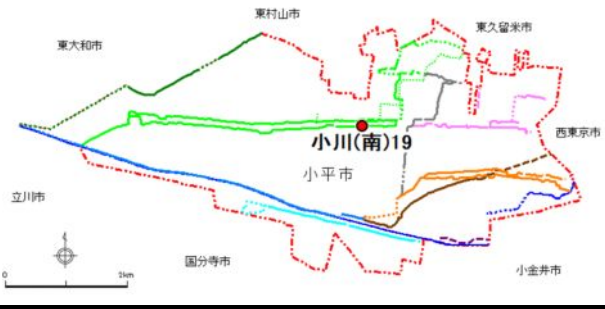



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月19日(火) 13時~15時	調査者	亀岡・安藤		
調査地点	小川(南)16	分水路名	小川分水(南堀)		
住所	小平市小川町2丁目 付近	北緯	35.7298557	東経	139.472759
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無				
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm		
コメント	3000m地点 「警察通り」西側(写真7211) 「警察通り」西側の分水路は真新しい鉄板壁面になっている。 (水路幅 120cm) しっかりした真新しい鉄板壁面(写真7212) 小平警察あり				
写真番号7211	写真番号7212				
					

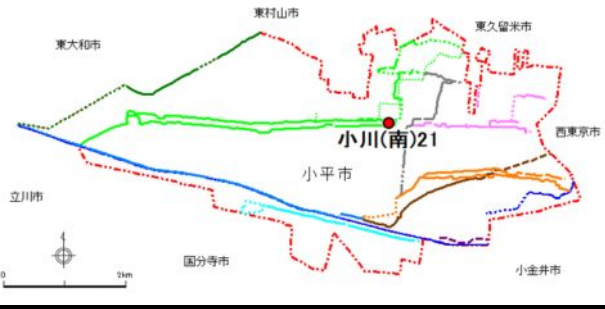




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月19日(火) 13時~15時	調査者	亀岡・安藤
調査地点	小川(南)17	分水路名	小川分水(南堀)
住所	小平市小川町2丁目 付近	北緯	35.7300419
		東経	139.477200
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
	 		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【埋め込み】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	3500m地点 小平市役所北側「西武多摩湖線」下流(写真7203) 西武多摩湖線を越え小平市役所東西通りのほぼ中間地点位置。真新しい鉄板壁面。 その付近の水路周辺(写真7204) 青梅街道が南に50m程入った土地は、ぐっと下がっている。このあたりが「平安窪」。 3700m地点の東側は「平安院」の敷地へと流れは続く。平安院内は暗渠。 「平安院」は、臨済宗。元文4年(1739)享保改革で小川新田(仲町)に移住した農民の菩提寺として建立された。 小平名木百選のイチヨウの大木がある。		
写真番号7203	写真番号7204		
			

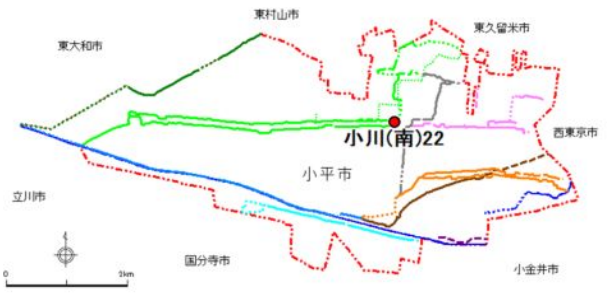



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月26日(火) 13時~14時	調査者	亀岡・安藤		
調査地点	小川(南)19	分水路名	小川分水(南堀)		
住所	小平市仲町 付近	北緯	35.7302903	東経	139.485066
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm	
コメント	仲町図書館(テラス前)南、小平第一中学校付近にある「ハッピーとんぼ池」(写真7233) 一中通り上流側の「ハッピーとんぼ池」の敷地は、旧小平村役場跡で今でも門柱が名残をとどめている。(元仲町公民館跡地) 南堀を活用し「ハッピーとんぼ池」に分岐引き込み、再び分水路に戻している。(回し堀り形式)(写真7234) 「ハッピーとんぼ池」の親水公園は二段開渠。(写真7238) 植栽は、キンギョソウ・ブルーサルビア・ユキヤナギ・モミジ。 旧小平村役場門柱(写真7349)				
写真番号7233	写真番号7234	写真番号7238	写真番号7349		
					

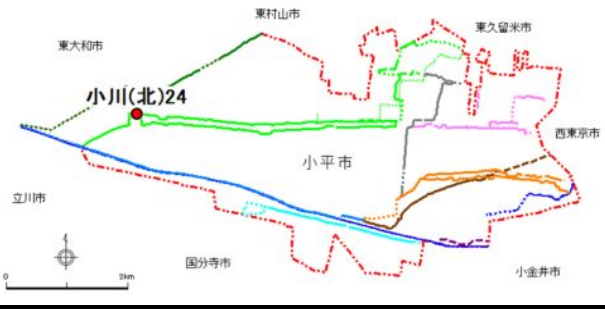

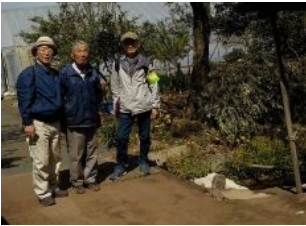


分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月19日(火) 13時~15時	調査者	亀岡・安藤
調査地点	小川(南)21	分水路名	小川分水(南堀)
住所	小平市仲町 付近	北緯	35.7306592
		東経	139.490006
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
	 		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	4700m地点 熊野宮入口と碑(写真7183・7184) 熊野宮入口の鳥居脇に「庚申供養塔(享保15年)」あり。 熊野宮参道の水路(写真7185) (水路敷幅375cm・水路幅100cm) 熊野宮境内に「樹齢250年~300年の夫婦ケヤキ」の標示板あり。 元は「一本榊神社、武蔵野乃一本榊」と称された神社。		
写真番号7183	写真番号7184	写真番号7185	
			

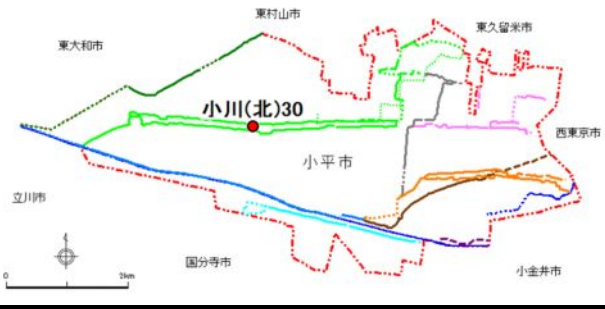





分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月19日(火) 13時~15時	調査者	亀岡・安藤
調査地点	小川(南)22	分水路名	小川分水(南堀)
住所	小平市仲町 付近	北緯	35.7309471
		東経	139.491216
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 10 cm
コメント	小川分水の南北合流地点 (写真7168) 小川分水南堀は、青梅街道敷の下を北に横断してこの先の北堀に合流する。 南堀の流れが北堀の流れに合流する地点(写真7170) (水路敷幅360cm・水路幅110cm)		
写真番号7168	写真番号7170		
			

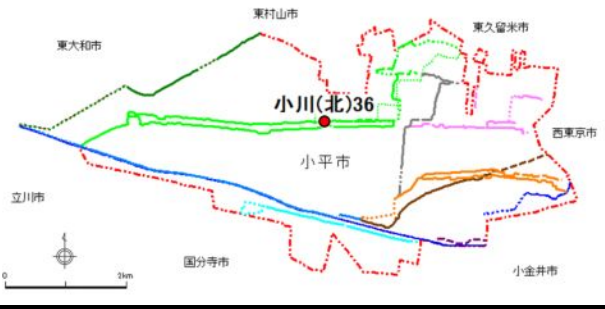




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月8日(日) 12時~13時	調査者	鈴木・亀岡・藤原・安藤
調査地点	小川(北)24	分水路名	小川分水(北堀)
住所	小平市小川町1丁目 付近	北緯	35.7322942
		東経	139.443967
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 18 cm
コメント	旧農家の敷地(畑)内を流れる。(写真67) (水路幅 66cm) 洗い場跡あり(写真66) 敷地内に弁財天と稲荷神社の祠がある。(写真70) 井戸が敷地内青梅街道側の屋敷林(シラカシ)の脇にある。		
写真番号67	写真番号66	写真番号70	
			




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月12日(土) 10時~13時	調査者	亀岡・久保田・藤原・安藤		
調査地点	小川(北)30	分水路名	小川分水(北堀)		
住所	小平市小川町1丁目 付近	北緯	35.7303114	東経	139.465051
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	馬頭観世音碑 府中街道を横断してすぐ左手(小川町西交差点)(写真378・377) 「延享3年 1746年 小松石・高さ85cm 林兵衛造立」とある。 府中街道を小川分水路が越える付近 府中街道西側(写真374) 府中街道東側(写真7083)				
写真番号378	写真番号377	写真番号374	写真番号7083		
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月19日(火) 10時~13時	調査者	亀岡・安藤		
調査地点	小川(北)36	分水路名	小川分水(北堀)		
住所	小平市小川町2丁目 付近	北緯	35.7310442	東経	139.478525
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	5 cm	
コメント	4500m地点 「ひだまり公園」の前(写真7127) (水路敷幅385cm・水路幅85cm) 水路北側は「ひだまり公園」(新興住宅群の一角の緑地帯) その水路(写真7128) 「ひだまり公園」上流方向(写真7129)				
写真番号7127	写真番号7128	写真番号7129			
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月19日(火) 10時~13時	調査者	亀岡・安藤
調査地点	小川(北)38	分水路名	小川分水(北堀)
住所	小平市仲町 付近	北緯	35.7311221
		東経	139.487606
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 畑 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	「あかしあ通り」に接する西側の水路。(写真7138) 開渠から暗渠となり、サイフォン用マンホールをむき出しにして、あかしあ通りの下を東へ横断して流れる。(写真7141) さらに下流側は、あかしあ通りの東は水路見えない。(写真7140)		
写真番号7138	写真番号7141	写真番号7140	
			

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月7日(木) 10時~12時	調査者	亀岡・鈴木・櫻田・藤原・安藤
調査地点	小川(北)42	分水路名	小川分水(北堀)
住所	小平市美園町 付近	北緯	35.7342364
		東経	139.492374
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 あじさい公園 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	10~15 cm
コメント	回田道沿い「あじさい公園東」入口(写真7484・7485) サイフォンになっている出口。流れは「あじさい公園」に通じる。 悪水堀2との交差点(7487) 子供にとり、この水路はザリガニ取りには楽しい水路となる。日曜・祭日には、親子のたまり場。		
写真番号7484	写真番号7485	写真番号7487	
			

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月26日(火) 12時~17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	小川(北)46		分水路名	小川分水(北堀)		
住所	小平市美園町 付近		北緯	35.7388731	東経	139.489377
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【庭園】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	15 cm		
コメント	當麻家門の裏手の水路(土壁) (写真1462) 當麻家の裏手を流れていた水路がそのまま残っている。(本宅は今はない)このまま遺構として残したい。 暗渠となる。(写真1464) 暗渠でこの庭の下を流れる。豊かな庭園となっている。(写真1465) 暗渠となって東へと流れる水路は、当時の當麻家の裏手を流れていたその空間を思わせるには十分な広さである。 當麻家門(写真1432) 當麻弥左衛門家の陣屋門 今は無い本宅などその広がり进行を想像しながら、東京街道沿いの陣屋門を見る。この陣屋門は残してほしい。					
写真番号1462	写真番号1464		写真番号1465		写真番号1432	
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月26日(火) 12時~17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	小川(北)48		分水路名	小川分水(北堀)		
住所	小平市大沼町 付近		北緯	35.7422916	東経	139.492940
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【小平霊園】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【地中配管】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	15 cm		
コメント	<p>「花の小径」の標識 (写真1505) 小平霊園南側(美園町3丁目)の通りを新青梅街道に向けて、分水路はゆっくりと開渠で流れる。落ち着いた住宅街で、「花の小径」と愛称される。</p> <p>落ち着いた住宅街と「花の小径」(写真1500) 落ち着いた住宅街と水と緑の空間として安全で落ち着いた景観である。</p> <p>開渠となる水路。水路幅は1m、深さ80cmで、水は非常にゆっくりと動く。北側より小平霊園方面からの排水路跡らしき水路が合流している。(写真7542)</p> <p>花の小径の景観(写真1498) 周辺には、サクラ並木、梅の木、ユリなど四季折々の花が植えられている。地元自治会の手によるものと思われる。</p>					
写真番号1505	写真番号1500		写真番号7542	写真番号1498		
						

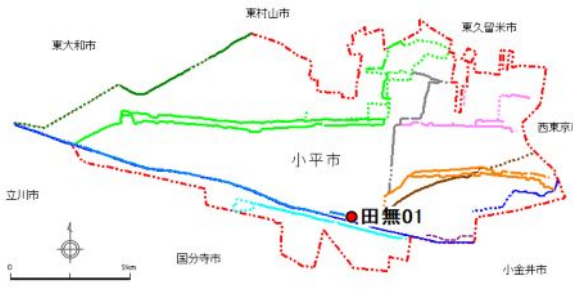




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月26日(火) 12時~17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	小川(北)50		分水路名	小川分水(北堀)		
住所	小平市大沼町 付近		北緯	35.7380583	東経	139.492546
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【北堀の東西分岐後の東端部】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm		
コメント	回田道と東京街道交差点 農家の屋敷林(写真1407) 東京街道の「回田道西バス停前」から東京街道沿いに東西両方向に水は流れていた。 西方向へは、南側の歩道の下を暗渠で水は流れ、東方向へは、東京街道の北側を廃滅水路となっている。 交差点そばの地蔵尊(写真1402)					
写真番号1407	写真番号1402					
						

分水路網調査報告書

<p>分水路名</p>	<p>田無分水</p>		<p>調査期間</p>	<p>2018年 4月 ~ 2018年12月</p>																
<p>開始地点</p>	<p>小平市喜平町1丁目 付近</p>		<p>北緯</p>	<p>35.7164005</p>	<p>東経</p>	<p>139.485251</p>														
			<p>調査地点</p>	<p>11点</p>		<p>撮影枚数</p>	<p>150枚</p>													
<p>調査分水位置図</p>																				
<p>調査分水高低差図</p>	<table border="1" data-bbox="1037 918 1197 1052"> <tr> <td>平面距離</td> <td>3.6km</td> </tr> <tr> <td>始点標高</td> <td>77m</td> </tr> <tr> <td>終点標高</td> <td>66m</td> </tr> <tr> <td>最大標高</td> <td>78m</td> </tr> <tr> <td>最小標高</td> <td>66m</td> </tr> <tr> <td>累積標高(+)</td> <td>29m</td> </tr> <tr> <td>累積標高(-)</td> <td>-40m</td> </tr> </table>						平面距離	3.6km	始点標高	77m	終点標高	66m	最大標高	78m	最小標高	66m	累積標高(+)	29m	累積標高(-)	-40m
平面距離	3.6km																			
始点標高	77m																			
終点標高	66m																			
最大標高	78m																			
最小標高	66m																			
累積標高(+)	29m																			
累積標高(-)	-40m																			
<p>調査分水概略</p>	<p>開削願済年・名称</p>	<p>1696年(元禄9)・『上水記』では、田無村分水とある。</p>																		
	<p>分水の長さ</p>	<p>小平市内は、3.6 k m。一部流水有り。</p>																		
	<p>開削願い者</p>																			
	<p>開削時利用村</p>	<p>田無村</p>																		
	<p>分水口サイズ 内寸(縦×横)</p>	<p>1791年(上水記3巻) 4寸四方 1870年(東京市史稿) 7寸×8寸 56坪</p>																		
<p>元禄9年(1696) 田無分水は当初、田無村一村のための呑用水として開削された。喜平橋下流で玉川上水から分水されたが、その樋口は4寸四方と他の分水に比べて小さいものだった。その後、幕末から明治にかけて、呑用水だけではなく回田新田や田無村の田用水としても利用されることとなった。開削から二百数十年間利用されてきた田無分水だが、上水道の普及とともに都市化の波が押し寄せ、生活排水が流れる水路と化してしまう。現在 西東京市(旧田無市)では、暗渠化され水路跡は遊歩道化されて市民に利用されている。新城用水からの分水口周辺は個人宅の庭先となっている。</p>																				

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月26日(木)9時~15時		調査者	鈴木・藤原	
調査地点	田無01(喜平町分岐地点)		分水路名	田無分水	
住所	小平市喜平町1丁目 付近		北緯	35.7164005	東経 139.485251
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 警察大 学校 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm	
コメント	五日市街道沿い桜橋から100m程暗渠で進んだ新堀用水は、滝島GS裏手の住宅地で開渠となり、東へ500mほど進んだ旧家裏手が「喜平町分岐地点」である。(写真2022) この分岐地点は工事が無い限り、年間を通じて水は枯れない。 分岐地点から左手へ鈴木分水が、直進する右手分水口が田無分水である。分水量は、鈴木分水(水深20cm)の方が多い。(写真2024) 水路周辺は、よく整備された竹林と北風の備えのシラカシの防風垣がある。(写真2028) 小平の先人の生活の知恵。鈴木分水は、ここから関東管区警察大方向に流れる。 水路の周辺は草が刈り取られて整備されている。(水路の幅 75cm)				
写真番号2022	写真番号2024		写真番号2028		
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月26日(木)9時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	田無03(500m)	分水路名	田無分水
住所	小平市喜平町1丁目 付近	北緯	35.715294
		東経	139.490350
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 15 cm
コメント	500m地点 河内屋西側の山家東公園側(写真7416・7417) 水と緑の水路が残っているこの一帯には戸建て住宅とマンション(5F)などが多い。 (水路の幅 150cm・水路の高さ100cm) (マンションの住民の声)「水の流れる水路があることに価値がある」 「水と緑と風の道」の風景。公園にはケヤキ、シラカシ、沈丁花、セイヨウタンポポ、ドクダミなどの樹木と野草。静かな公園で親子で親しめる空間として整備。(写真2071) まだ周辺に残る畑では、葉物野菜が作られる。近郊農業地帯としての小平「農の風景」でもある。 年々減り続ける農地の将来はどうなるのかなどの課題も見え隠れする。「あと5年もすれば小平の農業は終了だよ」との声もあり。「高齢化と税金問題なんだよ」との声もある。 上流側に関野分水との分岐口がある。(写真7620、田無は左へ)		
写真番号7416(下流側)	写真番号7417(上流側)	写真番号2071	写真番号7620

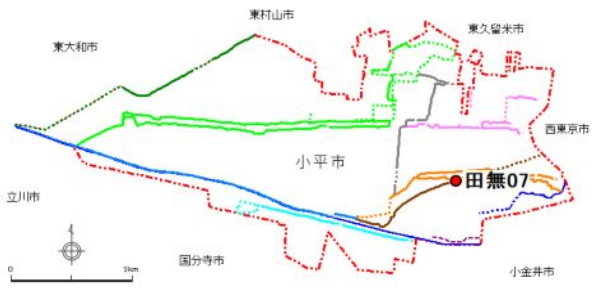



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月26日(木) 10時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	田無05 (1500m)	分水路名	田無分水
住所	小平市鈴木町1丁目 付近	北緯	35.7207013
		東経	139.498362
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	10 cm
コメント	1500m地点 畑の中の田無分水(写真7420) 氷川通りを抜けた田無用水は、新小金井街道を越えて畑地帯(鈴木町2丁目)に入る。 (水路の幅 90cm。 左右の土壁含めて3mほどある) 近郊農業地帯として小平西部地区の青梅街道沿いの小川町一丁目とともに残したい 「農の風景」である。水路は土壁そのものの素掘りのまま。水路わきには土止めの茶の 木を植える。この分水路の水は、この畑の中ほどまでで消えてしまうが「春の小川」の 風景そのまま。まっすぐ田無市方向に進む。(写真2110・2109) 近くの鈴木地域センターや鈴木町第6公園などとともに、住みやすい子育てしやすい 地域として天水利用の方法など考えられないだろうか。(小平市への声として届ける予 定)		
写真番号7420	写真番号2110	写真番号2109	

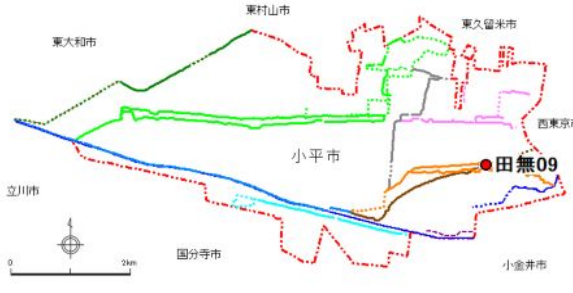



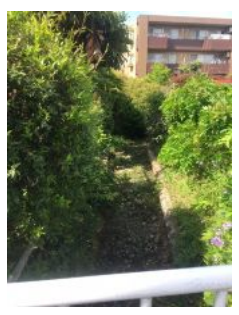
分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月26日(木) 9時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	田無06(鈴木町第6公園)	分水路名	田無分水
住所	小平市鈴木町1丁目 付近	北緯	35.7211288
		東経	139.499656
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	開渠の水路が続く。水はない。水路の側を歩ける。(写真2118) 土壁自然護岸の水路そのまま。(写真2119) 鈴木町第6公園(写真2121) 近くに鈴木地域センター北公園がある。落ち着いた住環境の地域。 「水と緑と風の道」としての水路跡の有効活用へとの声を大事にしたいもの。鈴木町第6公園では親子が遊んでいる。		
写真番号2118	写真番号2119	写真番号2121	

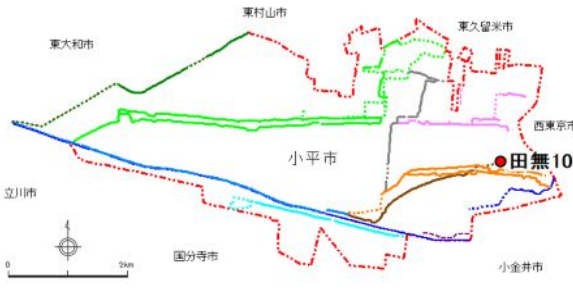



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月26日(木) 9時~15時	調査者	鈴木・藤原		
調査地点	田無07(2000m)	分水路名	田無分水		
住所	小平市鈴木町1丁目 付近	北緯	35.7220931	東経	139.503496
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	2000m地点 落ちついた住宅地の水路(写真7427・2915) 開渠で水路は続いている。水がない。 近くに鈴木地域センター有り、7427の北側にはJA有り。 (地元の奥様の声) 「小学校時代までは、鈴木小学校までの一帯は、水も流れていて、昭和42~43年ごろまでホタルがいっぱい飛んでいた。蜆(しじみ)もとれた。カワナもいた。小学生の男子たちは水路で泳いだよ。ハヤもいたよ。井戸ができた水道が通るとこの「カワ」は使われなくなったよ。何と言っても水がなげりゃね。」				
写真番号7427	写真番号2915				
					

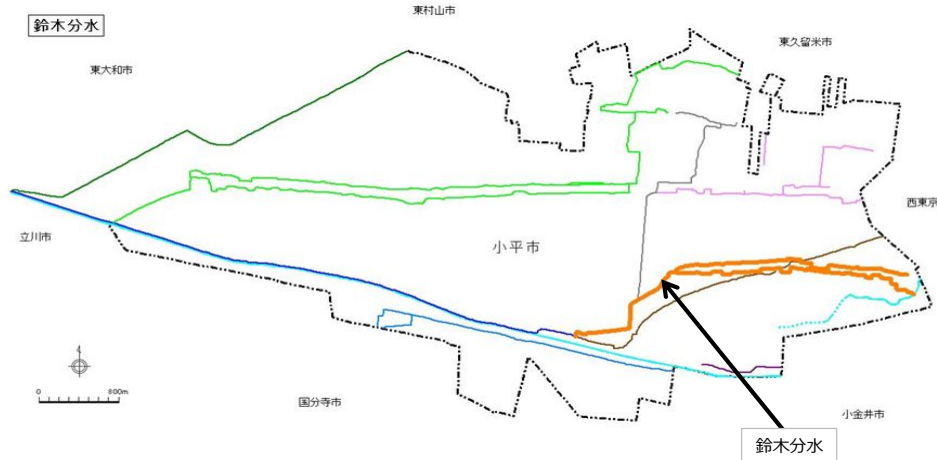
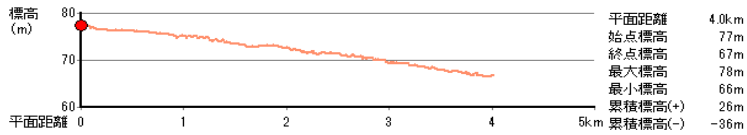
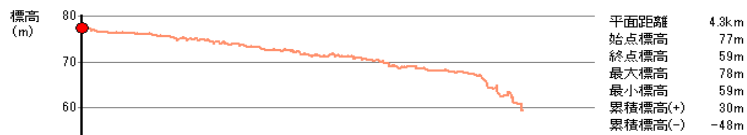
分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月26日(木) 9時~15時	調査者	鈴木・藤原			
調査地点	田無09(第二の交差点)	分水路名	田無分水			
住所	小平市鈴木町2丁目 付近	北緯	35.723680	東経	139.510195	
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm		
コメント	鈴木分水北堀と田無分水の第二の交差点推定地(写真2939) 小金井街道の地蔵尊が目印の位置と考えた。実際の交差部分は確認できない。 この水路を辿ると間もなく小金井街道の交差点から北側100m程の地蔵尊にたどり着く(写真2939)。水神もある。現在は廃滅水路となっている。 鈴木街道を北へ向かった水路。水の無い開渠の水路が放置されたまま100m程残っている。(写真2935・2936)(水路の幅 70cm・水路の高さ 50cm)					
写真番号2939	写真番号2935	写真番号2936				
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月26日(木) 9時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	田無10(3000m)	分水路名	田無分水
住所	小平市花小金井南町1丁目付近	北緯	35.7244858
		東経	139.513492
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	3000m地点 小金井街道から田無に向かう道路 = 昔の田無分水の跡が花南一丁目通り(写真7433) 廃滅水路になった元田無分水は田無方向車道左側の歩道の下を流れる。 昔の田無分水の跡は、小平から田無への道路となっている。(写真2940) せいぶ通り交差点付近の3000m地点から狭山境緑道を過ぎ、西武新宿線の踏切手前の道路の幅員の状況から、昔の田無分水の跡と考えられる。 北西方向に西武新宿線「花小金井駅」がある。		
写真番号7433	写真番号2940		
			

分水路網調査報告書

<p>分水路名</p>	<p>鈴木分水</p>		<p>調査期間</p>	<p>2018年 4月 ~ 2018年12月</p>			
<p>開始地点</p>	<p>小平市喜平町1丁目 付近</p>		<p>北緯</p>	<p>35.7164005</p>	<p>東経</p>	<p>139.485251</p>	
<p>調査分水位置図</p> 			<p>調査地点</p>	<p>27点</p>		<p>撮影枚数</p>	<p>510枚</p>
<p>調査分水高低差図</p>	<p>(北堀)</p>  <p>(南堀)</p> 						
<p>調査分水概略</p>	<p>開削願済年・名称</p>	<p>1734年(享保19)・『上水記』では、上鈴木新田分水と鈴木新田分水とある。</p>					
<p>分水の長さ</p>		<p>小平市内は、6.7 k m。一部流水有り。末端は、石神井川へ</p>					
<p>開削願い者</p>		<p>鈴木利左衛門(貫井村・現小金井市貫井町の名主)</p>					
<p>開削時利用村</p>		<p>上鈴木新田分水 鈴木新田村・野中新田村・貫井新田村・小金井新田村 鈴木新田分水 鈴木村</p>					
<p>分水口サイズ 内寸(縦×横)</p>		<p>1791年(上水記3巻) 上鈴木新田分水 1尺5寸×1尺 鈴木新田分水 9寸×1尺 1870年(東京市史稿) 上鈴木新田分水 1寸5分×2寸 4坪 鈴木新田分水 6寸×6寸7分5厘 40.5坪</p>					
<p>鈴木分水は、小平市喜平町で新堀用水から分岐され、小平市鈴木町を流れていく分水路である。享保7年(1722)新田開発奨励により大沼田・鈴木・野中分水等が開削され、小川新田、鈴木新田、野中新田、大沼田新田が開発された。鈴木町一丁目付近で鈴木街道の北堀と南堀の2系統に分かれ、それぞれ街道に沿って東進し、北堀の分水路は田無分水芝久保分水に接続。また、南堀の分水路は石神井川へと落ちている。</p>							



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月9日(水) 13時～17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木01		分水路名	鈴木分水		
住所	小平市喜平町1丁目 付近		北緯	35.7164005	東経	139.485251
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 コンクリート 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	20 cm		
コメント	鈴木分水・田無分水の分岐地点(写真2289)(水路幅 95cm・水路の高さ 75cm) 現在の鈴木分水は、桜橋と西武多摩湖線を東進した明治3年(1870)に作られた新堀用水より、関東管区警察大学校の駐車場南の喜平町分岐水門にはじまる。 小平市喜平町1丁目の住宅の裏手を開渠で流れる。 近影(写真2291) 分岐水門の左方向が鈴木分水で、右直進する水路が田無分水である(両方とも水流あり)。コンクリートの壁面仕様で、水門は鈴木・大沼田分水方向に設置されている。水路の水深は、約20cm。田無分水は10cm。 水門右手には竹林と防風用のシラカシ垣根、ツツジの植え込みがある。 鈴木分水として警察大学校方向へと(写真2294) 水路脇は、雑草が生えないようにビニールで覆われている。水路壁面は鉄板の二段構造である。					
写真番号2289	写真番号2291		写真番号2294			
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月9日(水) 13時～17時	調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木02	分水路名	鈴木分水		
住所	小平市喜平町2丁目 付近	北緯	35.71668	東経	139.486024
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	300m地点 警察大学校横は歩道である。(写真2296) 分岐点から警察大学校前で暗渠となり、警察大学校横を歩道として喜平団地横へと流れる。 警察大学校の正門(写真2298) 喜平団地南側歩道暗渠(写真2299) 暗渠の歩道に耳を当てると流水の音が聞こえる。正門前から喜平橋への300mは、桜並木で道路の両側は屋台も出て花の時期は賑わう。暗渠で正門前を通り喜平団地南側の歩道下を進む。 この地域には、喜平図書館、喜平地域センターがあり、市民交流の場となっている。				
写真番号2296	写真番号2298	写真番号2299			
					

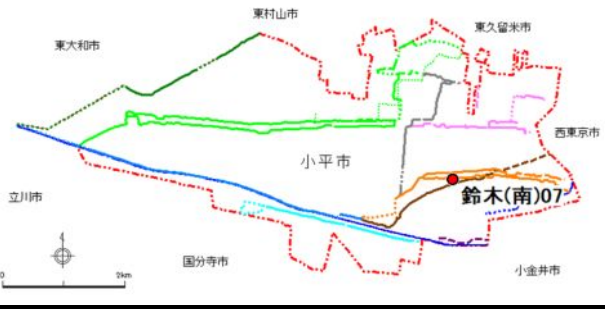





分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月9日(水) 13時 ~ 17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木03		分水路名	鈴木分水		
住所	小平市喜平町3丁目 付近		北緯	35.7170558	東経	139.490219
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm		
コメント	500m地点 小平団地から喜平図書館の歩道(暗渠)(写真7418) 警察大学校から小平団地に向けた歩道。コンクリート暗渠で進む。水路は喜平図書館に沿って小平団地を北方向へ歩道下を暗渠で進む。 喜平団地を北上する歩道(暗渠)(写真2309) 小平団地東の回田道の歩道を北進する。 小平団地中央バス停を過ぎ、鈴木街道入り口で開渠となる。 交差点(写真2306) 小平団地南東の回田道の交差点である。					
写真番号7418	写真番号2309		写真番号2306			
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月9日(水) 13時 ~ 17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(南)05		分水路名	鈴木分水(南堀)		
住所	小平市鈴木町1丁目 付近		北緯	35.7224072	東経	139.495705
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【稲荷神社内水路】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【鈴木稲荷】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm		
コメント	1300m地点付近 鈴木稲荷神社がある。(写真1367) 本殿(写真2344) 本殿手前に水路が流れている。 御神木カヤの木(写真2346) 境内の御神木カヤの大木(イチイ科の常緑樹)である。 享保5年(1720)新田開発の成功と地域の繁栄を祈念して植えたという。 境内を流れる水路(写真7549) 境内を抜けると鈴木街道に出る。暗渠で100m程進み、街道の南北に分岐して流れる。					
写真番号1367	写真番号2344		写真番号2346		写真番号7549	
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月1日(金) 13時 ~ 17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(南)07		分水路名	鈴木分水(南堀)		
住所	小平市鈴木町1丁目 付近		北緯	35.722422	東経	139.501703
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm		
コメント	2000m地点 グランヌーブ南堀(写真7422・7423)(水路幅 80cm・水路の高さ70cm) 鈴木町1丁目交差点から8本の大ケヤキ(保存樹木指定)と屋敷林裏手から、住宅横をよく整備された鉄板壁2段構造の開渠で進み、2000m地点となる。 (マンション住民の声)「水路があり近くに農の竹藪が多いので入居した。」 (写真727) グランヌーブ(5F)の裏手を流れる。周辺はビヨウヤナギ、アカメガシワ、ハナミズキ、南天などが植えられている。 農家の竹林側の水路(写真728) 農家の土地は全て素掘り自然護岸が残る。竹林も残っている。 近くの鈴木町ビッグ・エー店裏手には、水神社・稲荷社もある。水路そばには、ケヤキもある。					
写真番号7422	写真番号7423		写真番号727		写真番号728	
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月1日(金) 13時 ~ 17時	調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(南)08	分水路名	鈴木分水(南堀)		
住所	小平市鈴木町2丁目 付近	北緯	35.7230075	東経	139.506543
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 ゴルフ練習場 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm	
コメント	2500m地点付近、鈴木街道公園より下流にある水無しの水路(写真781)。 住宅と公園の南西側の間に水無しの水路(写真765)。 公園では親子が楽しく遊ぶ。ベンチ、遊具、トイレも完備している。 住宅と公園の間の水路である。(写真776) 周辺にはケヤキ、コブシ、カエデ、カキ、マユミ、ツツジ、シラカシなど多数植栽されている。(将来、天水を利用した水が欲しい。) 「鈴木街道公園」は親水公園にしたい(写真772)。 武蔵野ゴルフがある。				
写真番号772	写真番号765	写真番号776	写真番号781		
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月1日(金) 13時 ~ 17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(南)09	分水路名	鈴木分水(南堀)
住所	小平市鈴木町2丁目 付近	北緯	35.7230438
		東経	139.507902
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 コンクリート橋 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	鈴木分水と田無分水の交差点である。(写真795) 上：鈴木分水、下：田無分水(水路幅 70cm・水路の高さ 60cm) 田無分水が引かれた後、鈴木新田が開かれたことで、ここが第一の交差点となった。両分水共に水は無い。 拡大図(写真785・786) 上を流れる鈴木分水のコンクリート製の水路には「昭和五年十月成」とある。 交差後の田無分水(写真799) ここで田無分水は消滅し鈴木分水南堀に合流した形で流れることとなる。 田無分水は交差した後、小金井街道で再度鈴木分水北堀と交差したと考える。第2の交差点には、地蔵尊が残っている。		
写真番号795	写真番号785	写真番号786	写真番号799



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月1日(金) 13時 ~ 17時	調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(南)11	分水路名	鈴木分水(南堀)		
住所	小平市花小金井南町2丁目 付近	北緯	35.72247	東経	139.515020
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【私設の親水エリア】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	20 cm	
コメント	3500m地点付近 私設の親水エリア 全景(写真850・852) 水路脇の個人が親水エリアとしてテラスを作っている。水道水を流している。 (水路幅 80cm・水路の高さ 30cm) 水道の口(写真855) 留守のために詳細は不明。				
写真番号850	写真番号852	写真番号855			
					

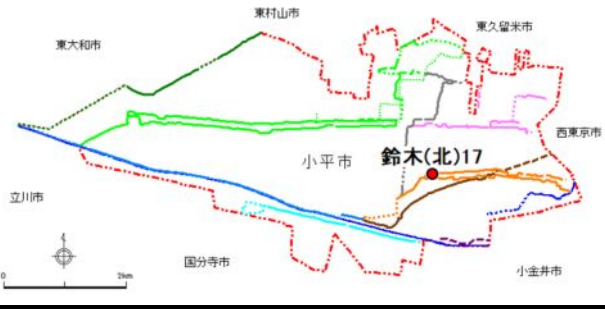



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月1日(金) 13時 ~ 17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(南)15	分水路名	鈴木分水(南堀)
住所	小平市花小金井南町3丁目 付近	北緯	35.7204915
		東経	139.522773
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【不明】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 cm
コメント	4300m地点付近 石神井川へ流れ込む分水流末跡(写真924・7865・925) 石神井川直前の鈴木分水南堀流末部分 石神井川へは、ここ「長久保橋」のたもとから流れ入ったと思われる。 今も残る流末部付近の水路跡(写真920) 住宅地をぬうように水路跡が残る。流末部は、分水路の跡地と推測できる程度として残る。石神井川への低地一体は、畑地として残っている。		
写真番号924	写真番号7865	写真番号920	写真番号925

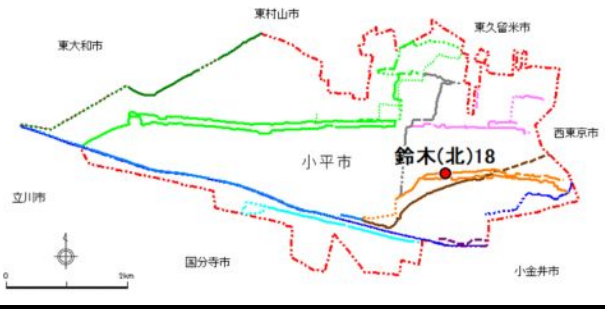



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(北)16	分水路名	鈴木分水(北堀)
住所	小平市鈴木町1丁目 付近	北緯	35.7228809
		東経	139.496390
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
	 		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 墓所 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	10 cm
コメント	1500m地点付近 宝寿院の東側水路(写真527) (水路幅70cm・水路の高さ45cm) 北堀には、年間を通じて水はある。鈴木新田開発当時は、飲み水、生活用水として使われていた。 毎年5月下旬には、年一度の「沼さらい」が行われる。新小金井街道方向へと進む。 (宝珠院のご母堂) 「嫁に来た頃は、この分水を朝汲むのが私の役目。雨が少なく分水の水がない時は宝珠院の深井戸がみんなの水となった。」 鈴木家墓所(写真531) 分岐地点の北側には鈴木新田を開いた鈴木家の墓地がある。1724年、貫井村(現小金井市)の名主鈴木利左衛門重広が開発する。鈴木街道沿いに新田が開かれた。		
写真番号527	写真番号531		
			

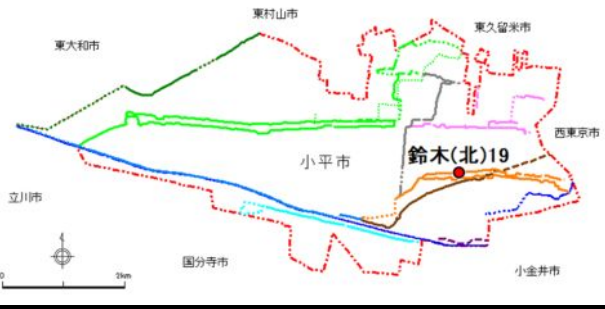




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時	調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(北)17	分水路名	鈴木分水(北堀)		
住所	小平市鈴木町1丁目 付近	北緯	35.7232709	東経	139.497759
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	10 cm	
コメント	1600m地点付近 水路と竹やぶ(ムクドリの住処)(写真544) 新小金井街道を越えて流れた鈴木分水北堀は、竹林を持つ屋敷裏手を流れる。 水路幅 100cmで、整備されている。竹林は、長年ムクドリの棲みかである。秋の夕暮れ前のひとときは、カメラマンたちが待ち構える。 本宅と蔵(写真545・547) 鈴木街道から見た本宅と蔵である。				
写真番号544	写真番号545		写真番号547		
					

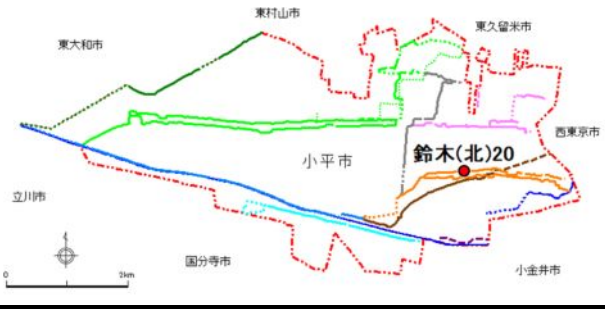




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時～17時	調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(北)18	分水路名	鈴木分水(北堀)		
住所	小平市鈴木町1丁目 付近	北緯	35.723364	東経	139.500415
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	20 cm	
コメント	西松屋裏手西側水路 (写真553) 西松屋裏手の水路である。壁面を含む水路敷幅は約4mほどある。周辺は綺麗に整備されている。 (水路 100cm・水深 20cm) 西松屋裏の水路(写真551) 近影(写真552) 綺麗に整備されている。				
写真番号553	写真番号551		写真番号552		
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時	調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(北)19	分水路名	鈴木分水(北堀)		
住所	小平市鈴木町1丁目 付近	北緯	35.723464	東経	139.502857
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】				
					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】				
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし				
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有 無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌				
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)				
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)				
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)				
	廃滅(1 下水 2 不明)				
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】				
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	10 cm	
コメント	2000m地点付近 住宅裏手の稲荷社がある。(写真562) (水路幅 80cm・水路の高さ 60cm) 小平第八小学校入口交差点を北側に入った地点で全体の水路幅3m。 住宅裏手の稲荷とケヤキの大木(写真565・563) 水路近景(写真566) 鈴木街道の北側裏手に流れる分水路である。				
写真番号562	写真番号565	写真番号563	写真番号566		
					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時～17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(北)20	分水路名	鈴木分水(北堀)
住所	小平市鈴木町2丁目 付近	北緯	35.7235401
		東経	139.503586
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
	 		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	10 cm
コメント	鈴木町2丁目 住宅側の水路 (写真581)(水路幅 100cm) 水路を拡大(写真578) 鉄板の壁面である。 水路に草花多数(写真568) ギボウシ、ツククサ、マツバボタン、タチアオイ、ガマズミ、アジサイ、モモ、柿、ユキノシタ、マンリョウなど多数の草花が植えられている。 東側水路(写真574) 伐採されたケヤキの大木あり。南側には、「JA東京むさし店」がある。		
写真番号581	写真番号578	写真番号568	写真番号574
			

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(北)21	分水路名	鈴木分水(北堀)
住所	小平市鈴木町2丁目 付近	北緯	35.7237803
		東経	139.507474
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	2500m地点 「ひだまり公園」とマンション(写真600) (水路幅 90cm・水路の高さ 60cm) 鈴木町2丁目郵便局の裏手を北に20m程入った地点である。 元NTTのマンション跡地に建て替えられたマンション3棟。 水路とマンションの間には、「鈴木町ひだまり公園」がある。 水路とケヤキ(写真598・599) 水は無いが、底に溜ったヘド口は水分が残り湿っている。水がここまであったことを示す。 東方向には、農家の屋敷林がある。		
写真番号600	写真番号598	写真番号599	

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(北)22		分水路名	鈴木分水(北堀)		
住所	小平市鈴木町2丁目 付近		北緯	35.7238965	東経	139.509458
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景	有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm		
コメント	エヌコーポ北側地域の北堀(写真618・619) (水路幅 110cm・水路の高さ 60cm) エヌコーポ裏手の住宅地を通る水路。水路は整備されている。草花を植えている。 この水路の先で、消滅した田無分水(廃滅水路)と小金井街道で交差していたと考える。 紳士服「コナカ」店裏に開口部あり(写真621)					
写真番号618	写真番号619		写真番号621			
						



分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(北)23	分水路名	鈴木分水(北堀)
住所	小平市花小金井南町1丁目 付近	北緯	35.722907
		東経	139.511855
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 鈴木街道 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 cm
コメント	3000m地点 大門橋緑道[1](写真632)(水路幅 100cm・水路の高さ 70cm) 小金井街道から紳士服「コナカ」店の裏手を開渠の水路は、やがて鈴木街道沿いに出る。 開渠で水は無い。 近景 黄色い花(キルタンサス)(写真634) 地元自治会などが四季の草花を管理している。 街道筋に出てくる水路(写真630) 木製壁面は新しく交換必要ありか? 東方向へと街道沿いの住宅前を通る。(写真638) やがて、鈴木街道沿いから住宅地裏手に戻り、せいぶ通りの大門橋緑道[2]につながる。 大門橋緑道は西側[1]と東側[2]と分かれて2か所ある。		
写真番号632	写真番号634	写真番号630	写真番号638
			

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(北)24	分水路名	鈴木分水(北堀)
住所	小平市花小金井南町1丁目 付近	北緯	35.7231926
		東経	139.514069
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
	 		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 ウレタン 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 cm
コメント	3000m地点付近 大門橋緑道[2] せいぶ通りより(写真651) (水路幅 100cm・水路の高さ 70cm) 大門橋緑道[1]の街道沿いから裏手に入り生活道路として利用している。地域住民には、安全第一となっている。 住宅裏手の生活道路ということで、目隠しのために樹木や草花などが植えられている。 鈴木分水は、ウレタン仕様の暗渠である。 水路脇の歩道(写真653) 擬木壁面の水路(写真649) 擬木仕立ての壁面構造は、落ち着きがある。		
写真番号651	写真番号653	写真番号649	
			

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(北)25	分水路名	鈴木分水(北堀)
住所	小平市花小金井南町2丁目 付近	北緯	35.7229043
		東経	139.517351
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	3500m地点 農家の畑の脇の水路跡である。(写真667・668) (水路幅 80cm・水路の高さ 20cm) 畑の脇筋を土壁のまま水路もなんとか判別可能状態ながら残る程度。 東側の水路跡(写真670) 東側は、土の自然護岸の水路跡らしく見えている。3m幅の空間として東方向へ続く。		
写真番号667	写真番号668	写真番号670	
			

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	鈴木(北)26		分水路名	鈴木分水(北堀)		
住所	小平市花小金井南町3丁目 付近		北緯	35.7229776	東経	139.518989
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm		
コメント	グリーンロードをくぐる水路 (写真673) ファミリーマート店裏手の狭山境緑道(グリーンロード)をくぐる水路跡。 水は無い。 グリーンロードと並行する水路(写真674) 農家と水神(写真676・675) 水神の先は整地され分譲地となっている。					
写真番号673	写真番号674		写真番号676		写真番号675	
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月29日(火) 13時~17時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	鈴木(北)27	分水路名	鈴木分水(北堀)
住所	小平市花小金井南町3丁目 付近	北緯	35.722397
		東経	139.521859
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 cm
コメント	住宅裏手の水路跡 西方向水路(写真679), 東方向水路(写真680) 住宅裏手の水路跡(写真7828) この先は水路不明。ただし、元の分水路跡らしい空間が残る。(写真7866) 北堀は地形の高低差を考慮しながら石神井川の流れと並行しながら、芝久保新田方向へと進んでいたと考える。		
写真番号679	写真番号680	写真番号7828	写真番号7866

分水路網調査報告書

分水路名	関野分水		調査期間	2018年 4月 ~ 2018年12月																									
開始地点	小平市御幸町 付近	北緯	35.7136276	東経	139.499293																								
		調査地点	5点	撮影枚数	81枚																								
調査分水位置図																													
調査分水高低差図	<table border="1"> <tr> <td>標高 (m)</td> <td>75</td> <td>74</td> <td>73</td> <td>72</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>平面距離</td> <td>0</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> <td>0.3</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>累積標高(+)</td> <td></td> <td>4m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>累積標高(-)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-7m</td> </tr> </table>					標高 (m)	75	74	73	72	71	平面距離	0	0.1	0.2	0.3	0.4	累積標高(+)		4m				累積標高(-)					-7m
標高 (m)	75	74	73	72	71																								
平面距離	0	0.1	0.2	0.3	0.4																								
累積標高(+)		4m																											
累積標高(-)					-7m																								
調査分水概略	開削願済年・名称	1732年(享保17)・『上水記』では、関野新田分水とある。																											
	分水の長さ	小平市内は、0.9 km。流水無し																											
	開削願い者																												
	開削時利用村	関野新田村・廻り田新田村・鈴木新田村他5村																											
	分水口サイズ 内寸(縦×横)	1791年(上水記3巻) 8寸四方 1870年(東京市史稿) 計画では22坪とあるが、実施項目欄に記載なし																											
<p>関野分水は、小平市喜平町1丁目付近から分水路があったと思われる。今回の調査は、喜平町付近から東の小金井市との市境に至る約1kmである。関野新田は、享保17年(1732)、喜平橋東北東方向で田無分水と関野分水に分岐し小金井市に向かい流れていた。今調査で、田無分水との分岐点を確認できた。新小金井街道の茜屋橋付近から東に向かって五日市街道の北側に分水路敷地跡が所々にある。喜平橋東北東方向で田無分水と関野分水に分岐し小金井市に向かい流れていた。</p>																													
<p>(写真7620)</p>																													

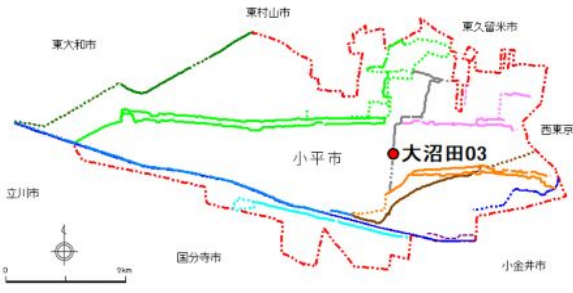





分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月13日(木) 10時~12時	調査者	鈴木
調査地点	関野01(0m)	分水路名	関野分水
住所	小平市御幸町 付近	北緯	35.7136276
		東経	139.499293
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 生活道路 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	cm
コメント	日立国際電気通り(御幸西通り)の御幸町バス停側の武蔵野自動車の北側に水路跡として残る。(写真933・934) この3.5m幅の水路跡は、安全な生活道路として利用されている。 この通路は東方向へ続き「スカイコートなかじま」の宅地開発となっている。(写真936) この通路は貫井橋バス停まで五日市街道沿いを形を変えながらも続いている。 五日市街道沿いの農家跡地は、再開発(代替り)として主に戸建の住宅地になっている(現在進行中)。		
写真番号933	写真番号934	写真番号936	
			

分水路網調査報告書

分水路名	大沼田分水		調査期間	2018年 4月 ~ 2018年12月																
開始地点	小平市回田町 付近	北緯	35.7199019	東経	139.492124															
		調査地点	13点	撮影枚数	232枚															
調査分水位置図																				
調査分水高低差図	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>平面距離</td> <td>3.0km</td> </tr> <tr> <td>始点標高</td> <td>75m</td> </tr> <tr> <td>終点標高</td> <td>67m</td> </tr> <tr> <td>最大標高</td> <td>75m</td> </tr> <tr> <td>最小標高</td> <td>67m</td> </tr> <tr> <td>累積標高(+)</td> <td>26m</td> </tr> <tr> <td>累積標高(-)</td> <td>-34m</td> </tr> </table>						平面距離	3.0km	始点標高	75m	終点標高	67m	最大標高	75m	最小標高	67m	累積標高(+)	26m	累積標高(-)	-34m
平面距離	3.0km																			
始点標高	75m																			
終点標高	67m																			
最大標高	75m																			
最小標高	67m																			
累積標高(+)	26m																			
累積標高(-)	-34m																			
調査分水概略	開削願済年・名称	1729年(享保14)・『上水記』では、大沼田新田分水とある。																		
	分水の長さ	小平市内は、3.6km。一部流水有り。 末端は悪水堀を經由して楊柳川と落合川へ																		
	開削願い者	當麻弥左衛門(武蔵国入間郡・現東村山市の名主)																		
	開削時利用村	大沼田新田村																		
	分水口サイズ 内寸(縦×横)	1791年(上水記3巻) 1尺×8寸 1870年(東京市史稿) 大沼田+野中 7寸×9寸 63坪 63坪の内訳 = 31坪野中・鈴木新田飲用+8坪大沼田飲用+24坪田用																		
<p>大沼田分水は、小平市回田町で鈴木分水から分岐して北へと流れて同市大沼町へと至る分水路である。 享保7年(1722)新田開発奨励により大沼田・鈴木・野中分水等が開削され、小川新田、鈴木新田、野中新田、大沼田新田が開発された。大沼田新田は当初は秣場(まぐさば)確保のためだったが、やがて名主もできると、田用水・呑水として利用された。 現在でも、新堀用水・鈴木分水を經由してきた多摩川の水が流れている。 なお、広い大沼田新田の地域にはこの他にも分水路が開かれ、小川分水の末流(現在の小平駅北方)や、野中分水から分岐され江戸街道(現東京街道)に沿って流れる分水路の遺構もある。</p>																				

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月13日(木) 10時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	大沼田03	分水路名	大沼田分水
住所	小平市鈴木町1丁目 付近	北緯	35.7257163
		東経	139.492818
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 10 cm
コメント	「鈴木町親水公園」(写真1015) グランスクエアツ橋学園560世帯の集合マンションの中央部を通る。大沼田分水と中央広場と水路は水遊びのできる親水公園となる。 鈴木町親水公園の標識(写真1016・1018) 落ち着いた景観である。安全対策も整備もしっかりとしている。 (水路の幅300cm・水路の高さ 70cm) 小平市立小平第九小学校(1014)が近い。水路はこのまま、北方向に進む。 写真1014は500m地点		
写真番号1015	写真番号1016	写真番号1018	写真番号1014
			

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月13日(木) 10時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	大沼田04	分水路名	大沼田分水
住所	小平市天神町1丁目 付近	北緯	35.7276775
		東経	139.492998
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	15 cm
コメント	900m付近 住宅横を流れるよく整備された大沼田分水。(写真1021) (水路の幅 100cm・水路の高さ 80cm) 「三中北通り」から南への分水路(写真1024) 「三中北通り」から北方向への分水路(写真1026) 足元にかつての排水の配管が見える。そのまま排水口が残っている。 家庭からの雑排水が分水路に流されていたと思われる。		
写真番号1021	写真番号1024	写真番号1026	

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月13日(木) 10時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	大沼田06	分水路名	大沼田分水
住所	小平市天神町2丁目 付近	北緯	35.7312886
		東経	139.496329
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
	 		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 10 cm
コメント	1500m地点 七小通り(小平第七小学校)の農家裏手である。(写真1059) (水路の幅 100cm・水路の高さ 80cm) 延命寺に続く東側の水路(写真1060) 分水路は畑と母屋の間を流れている。(写真1052) 青梅街道沿いにはマンション(5F)が建つ。 この農家は、竹林と深井戸を持つ。(写真1055) 市の防災対策として井戸の水質検査を続ける。		
写真番号1059	写真番号1060	写真番号1052	写真番号1055
			

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月13日(木) 10時~15時		調査者	鈴木・藤原		
調査地点	大沼田08		分水路名	大沼田分水		
住所	小平市天神町3丁目 付近		北緯	35.7321711	東経	139.498603
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可		春の小川風景		有 無	
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 親水空間 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm		
コメント	1800m付近 小平グリーンロード親水公園である。「大沼田用水」の標識板がある。散策する人たちの一時休憩場所であり、親子で水に触れる場でもある。(写真1076・1077・1079) 延命寺からの流れである。(写真1070) (壁面を含む水路敷の幅300cm・水路の高さ70cm) 親水の間としてのゆったりとした空間と広場で東屋とベンチなど整備されている。水は年間を通じて枯れない。現在、水道管の工事中である。					
写真番号1076	写真番号1077		写真番号1079		写真番号1070	
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月13日(木) 10時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	大沼田09	分水路名	大沼田分水
住所	小平市大沼町7丁目 付近	北緯	35.7356279
		東経	139.499449
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 天井川 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【ビニールシートで覆う】		
水の状況	1 水有り 2 水無し	水深	15 cm
コメント	2000m地点付近付近 「天井川」である。(写真1138・7915) 水路の裏壁面はビニールシートで覆われている。 「昔から天井川って呼んでた。水路の土手が崩れないように葦を植えていた。回田道にも天井川があったんだよ。」(古老より) 左に畑がある。家の軒先まで水路の位置が高いことがわかる。(写真1140) (水路の幅 70cm・水路の高さ 70cm) 天井川を左に見て、右の新小金井街道の歩道と比べても、高低差は1mを越える。土を盛り、高低差を克服しながら水を流したことが今もわかる天井川と呼ぶ築樋(つきひ)水路である。(写真1145)		
写真番号1138	写真番号7915	写真番号1140	写真番号1145
			

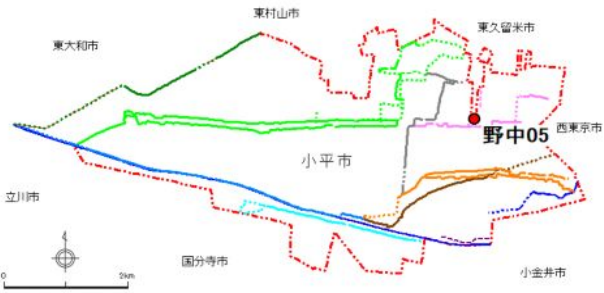


分水路網調査報告書

調査年月日	2018年6月13日(木) 10時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	大沼田11	分水路名	大沼田分水
住所	小平市大沼町5丁目 付近	北緯	35.7369866
		東経	139.501423
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 当麻山泉蔵院 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)		
	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 5 cm
コメント	2500m地点付近 東京街道に出た水路。北側は當間家。(写真1192) 東京街道に出た分水の流れは、微妙な地形の高低差を利用して流れる。 大きな南側農家の屋敷林を抜け、街道北側にでた流れは、この地点で東西両方向に進む。東方向へは、水なし。絶妙なまでの水の流れを微地形に合わせて流れる。流速はゆっくりである。現在の水は西方向の水路に流れ、武蔵野台地の通常の流れとは逆に東から西へ流れる。 東方向に位置する當麻家墓所の「当麻山泉蔵院」(写真1188) 當麻家墓所である。(写真1183) 「泉蔵院」には、教育委員会の解説板がある。(写真1186) 大沼田新田と分水の流れなど歴史が記されている。		
写真番号1192	写真番号1188	写真番号1183	写真番号1186

分水路網調査報告書

分水路名	野中分水		調査期間	2018年 4月 ~ 2018年12月		
開始地点	小平市天神町1丁目 付近		北緯	35.7303028	東経	139.494233
			調査地点	11点	撮影枚数	225枚
調査分水位置図						
調査分水高低差図	(北堀)		平面距離 2.0km 始点標高 74m 終点標高 69m 最大標高 74m 最小標高 68m 累積標高(+) 17m			
	(南堀)		平面距離 2.3km 始点標高 74m 終点標高 67m 最大標高 74m 最小標高 67m 累積標高(+) 19m 累積標高(-) -25m			
調査分水概略	開削願済年・名称	1728年(享保13)・『上水記』では、野中新田分水とある。				
	分水の長さ	小平市内は、3.6 km。一部流水有り。				
	開削願い者	矢沢藤八(上谷保村・現国立市の農民)				
	開削時利用村	鈴木新田村・野中新田与右衛門組・野中新田善左衛門組				
	分水口サイズ 内寸(縦×横)	1791年(上水記3巻) 1尺×6寸				
		1870年(東京市史稿) 大沼田+野中 7寸×9寸 63坪 63坪の内訳 = 31坪野中・鈴木新田飲用+8坪大沼田飲用+24坪田用				
野中分水は、青梅街道の南側と北側に流れている。現在は、水はないが、開渠の水路が残っている。 野中新田は、享保7年(1722)の新田開発奨励により玉川上水の北側、青梅街道沿いを中心に位置する北野中新田、そして上水南側の南野中新田と、飛び地状に形成された。 野中新田は、その広大さゆえに年貢納入などの管理が不便になり、与右衛門組、善左衛門組、六左衛門組および鈴木新田(利左衛門管理)に分けられ、組ごとに年貢の取立てから上納までを行うようになった。						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月28日(土) 10時~15時	調査者	鈴木・藤原			
調査地点	野中05	分水路名	野中分水(北堀)			
住所	小平市花小金井5丁目 付近	北緯	35.7313046	東経	139.505043	
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 武蔵野神社 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 武蔵野神社 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 空地 】					
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm		
コメント	武蔵野神社(写真1543・1535) ホリデイスーツクラブ西側から北へ向かう水路、2m幅の空き地のまま。現在駐車スペースとなっている。(1543は昭和病院側からの写真) 「たけのこ公園」に分水路が入った後に、青梅街道北側にある武蔵野神社に配水されていたという痕跡がある。現在は廃滅水路であるが、武蔵野神社への水路の痕跡である。 御門訴事件の首謀者「高橋定右衛門の墓所」もある。(写真2196) 小平市教育委員会の説明板がある。(写真1546)					
写真番号1543	写真番号1535	写真番号2196	写真番号1546			
						




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月30日(月)10時~15時	調査者	鈴木・藤原			
調査地点	野中(南)07	分水路名	野中分水(南堀)			
住所	小平市花小金井6丁目 付近	北緯	35.7300515	東経	139.509591	
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優	良	可	春の小川風景	有	無
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深	cm		
コメント	1500m地点 住宅裏手水路(写真2227) 小平市東部公園北入り口から南に入る道路を30mのところ1500m地点である。 野中新田開拓の一族。裏手の南側の開渠水路である。 東方向への水路(写真2231) 静かな住宅地の裏側一帯が、農地として残っている。					
写真番号2227	写真番号2231					

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月30日(月)10時~15時	調査者	鈴木・藤原
調査地点	野中(南)08	分水路名	野中分水(南堀)
住所	小平市花小金井1丁目 付近	北緯	35.729709
		東経	139.514637
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】		
			
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 円成院 】		
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし		
残したい風景	優	良	可
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌		
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)		
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【不明】)		
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【空き地】)		
	廃滅(1 下水 2 不明)		
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】		
水の状況	1 水有り	2 水無し	水深 cm
コメント	2000m地点 「円成院」水路暗渠(写真7477) 水無しの開渠のまま小平合同庁舎方向へ2000m地点に向かう。 「円成院」(写真2253) 暗渠になった分水路は、小平合同庁舎と円成院の間の裏手を進み「円成院」へ。 「円成院」水路跡(写真2254) 付近の分水路跡を辿ろうとしたが不明である。 近隣の公共施設として小平合同庁舎や東部市民センターがある。 水路跡は西東京市(旧 田無市)境まで歩行者道路で水路の形跡が残っている。(写真7575)		
写真番号7477	写真番号2253	写真番号2254	写真番号7575
			

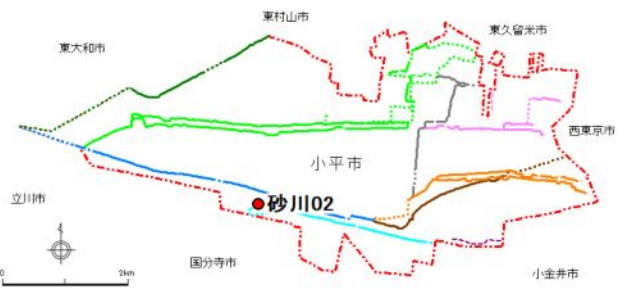
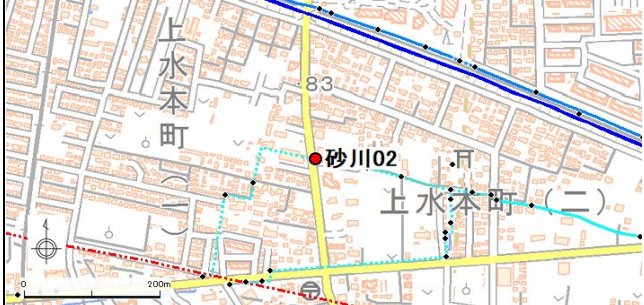




分水路網調査報告書

調査年月日	2018年10月5日(金) 12時~14時		調査者	鈴木		
調査地点	野中11		分水路名	野中分水(北堀)		
住所	小平市花小金井2丁目		北緯	35.730760	東経	139.5142087
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無					
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【不明】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【不明】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 不明 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm		
コメント	北堀の水路跡の通路(写真1572) 野中農園から小金井街道までは開渠(水無し)で水路は残っている。 小金井街道の西歩道下を暗渠で東京街道方向へと水路は続く。 (地元老人の話) 「小金井街道を越えて東方向への水路があった。幼稚園手前まであった」とのこと。 水路を確認したいが住宅などにより確認不明。 小金井幼稚園手前まで野中分水はあったという地点が写真1572の通路である。 この地点から北方向突き当たりが東京街道になる。 この地点後方青梅街道南側に小平合同庁舎がある。 東方向低地に花小金井幼稚園(写真1574・1575)を望む。					
写真番号1572	写真番号1574		写真番号1575			
						

分水路網調査報告書

<p>分水路名</p>	<p>砂川分水</p>	<p>調査期間</p>	<p>2018年 4月 ~ 2018年12月</p>																
<p>開始地点</p>	<p>小平市上水本町1丁目 付近</p>	<p>北緯</p>	<p>35.7183986</p>	<p>東経</p>	<p>139.463515</p>														
		<p>調査地点</p>	<p>10点</p>	<p>撮影枚数</p>	<p>193枚</p>														
<p>調査分水位置図</p>																			
<p>調査分水高低差図</p>	<table border="1" style="display: inline-table; margin-left: 200px;"> <tr> <td>平面距離</td> <td>3.2km</td> </tr> <tr> <td>始点標高</td> <td>83m</td> </tr> <tr> <td>終点標高</td> <td>75m</td> </tr> <tr> <td>最大標高</td> <td>83m</td> </tr> <tr> <td>最小標高</td> <td>75m</td> </tr> <tr> <td>累積標高(+)</td> <td>31m</td> </tr> <tr> <td>累積標高(-)</td> <td>-38m</td> </tr> </table>					平面距離	3.2km	始点標高	83m	終点標高	75m	最大標高	83m	最小標高	75m	累積標高(+)	31m	累積標高(-)	-38m
平面距離	3.2km																		
始点標高	83m																		
終点標高	75m																		
最大標高	83m																		
最小標高	75m																		
累積標高(+)	31m																		
累積標高(-)	-38m																		
<p>調査分水概略</p>	<p>開削願済年・名称</p>	<p>1657年(明暦3)・『上水記』では、砂川村分水とある。小平市内の砂川分水は、享保改革(1716)以後に開削された。</p>																	
	<p>分水の長さ</p>	<p>小平市内は、3.5Km。一部流水有り。</p>																	
	<p>開削願い者</p>																		
	<p>開削時利用村</p>	<p>砂川村 他</p>																	
<p>分水口サイズ 内寸(縦×横)</p>	<p>1791年(上水記3巻) 7寸四方 49坪 1870年(明治3)(東京市史稿) 2寸四方 54.45坪</p>																		
	<p>砂川分水は、昭島市つつじが丘1丁目 松中橋上流側から始まる。明暦3年(1657)開削、現在も多摩川の水が開渠で流れている。明治3年(1870)3月、分水口改正(統合)が発表され、南側11ヶ所の分水口は砂川分水に統合され今に至る。今回調査する小平市内の砂川分水は、第六児童公園北(小平市上水本町1丁目)付近から同市上水南町3丁目付近までの市域内の約3.5kmである。府中街道を越え数百mほど先の上水本町ビオトープ公園で北へと向きを変えている。この辺りの地下にはJR武蔵野線が、小平トンネルで突き抜けている。府中街道の西側の住宅街の中の上鈴木緑道という通路があり、その杭にも「砂川用水」の文字が書かれていた。これが北堀と思われる。南堀は、北堀(跡)と上鈴木稲荷前で合流する。砂川分水は三鷹市まで通され、その下流は深大寺用水とも呼ばれ、多くの恩恵をもたらしている。</p>																		

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月26日(土) 13時～15時		調査者	亀岡・安藤		
調査地点	砂川02 (二ツ塚緑道)		分水路名	砂川分水(北堀)		
住所	小平市上水本町2丁目 付近		北緯	35.7188972	東経	139.464978
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可 春の小川風景 有 無					
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 不明 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	cm		
コメント	この道路の左側に分水路跡、府中街道の上流 西側は水路形跡無し(写真244) 砂川分水北堀・府中街道～上鈴木稲荷付近以降は、旧上鈴木分水であったと思われる。 狭くなっている二ツ塚緑道(写真247) 二ツ塚緑道の標識(写真243) 標示板に「この付近から府中街道までの緑道は、砂川分水の分水路敷を整備したものである。昔この周辺には鎌倉街道を挟み東西に塚があったことから名づけられた」とある。 分水路暗渠(写真248)					
写真番号244	写真番号247	写真番号243	写真番号248			
						

分水路網調査報告書

調査年月日	2018年5月26日(土) 13時~15時		調査者	亀岡・安藤		
調査地点	砂川03 (ビオトープ)		分水路名	砂川分水(南堀)		
住所	小平市上水本町2丁目 付近		北緯	35.7177975	東経	139.467100
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 ビオトープ 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可			春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 親水公園 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	10 cm		
コメント	ノハナショウブの咲くビオトープ(写真429,426) 砂川分水南堀・五日市街道沿いで北側はビオトープの入口、南側は「十小通り」入口。 地下にJR武蔵野線が通る。					
	写真番号429		写真番号434		写真番号432	
	写真番号431		   			

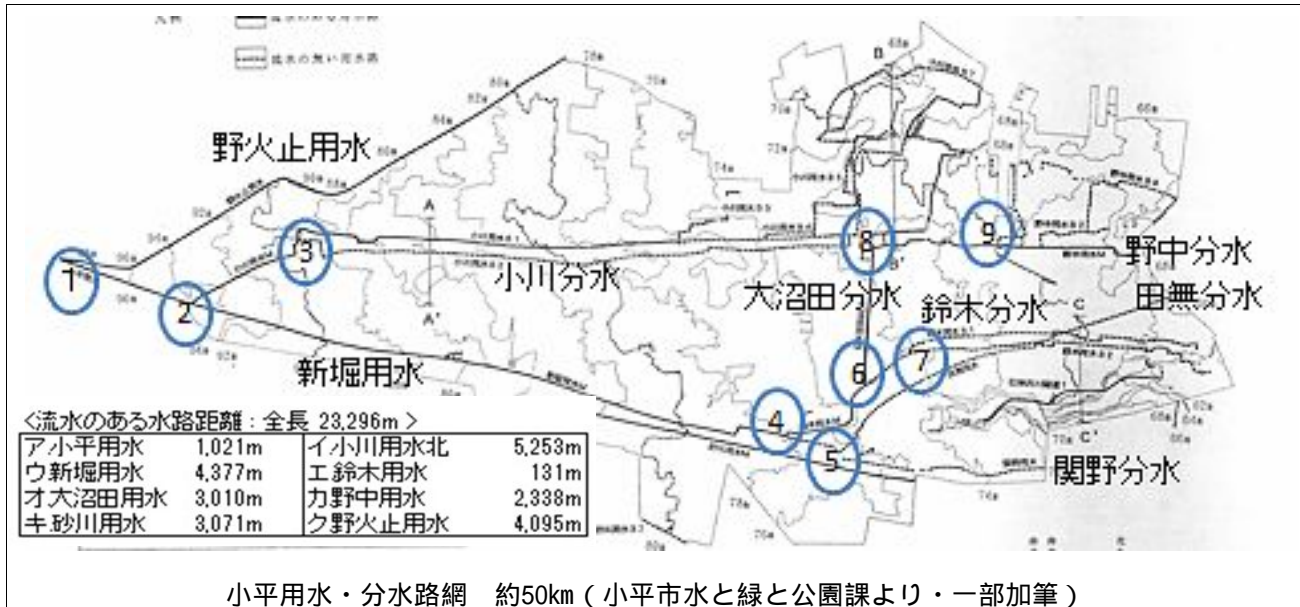
分水路網調査報告書

調査年月日	2018年4月26日(木) 10時~14時		調査者	亀岡		
調査地点	砂川09 (2500m)		分水路名	砂川分水		
住所	小平市上水南町3丁目 付近		北緯	35.7140766	東経	139.489193
設定地点	1 流路の中間 2 暗渠 3 分岐 4 合流 5 立体交差 6 開渠と暗渠の境目 7 橋の上 8 500m毎付近 9 洗い場 10 水汲み場 11 水車跡 12 回し堀跡 13 分水口跡 14 ほっこぬき 15 その他【 】					
						
周辺環境	1 住宅地 2 農家(屋敷内) 3 畑 4 道路沿い 5 緑道/遊歩道沿い 6 公園/親水エリア 7 鉄道 9 その他【 】					
近隣の施設	1 稲荷・水神 2 石碑 3 井戸 4 橋 5 公共施設 6 特になし					
残したい風景	優 良 可			春の小川風景 有 無		
生物環境	1 植物/樹木 2 動物 3 昆虫 4 魚類 5 ホタル幼虫/餌					
水路構造	開渠(1 一段 2 二段 3 その他【 】)					
	暗渠(1 木蓋 2 コンクリート蓋 3 鉄板蓋 4 その他【 】)					
	利用形態(1 歩道 2 遊歩道 3 その他【 】)					
	廃滅(1 下水 2 不明)					
水路壁面状況	1 土(自然護岸) 2 石 3 コンクリート 4 ブロック 5 鉄板 6 木 7 擬木 8 その他【 】					
水の状況	1 水有り 2 水無し		水深	5 cm		
コメント	2500m地点(上水南町3-4) 上流側(写真4335) 同 下流側(写真4334) 水は喜平橋の国分寺街道くらいまでしか流れていない。 (推定地)国分寺街道下流側に榎本水車跡か?(写真4333) 榎本水車は、野中新田善左衛門組(現上水南町3-3)喜平橋の南、榎本米穀店の所にあった。 榎本水車：寛政11年(1799)から昭和42年(1967)頃まで稼働していた。 製粉・精穀が主で一時、針金製造にも使用。 水輪径：1丈2尺(3.6m)					
写真番号4335	写真番号4334		写真番号4333			
						

第3章 水路の構造と水の多面的利用

第1節 各分水路の分岐水門

小平市には、9分水、全長約50kmの分水路が残っている。各分水の分岐口を示す。人々の生活は、朝一番の水汲みから始まる。台所の水瓶やお風呂用にとその水汲み役は、子供たちの一番の仕事だったという。



小平監視所(玉川上水からの取り入れ口)

この写真の右手前の分水口が、新堀用水への分水口(多摩川の河川水)である。一方、左側の分水口の水は、小平監視所から東村山浄水場へすべて送られ、水道原水とされる。

新堀用水は、監視所からほぼ1km下流の小川橋手前まで、ほっこぬき(たぬき堀・トンネル工法)で送られる。小川橋下から先ず小川分水を分かち開渠となって玉川上水の北側を流れる。小平市内の各分水の水は、全て多摩川の河川水が流れている。



新堀用水から小川分水の分岐口(左)

小川分水南北分岐水門



(写真番号5)



(写真番号56)

田無分水と鈴木分水の分岐

新堀用水終端



(写真番号123)

田無分水から関野分水分岐



(写真番号7620)

大沼田分水と鈴木分水の分岐



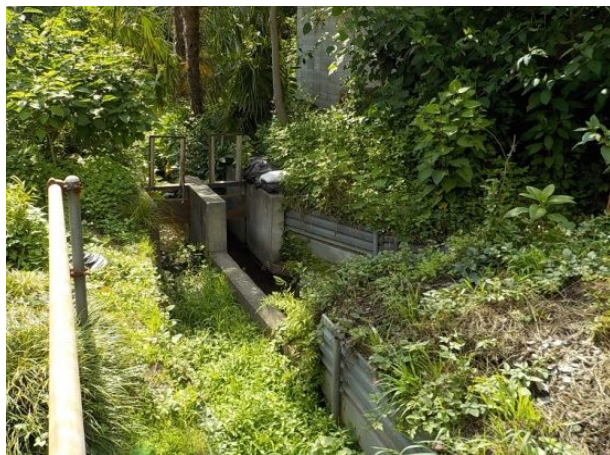
(写真番号996)

鈴木分水南北分岐



(写真番号692)

大沼田分水と野中分水分岐



(写真番号1019)

野中分水南北分岐



(写真番号7367)

第2節 各分水路の構造

小平市内9分水の構造にはさまざまある。「水路に水が流れていること」が本来の姿である。各分水ごとに、その表情2～3点を示す。

例：水の有無、水路構造(一段、二段)、壁面構造(土、鉄板、玉石、ブロック、コンクリートなど)、分水にふたをした暗渠(蓋の上を生活道、歩道などに利用)と地域名を示す。

野火止用水

流水有り・壁面は擬木
栄町3丁目



(写真番号201)

流水有り・壁面は玉石
栄町3丁目



(写真番号187)

新堀用水

流水有り・壁面は鉄道橋台部レンガ
たかの台



(写真番号86)

流水有り・壁面はコンクリート
学園西町3丁目



(写真番号392)

流水有り・壁面は左岸は玉石+コンクリート
たかの台



(写真番号396)

小川分水

南堀 流水有り・壁面は土(自然護岸)
小川町2丁目



(写真番号7242)

暗渠
美園町2丁目



(写真番号1251)

南堀 流水有り・壁面は鉄板
仲町



(写真番号7240)

南堀 流水有り・壁面は木
小川町1丁目



(写真番号61)

流水有り・壁面は玉石
美園町1丁目



(写真番号7485)

北堀 流水有り・壁面はブロック
小川町1丁目



(写真番号302)

北堀 流水有り・壁面は土(自然護岸)
小川町1丁目



(写真番号350)

田無分水

流水有り・壁面は鉄板
喜平町1丁目



(写真番号7416)

流水有り・壁面は土(自然護岸)
鈴木町1丁目



(写真番号7420)

流水なし・壁面は鉄板
鈴木町2丁目



(写真番号7427)

氷川通り・流水有り・壁面は鉄板
回田町



(写真番号2083)

鈴木分水

北堀 流水なし・壁面は擬木
花小金井南町1丁目



(写真番号648)

北堀 流水有り・壁面は鉄板
鈴木町2丁目



(写真番号566)

関野分水

廃滅水路 流水なし
回田町



(写真番号1094)

大沼田分水

流水あり・壁面は鉄板
天神町1丁目



(写真番号1028)

天井川・流水有り・壁面は金属
大沼町7丁目



(写真番号1133)

野中分水

流水なし・壁面はブロック
天神町4丁目



(写真番号7452)

北堀 廃滅水路 流水なし
花小金井3丁目



(写真番号1555)

砂川分水

流水有り・壁面は木
上水本町1丁目



(写真番号421)

流水有り・
壁面はコンクリート(塀素材)
上水本町4丁目



(写真番号274)

暗渠
上水本町2丁目



(写真番号421)

第3節 洗い場

各分水から引かれた水は、当初は、飲み水や生活用水として利用されていた。そのために上流から下流域まで、水の使い方には、それぞれ約束事を作って水を守ってきた。屋敷裏を通る分水から水を汲み上げるために水路に降りるための階段を作った。今も当時の遺構として残っている。

小川分水の一部を除き、流水がないために放置状態である。青梅街道沿いの小川一丁目地区の農家では、昔のように収穫した農作物を洗い、出荷している。

農作業が終わると、この分水路の水場を使って野菜などを洗うことで下流の水が汚れるのではないかと思うが、水は数メートル流れるときれいになってしまうという。(古老談)

小川分水 南堀



(写真番号7278)

田無分水



(写真番号1099)

小川分水 北堀



(写真番号70)

大沼田分水



(写真番号1212)

小川分水 北堀



(写真番号346)

野中分水



(写真番号2163)

砂川分水

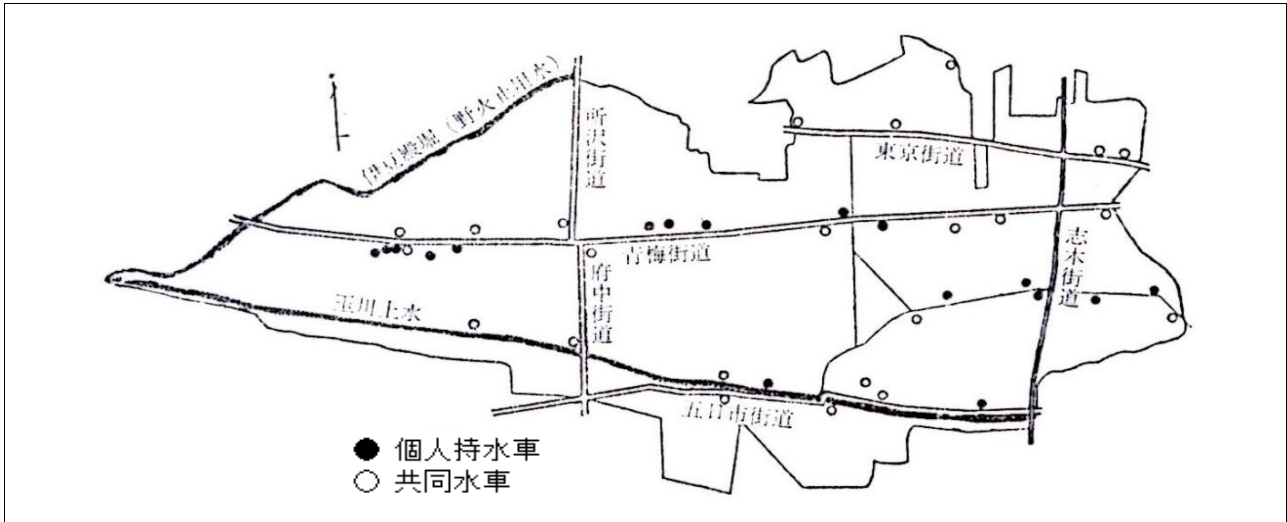


(写真番号7676)

第4節 水車場跡(推定地)

新田開発が進み農作物の種類や大麦・小麦の生産量が増えると、村の人々は分水路を利用して水車をかけ、穀類の精白、製粉を行うようになった。

初めのうちは、自分たちで消費するための小麦や粟・稗など雑穀の精白・製粉が水車利用の目的だったが、次第に他人から請け負って穀類の精白・製粉を生業にした。挽いたうどん粉などは江戸市中に運び販売した。おかげで人々の暮らしは安定し、特に幕末以降、武蔵野・小平は畑作中心の大麦・小麦や雑穀の生産地として成長してきた。



小平市域の1900年前後の水車分布(「小平町誌」による)
個人持水車17・共同水車23の印がある。(小平町史より)

① 新堀用水「小島水車場跡」

現鷹の台新小川橋の約50m上流の位置。当時の小島精米店、現在は、「ロ・ソン」の場所の裏手にあり、回し堀で水を引き入れていたと思われる。回し堀により水を引き込んだ分水口跡、回し堀そのものの跡が現在も残っている。

水車が設置されていたと思われる位置は、現在も雑木林の一角にあり、こんもりと土が盛られたようになっている。

今日、この水車に因んで「水車通り」「水車橋」の名称がついている。

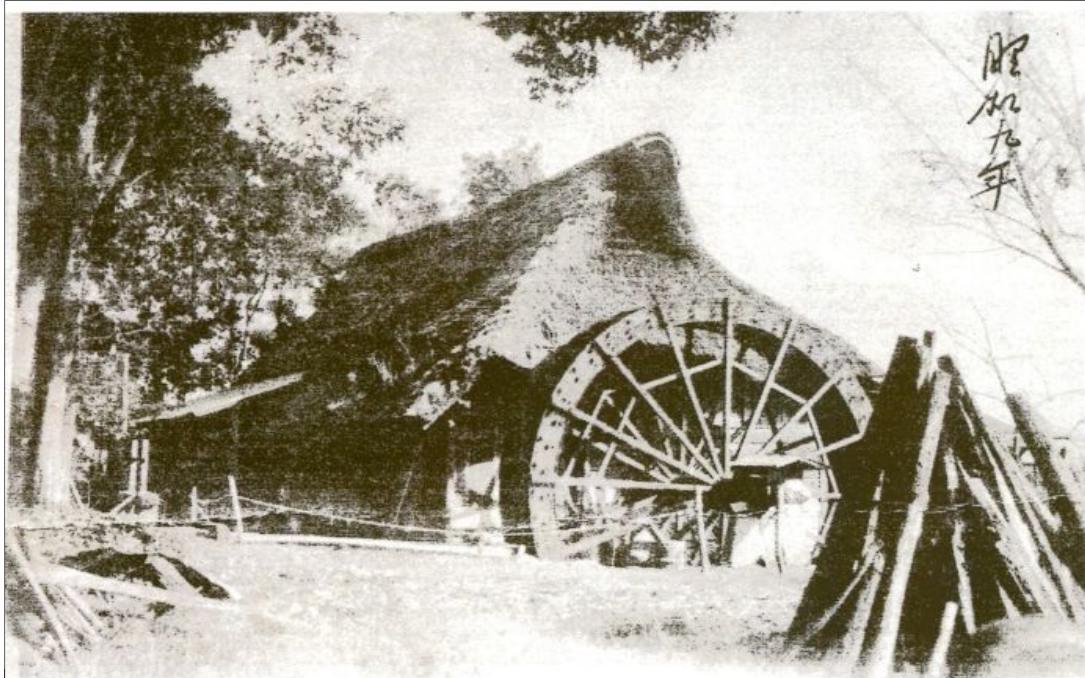
現在も残っている水車場跡



(写真番号 78)

新堀用水「清水水車場跡」

玉川上水沿い北側、現学園西町1丁目付近に設置(小平小桜橋交差点の手前)。玉川上水の桜NO.36の30m下流の無名橋のたもとに水の取り入れ口と思われる跡あり。その下流域左岸に排水口らしき跡あり。回し堀方式の水車と思われる。



昭和9年(1934)の姿(小平市史別冊図録より)

回し堀分岐跡(写真番号111)



砂川分水「荒畑水車場跡」

当時の鈴木新田、現上水本町4丁目 小平四中の南、西武多摩湖線の西、五日市街道南側に位置し、回し堀で水車を回していたと思われる。使用後の水を戻すための排水口跡(現在はベニア板で塞いでいる。)が見られる。

現在、荒畑本家宅の一角に井戸らしきものがあり、水車の位置ではなかったかと思われる。水車の回し堀を結ぶ位置は現在は、駐車場用地となっていて、水の取入れ口と排水口跡は開渠の分水路の上から観察出来る。

水車場跡地



(写真番号7354)

水車場出口



(写真番号7773)

砂川分水「高杉水車場跡」

当時の堀野中・野中新田善左衛門組 現上水南町3丁目 玉川上水小桜橋の約200m下流、茜屋橋の上流南西の位置に設置、分水路の真上に水車を架けたと思われる。現在分水路は水無しのコンクリート製の蓋の暗渠となっている。現在は道路、駐車場用地の一部と化している。

高杉水車場跡



(写真番号4344)

水車場跡の下流の暗渠



(写真番号4345)

砂川分水「堀野中榎本水車場跡」

当時の野中新田善左衛門組。現上水本町2丁目 喜平橋の南、五日市街道と国分寺街道との交差点脇。元榎本米穀店の東側に位置。玉川上水の南側60m下流。

国分寺街道下流側推定地



(写真番号4333)

同左 推定地



(写真番号7782)

大沼田分水「當麻(たいま)水車場跡」

當麻家東側の分水路を挟む位置にあった。水車利用水路の末路付近は少し高い土手になっており、東京街道(江戸街道)の北側に位置している。



(写真番号1242)



(写真番号1239)

鈴木新田「深谷定右衛門水車場跡」

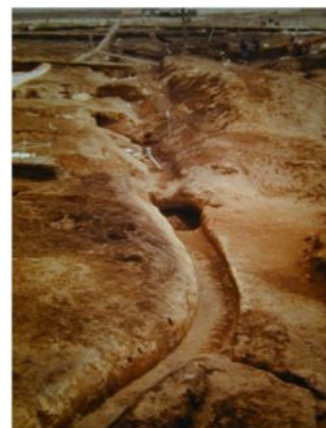
昭和49年(1974)の鈴木小学校(小平市鈴木町1-450)建設に伴い、旧石器時代の遺跡発掘の過程で水車の水路跡が発見された。

水路跡は現在の鈴木小学校体育館の位置。しかし建設時に建設用地として埋め立てられたといわれており、現在はその跡形はない。鈴木田用水北堀の水を利用したものと思われる。

(水路跡の写真:資料「鈴木遺跡」から転載)

(参考出典)

・「鈴木遺跡」 解説(小平市教育委員会)



第5節 流路の変更

回田町分岐水門と田無・鈴木分岐水門との関連性について

新堀用水から山家地区の田無分水と鈴木分水の分岐水門(写真123)と小平団地中央より東に位置する回田町分岐水門(鈴木分水と大沼田分水の分岐口)の位置関係を地図上で確認した。現在の一橋学園駅と玉川上水の間小平市喜平町2丁目一帯には、建設大学校、関東管区警察大学校や陸上自衛隊が設置されている。これらの設置時期以前を考えると、鈴木分水の流れは、現在の回田町分岐水門のある北東方向に向け直進していた。(昭和12年国土地理院地図参照)

この広大な地区(赤丸印)は、昭和16年(1942)には陸軍経理学校開設となり、現在は警察大学校、小平団地となっている。これらの建設に伴い、その敷地沿い南側に鈴木分水の流路が変更されていたことがわかる。



昭和23年国土地理院作の地図を見ると、警察大学校の南側(写真番号2298)から小平団地、喜平図書館の南面に沿い分水路となっている。水路はコンクリート蓋の暗渠(写真番号2299)で続く。現地調査では、歩道を兼ねた暗渠となっている。(写真番号2310)

コンクリート蓋に耳を当てると水流の音が聞こえる。この流れは、小平団地中央の東側、鈴木街道手前で開渠となり回田道分岐水門に向う。昭和初期、昭和20年～30年代、平成の小平市地図を比べることで、分水の流れが変わっていることなどを知るヒントを得たことになった。今後の課題である。

田無分水と鈴木分水の分岐水門



(写真番号123)

警察大学校の南側



(写真番号2298)

コンクリート蓋の暗渠



(写真番号2299)

歩道を兼ねた暗渠

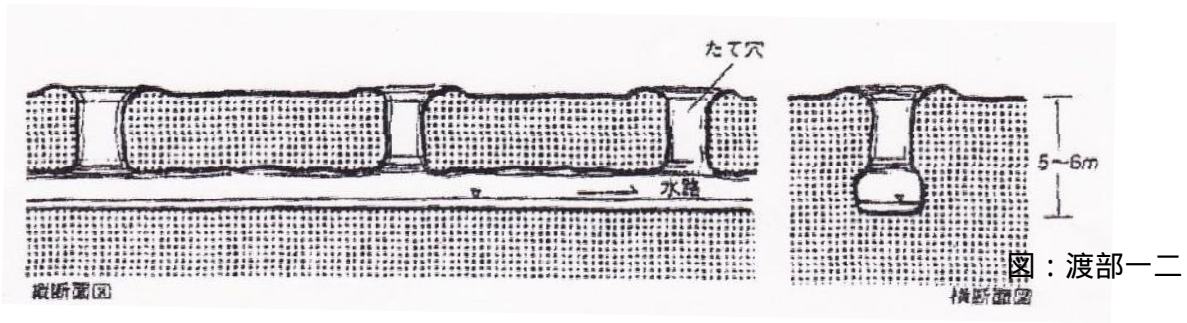


(写真番号2310)

第4章 残存する水利遺構の様子

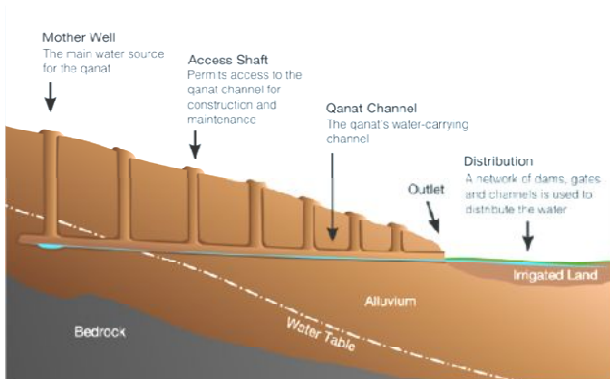
第1節 新堀用水 ほっこぬき(胎内堀、たぬき堀)

小平監視所から小川橋下流までの約1kmは「ほっこぬき」(胎内堀)という工法で作られている。水路を掘る時、土地が高くなっているところや平らで水が流れにくいところでは、人がやっと通れるくらいのトンネルを掘った。このトンネルを「ほっこぬき」という。掘りぬくという意味とされる。特に厚い関東ローム層では、狭く深く細い水路は掘りにくかった。そこで縦穴を掘り、地下で横穴をくりぬき、次々につなげていくトンネル工法とした。先人の知恵である。(図参照)



(参考) カナート

カナートとは、イランの乾燥地域に見られる地下用水路のこと。



カナートの横断面

「ほっこぬき」出口拡大(2018年)



2018年の「ほっこぬき」



「たて穴」は保全目的で柵で囲ってある



(写真番号6487)

(写真番号1864)

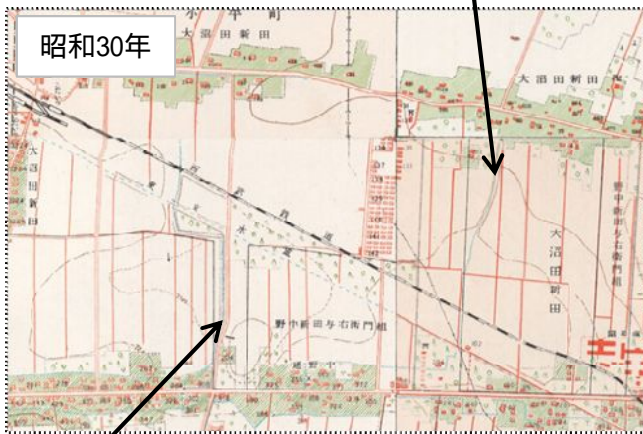
第2節 大沼田分水 築樋（天井川）

地元では、天井川と呼んでいる。高い地点から次の地点に水を引くとき、その途中が低い場合に土を盛り上げ水路を作った。水路を守るためにススキなどを植えて壁面を保護していた。写真の水路は住宅の一階軒先まで盛り上げている水路が今も残っている。(写真番号1135)



(写真番号1135)

大沼田分水の天井川



小川分水の天井川



(大沼田分水の天井川部分拡大図)

盛り土の中の水路と両側の畑とは1m余の高低差がある。裏壁面はビニールで覆い砂袋で止めてある。(大沼町)



天井川の壁面状況



畑地を流れる天井川



(写真番号1133)

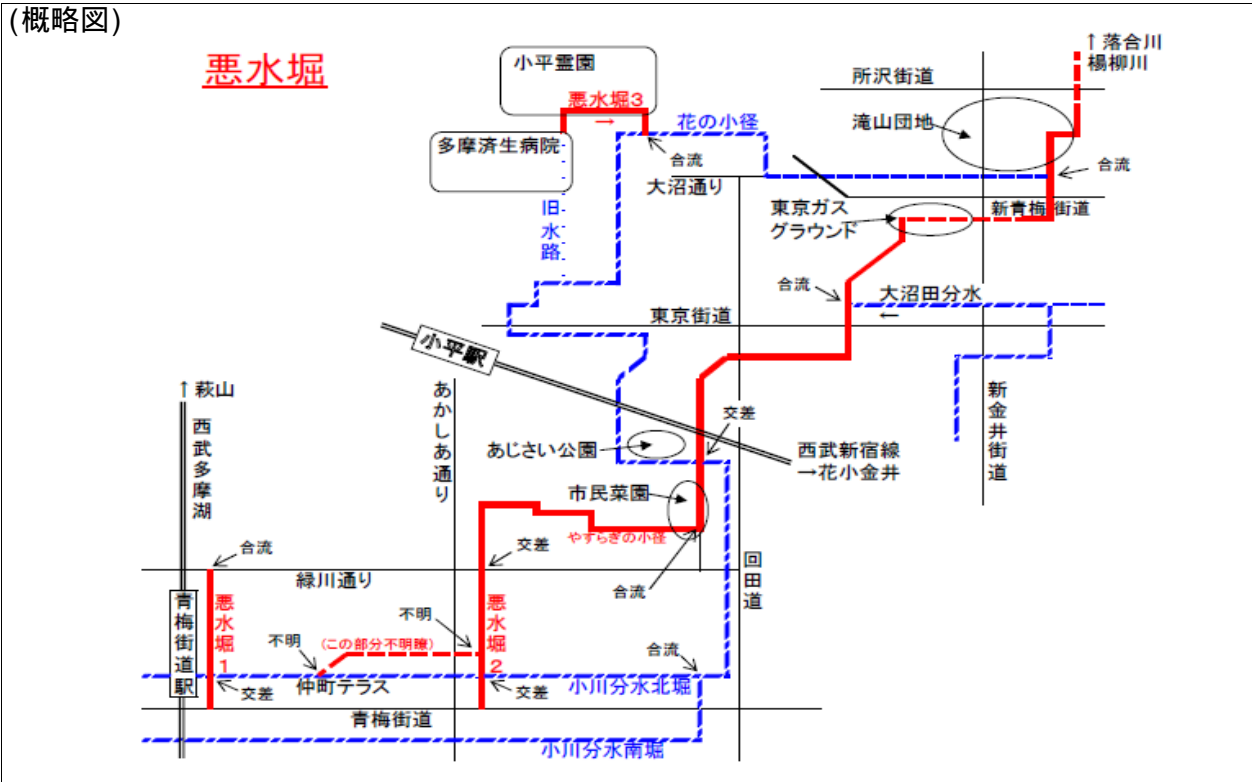


(写真番号1147)

第3節 小平市域の悪水堀（排水路）

悪水堀とは、河川がなく平坦地の多い小平にも、いくつかの出口のない「窪地」が存在した。また一部は、各分水路の流末の余水を排水として流したものである。

一方、昭和30年代(1900年代中頃)から、市域は住宅開発が急務となり、これら窪地に溜まった雨水は行き場がなく、不透水地域として拡大し、雨水水害が多発した。そのため住宅地を守る排水対策として、悪水堀が整備されたと考えられる。



1. 悪水堀 1

青梅街道駅東側付近 小川分水北堀と交差

西武多摩湖線青梅街道駅の東側、青梅街道に接した北側からこの悪水堀は始まる。小川分水北堀と交差し、北に通じる道路の一部と合し、コンクリート製蓋で暗渠が続く。(写真番号7118)

この道路を北上して緑川通りへと至り、一時その姿を消してしまうが、いずれは緑川へ流れ込む。小川町2丁目から始まるこの悪水堀は、主として平安窪の排水のためといわれている。(写真番号7120)



(写真番号7118)

緑川通り

ブリヂストン東京工場が出来た当時の悪水堀として流した。その後、道路(緑川通り)として今に至る。



(写真番号7120)

2. 悪水堀 2 (推定ル - ト)

仲町テラスの北側の痕跡 (推定地)

仲町テラスの北裏手(写真番号7192) から あかしあ通りを東に横断、小川分水北堀と北側で交差して北上。この悪水堀は緑川通りを北に横断して走り、緑川通りは東西を走る。

緑川通りの北側を抜け畑地の脇を走り、途中東に曲がる。(右折)小川駅東通りを東に横断し、小さなクランクを描き走る。コンクリート道路の両側は植栽。

さらに北上して右折(東方)し、やすらぎの小径に入る。レンガ敷道路の両側は植栽。この小径沿いに彫刻と彫刻の下部に水の出入口がある模様。(写真番号7192)



(写真番号7192)

青梅街道沿い 小平駅入口バス停付近

市民菜園を通り抜けて走り、回田道の手前を左折して北上、あじさい公園前から小川分水北堀とこの悪水堀が交差。あじさい公園の南側へ。



(写真番号7147)

あじさい公園付近 小川分水と交差

あじさい公園の東側(写真番号7487)、水道道路の南側から水道道路を横断して、西武新宿線南側に出る。

西武新宿線北側から回田道の西側に並行して走り、途中斜め(北東方向)に走る。悪水堀が回田道と交わる地点に来る。

コンクリート蓋の暗渠が続く。七小通りに入る手前を左折し、七小通りに沿って北上して東京街道の手前南側へ。



(写真番号7487)

七小入口交差点のある東京街道を横断し、東ガス西通りに入り北上する。さらに東ガス西通りを北東に走ると東ガスグラウンドに入る。この先は東に曲がって走る。

東久留米市滝山付近の新小金井街道を東に横断して、大沼町5丁目域の新青梅街道の南側へ。さらに東から北に向きを変え(左折)北上し、大沼田新田域の「アクスイ窪」を経て所沢街道に至り、いずれは楊柳川と落合川に注ぐ。

3. 悪水堀3

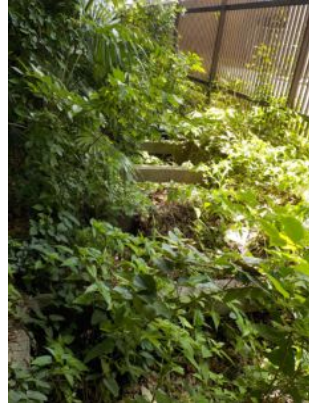
多摩済生病院の北側、大沼通り付近からこの悪水堀は始まり、この大沼通り沿いを走る。大沼通りに面した小川分水とこの悪水堀は合流するが、小川分水の旧水路かもしれない。

・ 右上から悪水堀3が合流している。

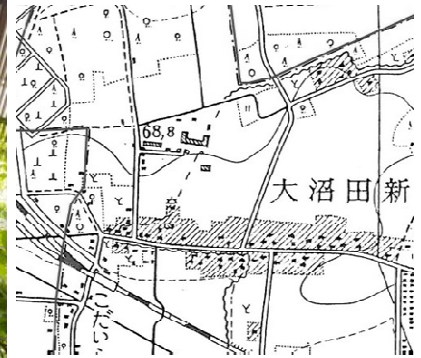
・ 悪水堀3は小川分水旧水路跡かもしれない



(写真番号7542)



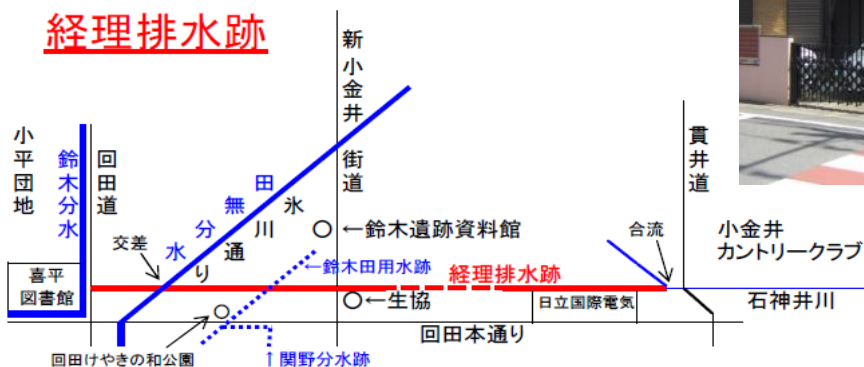
(写真番号7378 小平霊園南端)



(昭和23年 国土地理院地図)

4. 経理排水跡

経理排水跡



(写真番号2087)

経理排水跡 氷川通りで田無分水と交差

この排水路は喜平図書館の東側から氷川通りを横断して(写真番号2087)、回田町域をさらに東に走る。新小金井街道を横断して、生協建物の北側へ。生協の東側の道で、排水路の先端は無くなるが、日立国際電気(株)の北側で再び排水路(土手になっている暗渠)が出現する。(写真番号7785)

小金井カントリー・クラブのゴルフ場の西側手前でこの排水路の終端は石神井川へと注がれる模様。(地元のご婦人より)

この排水路は、戦前、陸軍経理学校が開設された際、現在の喜平図書館付近から石神井川へ注ぐ排水路が開削されたものとされ、「経理排水路」と呼ばれていた。

現在西側の回田道と東側の新小金井街道との間、約500mほどの経理排水は暗渠となり、草花街道の名前が付けられており、街道壁面に下水道管理道路と標示されている。



(写真番号7785)

(注)上記文中の「～走る。」とは、悪水堀、排水路は大半が暗渠とされておりその流れは不明につき、敢えて分水路のように「流れる。」を使用しないで、悪水堀、排水路にのみに使用する表現とした。

第5章 多面的利用形態 残したいわがまちの宝もの



野火止用水と野火止緑地 (小平市中島町～小川西町)

野火止用水は、承応4年(1655)開削。上水記にある分水の中で最も古く大きな分水である。野火止一帯の新田開発のために開設され、平林寺、川越公園まで約25kmもある。40日間の工事だったと記録されている。

玉川上水の水量の1/3(3600寸坪、常時1200寸坪)が新河岸川まで流れる。老中松平伊豆守信綱により開設されたことから「伊豆殿掘」と呼ばれる。



開渠となった箇所から東野火止橋までを野火止緑地とし、緑を維持し市民のくつろぎの場として保んに努めている。その結果、樹木観察会では、40種以上の樹木が観察されるほか、多くの野鳥や昆虫が確認されている。



小平西部地区の航空写真で、上方の緑の塊が野火止緑地である。野火止用水はこのグリーンベルトの中を流れている。

新堀用水 (小平市中島町～喜平町)

明治3年(1870)分水口改正により野火止用水口より下流左岸にあった小川村、大沼田新田、野中新田、鈴木新田、田無村、関野新田の各分水口が廃止された。統合された各分水への送水用に今の小平監視所付近から玉川上水の北側沿いに新しく水路が掘られた。水路の一部は既にあった各分水の水路が利用されている。

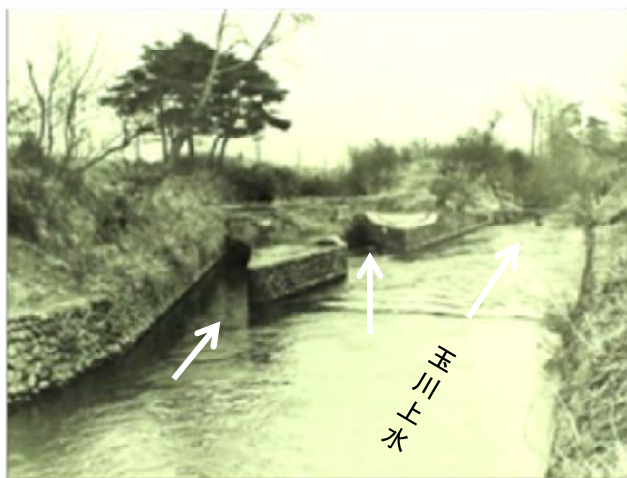


(写真番号7382)



(写真番号268)

(写真番号7379)



(昭和30年ごろの小平水衛所)
 満々と流れる玉川上水から野火止用水(左)と新堀用水への取り入れ口。

現在の玉川上水の小平監視所(旧小平水衛所)は、昭和38年(1963)完成する。昭和55年(1980)熊川・砂川水衛所を統合した水は、羽村から小平監視所まで開渠で流れる。

流木や落ち葉などのごみを取り除き水道原水として直径2mの導水管で東村山浄水場へ送られる。小平監視所が造られる以前は、野火止用水と新堀用水の分水口があった。(写真)

新堀用水には今でも多摩川の原水が流れている。

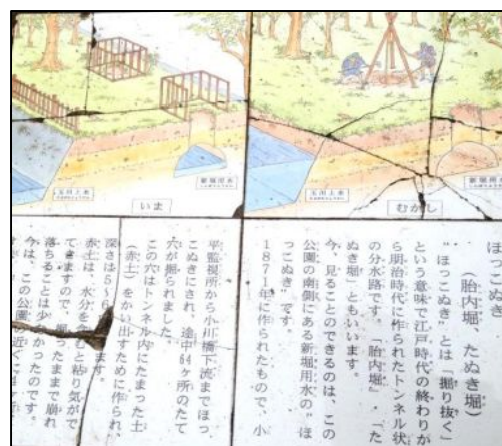
新堀用水ほっこぬき（胎内堀、たぬき堀）（小平市中島町）

明治3年(1870)分水口改正・通船事業により、野火止用水口より下流左岸にあった小川村、大沼田新田、野中新田、鈴木新田、関野新田、田無村の各分水口が廃止された。

統合された各分水への送水用に現在の小平監視所付近から玉川上水の北側沿いに新しく用水路が掘られた。全長6.1kmの新堀用水である。小平監視所から約900mを関東ローム層の地下をくりぬいて水路を作った。「胎内堀」「たぬき堀」ともいう。水路の一部は既にあった各分水の水路が利用されている。



新堀用水ほっこぬきの出口全景。
(写真番号6492)



「ほっこぬき」の説明板



4か所の豎杭が残っている。
(水路の工事用、清掃用)

小平監視所から小川橋まで約900mの所々に縦穴を掘り、その底から両側に横穴を掘りつなげたという。幅の狭い分水を開渠で掘るのは難しく関東ローム層ゆえの知恵だったという。調査時点では、この「ほっこぬき」の出口の乾燥化が進み、出口の崩壊が心配され、保全工事が実施されている。新堀用水「ほっこぬき」の保全は、小平市内総延長約50kmの分水路網の首根っこ(要)ともいえる水路である。

新堀用水の小川分水取水口（小平市中島町）

立川市と東大和市、所沢市を結ぶ古い橋が上水記に残る「小川橋」である。この小川橋北側たもとに新堀用水と小川分水の二手に分かれる分岐口がある。左手が小川分水、右手が新堀用水である。分岐した小川分水は、立川通りに沿って「彫刻の谷緑道」に流れる。新堀用水からは市内の各分水約50kmに配水されている。



（左は小川分水口、右は新堀用水口）（写真番号5）



小川橋：橋下に分岐水門が見える
（写真番号6500）

この分岐水門から小川分水は、小平市内の青梅街道の南北に平行して仲町の天神窪手前まで流れ、北に向け流れを変える。地形の変化を考えた先人の知恵である。天神窪から東へは、新堀用水下流の喜平町から田無分水、鈴木分水として分水されている。鈴木分水からは大沼田分水、野中分水が、田無分水からは、関野分水が昭和30年代まで流されていた。

青梅街道 小川分水南北分岐水門 (小平市小川町1丁目)

小川分水の青梅街道南北への分岐水門がある。明暦2年(1656)岸村(現武蔵村山市)の小川九郎兵衛は新田開発を願い出て、用水として玉川上水に1尺(30cm)四方の樋口を設け分水することを願い出た。小川新田(後の小川村)の誕生である。

小川分水は当初、東小川橋付近を取り入れ口として十二小通りに沿って北上し、青梅街道の南北に分かれ青梅街道に平行して流された。小川新田の開発による分水と短冊形の農地と屋敷林は小平の原風景である。



(写真番号56)



小川分水分岐口からの南堀の景観

「小川用水」の表示板と遊歩道が青梅街道沿いの南側に流れる。水の流れと木製の壁面の2段構造は四季の草花も植えられ、お年寄りや親子の散歩道となっている。
(「魁(さきがけ)の流れ」小川南06の写真参照)



青梅街道の下をくぐり抜けた北堀 (写真番号297)

新堀用水 小島水車場跡 (小平市たかの台)

小平市たかの台の新小川橋の北側に小島精米店があった。(現ローソン)

水車への回し堀跡、水車場のコンクリート壁が樹林地に残る。西側の樹林地に新堀用水から引き入れた水路跡(回し堀跡)がある。水車にかかるコンクリートの水路堰跡が残る。水車にかかる回し堀の築樋による水路と水車の土台が残っている。

(小島氏の1/10の水車模型も残っている。)

明治39年(1906)から昭和25年(1950)まで稼働していた。



小島水車の遺構が残る西側の樹林地。回し堀の水路跡も確認され、水車が設置されていたコンクリートの壁も残っている。(矢印は流水の方向)



(写真番号7527)



(昭和57年測図)

(写真番号81)
(矢印は流水の方向)

小川分水南北合流地点（小平市天神町1丁目）

青梅街道と回田道の交差点を天神窪と呼ぶ。小川分水の流れは、この窪地を越えて東方向へは流れることは不可能である。地形は、北方向へと約2m程下がる。昭和30年ごろまでは、天井川となってこの低地に盛り土をして水を流したという。

現在は、南北合流した後、回田道の西側歩道下を暗渠であじさい公園まで流れる。



小川分水の南堀と北堀の流れが合流する地点(矢印は流水の方向)



東西方向の青梅街道と南北方向の回田道との交差点(信号)。天神窪と呼ぶ。



回田道と歩道(信号は天神窪の交差点)

合流した小川分水は回田道の歩道下を暗渠で流れる

天神町交差点は、天神窪と呼ぶ窪地の為、青梅街道沿いを東に流れてきた小川分水の南北水路は合流する。合流地点の流れは、回田道を暗渠で北方向に進み、あじさい公園の南側で、開渠となり水は吹き出す。

昭和の初めまでは、流路をかさ上げた天井川となっていた。

現小平市域はこの天神窪にて東西に分けることになる。水路は天神窪を越えて東側には流れなかった。東に展開された鈴木新田、野中新田などには、新堀用水から分水されることになった。

小川分水あじさいの小径と狭山境緑道・あじさい公園（小平市美園町）

小川分水あじさいの小径は、小川分水の水があじさい公園を取り巻くように流れる。昭和48年あじさいの名所を目指し造られた親水公園である。公園をぐるりと取り巻くように小川分水の水路があり通年水が流れている。ホタル池もある。狭山境緑道散策の途中に立ち寄れる憩いの空間でもある。



あじさいの小径 子供たちがザリガニ取りなどで楽しめる。(写真番号1385)

(矢印は流水の方向)



あじさい公園 市民の手入れが行き届き親子でゆっくりと楽しめる空間。



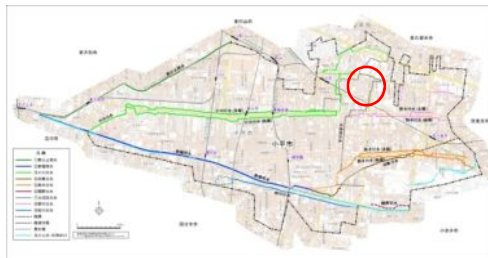
ホタル池 ヘイケボタルの自然発生に挑戦中。毎年蛍の乱舞がみられる。



狭山境緑道（グリーンロード） 狭山湖から境浄水場まで続く緑道。

大沼田分水築樋(つきひ) (小平市大沼町7丁目)

新小金井街道西側に約400m程の天井川(築樋)がある。小川分水からの水が今も流れる。東京街道沿いの大沼田新田に送られた。道路よりも1.5mも高く土盛りされている。昭和の初めごろまでは、天神町交差点から回田通りの西沿いにも天井川があって、水路の土が崩れないように茅が植えられホタルも飛んだ。



東京街道沿いの大沼田新田に水を送る為に作られた。新小金井街道の道路面よりも1.5mも高く土盛りされている。現在の水路は、コンクリート製で、盛り土が崩れたりしないようにとビニールシートで保護されている。

昭和の初めごろまでは、天神町交差点から回田通りの西沿いにも天井川があって、盛り上げた水路の土が崩れないように茅が植えられていた。ホタルも昭和45年ごろまで飛んでいた。(古老談)



地元では、天井川と呼ぶ。右下の民家の軒下の高さで流れていることがわかる。水路の右の東側には、新小金井街道が南北に通る。(写真番号1137)



(写真番号1135)



(写真番号1140)



(矢印は流水の方向)

畑地を通る田無分水 (小平市鈴木町2丁目)

土壁のままの流路が畑地の中を西東京市(旧田無町)に向け真っ直ぐ(東北東)に通る。

田無村分水が元禄9年(1696)玉川上水から引かれた。喜平橋付近に取水口があった。田無村まで一直線で引かれた。その水路は今もそのまま開渠で小平市域に残る。水は鈴木町2丁目の畑地ぐらまでしか流れていない。近郊農業としての小平の原風景として貴重である。土壁とチャノキが植えられている畑地は残したいもの。



畑地を通る田無分水。「春の小川」を連想させる。昔ながらの土の壁面で、水はこの先まで。

(写真番号2109)



(矢印は流水の方向)

(写真番号7420)

田無分水・鈴木分水南堀の交差点（小平市鈴木町2丁目）

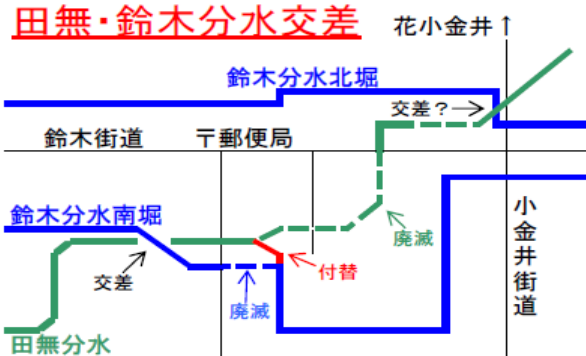
昭和5年コンクリート製の掛樋。守り残しておきたい地点である。

田無分水が元禄9年(1696)に引かれた。鈴木新田が鈴木街道沿いに開かれ水が引かれたのが享保17~19年(1734)頃とされる。両分水共に開渠である。

鈴木街道の南側を流れる分水が先に流れていた田無分水の流れと交差した。木製だった橋が昭和5年にコンクリートに作り変えられているが流路が交差する貴重な地点が残っている。



(概略図)



田無分水の上に架かる鈴木分水のコンクリート製の水路橋である。この先で田無分水と鈴木分水の流れは、壁面が鉄板の鈴木分水の流れに合流されている。(矢印は流水の方向)

調査を終えて

本調査に取り組んでほぼ1年が経った。分水路を歩き始めたころの、新緑まぶしいせせらぎの春の小川は、暑い夏が過ぎいつしか錦秋の水辺となった。

小平の分水路のほとんどには、現在もなお少なからず多摩川本流の水が供給され分水路周辺の人々や親子間の交流に、何らかの憩いと癒しをもたらしているものと思われる。

今回歩いてみてわかったことは、一つ一つの分水路には息づく命があり、「わがまちの宝もの」にしたい特色があった。例えば様々な歴史的遺構、水車場の跡、護岸構造や水路の変化を知り、その中で都市化の波に押され、流路が変更され次第に分水路の姿かたちを変貌していく様を、まざまざとうかがい知ること出来た。

また、市当局による新堀用水にみられる「ほっこぬき」(別名、たぬき堀、胎内堀)開渠坑口の補強改修工事や小川分水路北堀の「八雲せせらぎ水辺」、同南堀の「ハッピー-とんぼ池」などに見られる新たな親水公園が増え、移り行く時代の中、並々ならぬ分水路の維持・管理とともに、後世に伝えるための努力施策が施されていた。

さらには新しい発見の一つとして、特に昭和年代の産物ではあるが、宅地開発などからもたらされたと考えられ、かつ現存する窪地と組み合わせた雨水・水害対策としての悪水堀の水路にも、改めて足を止めることが出来た。

しかし一方では、市当局の分水路網にかかる将来計画・施策など、具体的に今後どのように進めていこうとしているのか。また代々農業を営み分水路を利用してきた地域地元の人々や、新しく小平市民となった人々の分水路に対する気持ちや思いなど、今一つ聞き取れていないこともあり、つぶさに調査が出来なかった点は、いささか心残りとなった。

確かに一年に一回、定期的にそれぞれの地区地域の人々が集い、分水路の一斉清掃が実施され、またホタル飛び交う分水路には、それを楽しむ人々がいることも確かだが、果たして分水路周辺の人々は、これらの分水路と今後どのように向き合っていくか。そのことは、これからも市当局、市民一体となり、たゆまずに取り組んでいくべき課題だと思う。

また、今回の調査の成果が、今日ユネスコ未来遺産としての「玉川上水系の小平分水路網の保全活用」の在り方にかかわって、玉川上水とともに、将来どうあるべきか真剣に考えていく一つのきっかけになれば大変うれしい限りである。

その点から、今後どのようにすれば「未来遺産としての小平分水路網」を後世に伝承していくことが出来るだろうか、ここにいくつかの今後に取り組むべき課題として提示させていただきたい。

「小平分水路網約50Kmを伝承していくための課題」

(1) そのひとつは勿論、後世によりよく伝承していくための不断の努力を続けていくことが大切であり、今回の調査で蓄積された770余点の調査地図データを足掛かりに武蔵野美術大学など市内の大学・高等学校とともに連携して、さらなる分水路網調査を継続発展させていくこと。

(2) 二つ目には、「水の恵みの小平」を創っていくことにある。

具体的には、

市内50kmの分水路網を今後とも永続的、かつ持続的に多摩川本流の水の流れる分水路網として、雨水や地下水とともに多面的利用を進めていくこと。

市民目線で選んだ小平版「残したいわがまちの宝もの」の保全活用と、50年後につながる「小平市民の宝もの」として提案し、紹介や案内、学習会、講演会などを開催すること。

新堀用水、小川分水の流れを利用して、水の恵みを体験できる「水車場」の設置を提案していくこと。

開渠のせせらぎ、水辺空間の創出を提案していくこと。

親子の憩いの場所として、植栽、トイレ、井戸、ベンチなどをワンセットとして造るなど、災害対策の一環としても水利用に供する提案をしていくこと。

鈴木遺跡の原頭部や各分水路の下流部、流末部が歴史的につながっていたと思われる小河川に、再びつなげることを試みていくこと。

小平の歴史や食文化などの伝統を取り入れた「フィールドミュージアム」の実現に取り組んでいくこと。具体的には、案内図、案内地点の解説書の作成を通じて、小平市内の公民館、地域センターなどを「フィールドミュージアム」の拠点のひとつとし「水の恵み小平」に相応しい各種資料の蓄積と配布を考えていくことなどである。

近い将来、小平市の分水路網の環境が世界遺産登録されるために、「小平市の水路網の環境保全・継承」のための憲章を宣言するよう小平市へ働きかける。

また、これまでの調査から、時代考証、検証について

小川橋下の新堀用水と小川分水取水口、および東小川橋からの小川分水取水口の時代考証

鈴木分水の田用水の取水口と水路位置の検証（第4章 4. 経理排水路 参照）

関野分水と小平第三小学校の水路位置の変更の検証

などが課題として残った。なお、今回の調査に伴い、その分水路を取り巻く玉川上水周辺の生物環境(植物と鳥類)についても、若干ではあるが、巻末に載せさせていただいた。

最後に、今回の私たちの調査・研究ならびに本冊子の発刊に際して、ご支援・助成をいただいた「公益社団法人 とうきゅう環境財団」の皆さまをはじめ、調査当初より地図情報に関する連続講座を精力的に開催していただいた東京カ・トグラフィック(株)の猪原紘太氏、さらには小平市、関係諸機関の関係者の皆さまには、多大なご協力とご支援を賜りましたことに、改めて感謝申し上げますとともに深く御礼申し上げます。

2019年3月31日

学び舎江戸東京ユネスコクラブ
水と緑・環境委員会

代表研究者

共同研究者

共同研究者

共同研究者

監修

調査・研究応援スタッフ

鈴木 利博

櫻田 誠

久保田 進

亀岡 哲也

渡部 一二

藤原 靖史

牛島 真弓

安藤 裕

・参考文献一覧

著書名	副題	著者	発行	発行日(西暦)
小平市史	「考古・地理・民族編」 「近世編」「近現代編」		小平市史編纂委員会	2014年3月29日
小平市史 別冊図録	近世の開発と村の暮らし		小平市	1950年3月29日
小平市三十年史			小平市	1994年3月
小平の歴史	小平市史概要版		小平市	2015年
小平市用水路活用計画			小平市水と緑と公園課	2009年3月
小平町史			小平町史編纂委員会	1959年3月31日
小平の歴史を拓く 第2.3.5号	市史研究		小平市企画政策部 市史編纂担当	2010年3月31日 2013年3月31日
郷土こいだいら		小平郷土研究会	小平市教育委員会	1967年11月10日
古文書に見る小平の水	文化財シリーズ 3	小平郷土研究会	小平市教育委員会	1984年1月15日
私たちの小平	中学生版副教材		小平市教育委員会	2002年4月1日
わたしたちの小平市	小学生版副教材		小平市教育委員会	2002年4月1日
鈴木遺跡 解説			小平市教育委員会	1995年3月31日
玉川上水論集	羽村町史史料集第8集		羽村町教育委員会	1982年3月15日
玉川上水 その歴史と役割			羽村市教育委員会	2004年10月1日
江戸・東京の川と水辺事典		鈴木 理生	柏書房	2003年
玉川上水と分水	新訂増補版	小坂 克信	人物往来社	1995年5月20日
玉川上水の分水の沿革と概要		小坂 克信	とうきゅう環境浄化財団	2014年11月1日
玉川上水歴史探索ガイド	玉川上水のホ・ソトが・ト	庄司 徳治	玉川上水再々発見の会	2010年3月
玉川上水	親と子の歴史散歩	肥留間 博	たましん地域文化財団	1991年10月
大岡越前守と武蔵野新田の開発			東京都歴史文化財団 江戸と東京たてもの園	2002年3月19日
武蔵野と水車屋		伊藤 好一	クオリ出版	1984年5月
図解 武蔵野の水路	玉川上水とその分水路の造形を明かす	渡部 一二	東海大学出版会	2004年8月5日
生きている水路	その造形と魅力	渡部 一二	東海大学出版会	2003年 4月
東京の水 2009 fragments			インターネット情報	
川のpromナード	河川や用水・川跡のお散歩ガイド		インターネット情報	2013年2月20日～

・連続講座概要

地図学習連続講座 「スマホとGISを使ったMyマップ作成」

講師：猪原紘太氏

会場：小川公民館 13時より

日程	内 容
1回目 2018/5/26(土)	GIS(地理情報システム)の基礎的概念・スマホGPS機能の活用 ワークショップ
2回目 2018/6/30(土)	地図の種類と選択、撮影ポイントの選び方 ワークショップ
3回目 2018/8/29(水)	地図製作における属性情報管理(点・線・面・距離・GPS) ワークショップ
4回目 2018/9/29(土)	撮影写真の管理・整理方法・Excelデータ活用方法 ワークショップ
5回目 2018/10/20(土)	現地調査情報のまとめ(地図・写真・文章) ワークショップ
6回目 2018/11/17(土)	「Myマップ」発表会 ワークショップ

参考資料

小平市の玉川上水・分水路網を取り巻く環境

(1) 玉川上水の植物

安藤 裕

(学び舎江戸東京ユネスコクラブ
玉川上水観察会スタッフ)

(2) 玉川上水の鳥類

久保 賢一

(学び舎江戸東京ユネスコクラブ
玉川上水観察会スタッフ)

(1)玉川上水の植物

調査地

玉川上水の水喰土公園～宮下橋間、主に小平市内

調査期間

2002～2018年

対象

顕かな植栽品は除外

草本

アオカモジグサ	キチジョウソウ	ツボスミレ	ホウチャクソウ
アキカラマツ	キツネガヤ	ツククサ	ホソバヒカゲスゲ
アキノタムラソウ	キツネノカミソリ	ツリガネニンジン	ホタルブクロ
アキノノゲシ	キツネノマゴ	ツルボ	マスクサ
アブラススキ	キランソウ	トウバナ	マヤラン
アマチャヅル	キンボウゲ	ドクダミ	マルバスマミレ
アマナ	キンミズヒキ	トダシバ	ミズヒキ
アレチヌスビトハギ	キンラン	トボシガラ	ミゾイチゴツナギ
イチゴツナギ	ギンラン	ナガハグサ?	ミツバツチグリ
イチリンソウ	ゲンノショウコ	ナギナタコウジュ	ミヤマヨメナ
イヌアワ	コアカザ	ナズナ	ムラサキケマン
イヌコウジュ	コスミレ	ナンテンハギ	メドハギ
イヌコハコベ	コバギボウシ	ニガナ	メハジキ
イヌゴマ	コハコベ	ニリンソウ	メヤブマオ
イヌタデ	コバノカモメヅル	ヌカボ	ヤエムグラ
イヌトウバナ	コヒルガオ	ヌスビトハギ	ヤクシソウ
ウツボグサ	コヤブタバコ	ネコハギ	ヤハズソウ
ウバユリ	コヤブラン	ネズミガヤ類	ヤブガラシ
ウマノスズクサ	ササガヤ	ネズミノオ	ヤブカンゾウ
ウラジロチチコグサ	ササバギンラン	ノアザミ	ヤブジラミ
エダウチチゴユリ?	シオデ	ノガリヤス	ヤブスゲ
エビヅル	ジシバリ	ノカンゾウ	ヤブタデ
オオアマナ	シャガ	ノコンギク	ヤブタバコ
オオアレチノギク	シャクチリソバ	ノハラアザミ	ヤブニンジン
オオジシバリ	シュンラン	ノブドウ	ヤブマオ
オオバギボウシ	シラヤマギク	ノミノツヅリ	ヤブマメ
オカトラノオ	ジロボウエンゴサク	ハエドクソウ	ヤブミョウガ
オトコヨモギ	シロヨメナ	ハコベ	ヤブラン
オニタビラコ	スイカヅラ	ハナニガナ	ヤマカモジグサ
オニドコロ	スイバ	ハルジオン	ヤマジノホトトギス
オミナエシ	ススキ	ヒカゲスゲ	ヤマゼリ
ガガイモ	スズメノヤリ	ヒガンバナ	ヤマノイモ
カゼクサ	セイヨウタンポポ	ヒトリシズカ	ヤマユリ
カナムグラ	センニンソウ	ヒナタイノコヅチ	ユウガギク
カモジグサ	ソクズ	ヒメアシボソ	ヨモギ
カラスウリ	ダイコンソウ	ヒメウス	ラショウモンカツラ
カラスノゴマ	タカトウダイ	ヒメカンスゲ	ワレモコウ
カラムシ	タケニグサ	ヒメジョオン	
カリガネソウ	タチツボスミレ	ヒメヤブラン	
カワラスゲ	ダンドボロギク	ヒヨドリジョウゴ	
カワラナデシコ	チガヤ	ヒルガオ	
カントウタンポポ	チカラシバ	フデリンドウ	
	チゴユリ	ヘクソカツラ	
	チダケサシ	ヘビイチゴ	
	チチコグサモドキ		
	チチミザサ		

木本

アオキ	クコ	ツタ	ピナンカツラ
アオツツラフジ	クサイチゴ	ツリバナ	ヒメコウゾ
アカシデ	クサギ	ツルウメモドキ	フジ
アカマツ	クサボケ	テイカカツラ	フッキソウ
アカメガシワ	クスノキ	トウカエデ	マキエハギ
アキグミ	クヌギ	トウネズミモチ	マサキ
アズマネザサ	クマシデ	ナツグミ	マテバシイ
アセビ	クリ	ナワシロイチゴ	マユミ
イチイ	ケヤキ	ナワシログミ	マルバウツギ
イヌザクラ	コアカソ	ナンテン	マンサク
イヌシデ	コゴメウツギ	ニオイヒバ?	ミズキ
イヌツゲ	コナラ	ニガイチゴ	ムクノキ
イボタノキ	コブシ	ニガキ	ムラサキシキブ
イロハモミジ	ゴンズイ	ニシキギ	モチノキ
ウグイスカグラ	サルトリイバラ	ニワトコ	モミジイチゴ
ウツギ	サワフタギ	ヌルデ	ヤツデ
エゴノキ	サワラ	ネコヤナギ?	ヤブツバキ
エノキ	シキミ	ネズミモチ	ヤマウコギ
オニグルミ	シャリンバイ	ネム	ヤマグワ
ガクウツギ	シラカシ	ノイバラ	ヤマコウバシ
カクレミノ	シロダモ	ハコネウツギ	ヤマザクラ
ガマズミ	スダジイ	ハナヒョウタンボク	ヤマハギ
カマツカ	タブノキ	ハマビワ	ヤマブキ
カヤ	タマアジサイ	ハリエンジュ(ニセアカシア)	ヤマボウシ
キツタ		ヒサカキ	ユズリハ
キブシ		ヒトツバハギ	

参考にした書籍

書籍名	著者	出版社
牧野 日本植物図鑑	牧野富太郎	北隆館
人里の植物	長田武正	保育社
野草ハンドブック1~3	富成忠夫	山と溪谷社
原色 日本帰化植物図鑑	長田武正	保育社
検索入門 野草図鑑1~8	長田 武正 著、長田喜美子 写真	保育社
日本の野生植物		
草本 単子葉類	佐竹義輔 大井次三郎 北村四郎 亘理俊次 富成忠夫	平凡社
草本 離弁花類		
草本 合弁花類		
木本	編:佐竹義輔 原 寛/亘理俊次 富成忠夫	
野草大図鑑	監修者 高橋 秀男	北隆館
高尾山 花と木の図鑑	菱山 忠三郎	ORIGIN主婦の友社
山溪ハンディ図鑑		
野に咲く花	監修/林 弥栄、写真/平野 隆久	山と溪谷社
山に咲く花	監修/永田芳男、編・解説/畔上能力	
樹に咲く花 離弁花1	写真/茂木 透 解説/石井英実・崎尾 均・吉山 寛ほか	
樹に咲く花 離弁花2	写真/茂木 透 解説/太田和夫・勝山輝男・高橋秀男ほか	
樹に咲く花	写真/茂木 透 解説/城川四郎・高橋秀男・中川重年ほか	
合弁花・単子葉・裸子植物		
日本の野菊	いがりまさし	
日本帰化植物図鑑	清水矩宏/森田弘彦/廣田伸七	全農教
日本帰化植物図鑑 第2巻	植村修二/勝山輝男/清水矩宏/水田光雄/森田弘彦/ 廣田伸七/池原直樹	全農教
原寸イラストによる 落葉図	吉山 寛 著、石川 美枝子 画	文一総合出版

(2) 玉川上水の鳥類

調査地

玉川上水 上水小橋・小川橋間 約1.0 km

調査方法

ラインセンサス法（ロードサイドセンサス法）を用いた。時速2kmで歩き、左右各25m、上方は樹霜を超える高さまでの範囲に出現した鳥種の個体数を記録した。

上水小橋・小川橋間を往復して数える場合：小川橋から開始し、右岸沿いに歩きながら、上水小橋までの個体数を語録した。15分休憩後、上水小橋から開始し、左岸沿いに歩きながら、小川橋までの個体数を記録した。この場合往路1回、復路1回の計2回分のデータとした。

データ

鳥の分布が比較的安定している繁殖期と越冬期のデータを使用した。

具体的には、環境省『モニタリング1000森林・草原の鳥類韻査ガイドブック』2006に基づいたデータを抽出した。

繁殖期 5月下旬から6月 4:00～8:00

越冬期 12月中旬から2月中旬 8:00～11:00

また、雨天や強風などの荒天時のデータは、記録率や鳥の活動が低下するため、除外した。

以上の条件を満たしたデータは繁殖期2016年6月が8回、2018年5、6月が7回、越冬期2015年1月が6回、2016年12月が2回であった。

結果

表1.2、図1.2. のとおり。

流路沿いにいた水鳥は、カルガモ・オナガガモ・アオサギ・ダイサキ・カワセミおよびキセキレイの6種。いずれも玉川上水本流にいた。
新堀用水開渠部約130m間に水鳥はいなかった。

以上

引用文載

環境省自然観察局生物多様性センター・（財）日本野鳥の会・2006・モニタリング1000森林・草原の鳥類調査ガイドブック

表1. 越冬期におけるラインセンサスの結果. 出現個体数の平均値±標準偏差、平均値をもとにした構成比と順位を示した(Nは調査回数). 両年とも0羽である種は調査範囲外あるいは時間外に出現した.

	2015年1月				2016年12月			
	N=6		順位		N=2		順位	
カルガモ	3.50	± 3.67	4.2%	6	0.00	± 0.00	0.0%	17
オナガガモ	0.17	± 0.41	0.2%	19	0.00	± 0.00	0.0%	17
キジバト	1.83	± 1.83	2.2%	12	5.50	± 0.71	6.4%	5
アオサギ	0.17	± 0.41	0.2%	19	0.00	± 0.00	0.0%	17
ダイサギ	0.00	± 0.00	0.0%	25	0.00	± 0.00	0.0%	17
カワセミ	0.00	± 0.00	0.0%	25	0.00	± 0.00	0.0%	17
コゲラ	2.83	± 1.60	3.4%	8	1.50	± 0.71	1.7%	9
アオゲラ	0.17	± 0.41	0.2%	19	0.00	± 0.00	0.0%	17
モズ	0.00	± 0.00	0.0%	25	1.00	± 0.00	1.2%	12
オナガ	2.00	± 4.90	2.4%	11	0.00	± 0.00	0.0%	17
ハシボソガラス	0.00	± 0.00	0.0%	25	0.00	± 0.00	0.0%	17
ハシブトガラス	2.50	± 0.84	3.0%	9	0.00	± 0.00	0.0%	17
ヤマガラ	2.50	± 1.38	3.0%	9	1.50	± 2.12	1.7%	9
シジュウカラ	12.17	± 3.49	14.7%	2	12.50	± 2.12	14.5%	2
ヒヨドリ	24.67	± 18.96	29.7%	1	29.50	± 10.61	34.1%	1
ウグイス	1.17	± 0.75	1.4%	13	1.00	± 1.41	1.2%	12
エナガ	4.83	± 4.31	5.8%	5	5.50	± 4.95	6.4%	5
メジロ	11.33	± 2.80	13.7%	3	11.50	± 6.36	13.3%	3
ムクドリ	3.00	± 1.26	3.6%	7	2.00	± 1.41	2.3%	8
シロハラ	0.33	± 0.52	0.4%	17	2.50	± 2.12	2.9%	7
ツグミ	0.67	± 1.21	0.8%	14	1.50	± 2.12	1.7%	9
ジョウビタキ	0.17	± 0.41	0.2%	19	0.50	± 0.71	0.6%	15
スズメ	0.50	± 0.84	0.6%	16	0.00	± 0.00	0.0%	17
キセキレイ	0.00	± 0.00	0.0%	25	0.00	± 0.00	0.0%	17
ハクセキレイ	0.67	± 1.21	0.8%	14	1.00	± 0.00	1.2%	12
アトリ	0.00	± 0.00	0.0%	25	0.50	± 0.71	0.6%	15
カワラヒワ	0.00	± 0.00	0.0%	25	0.00	± 0.00	0.0%	17
シメ	0.17	± 0.41	0.2%	19	0.00	± 0.00	0.0%	17
ドバト	7.17	± 5.53	8.6%	4	9.00	± 7.07	10.4%	4
交雑カモ類	0.17	± 0.41	0.2%	19	0.00	± 0.00	0.0%	17
カラス類	0.00	± 0.00	0.0%	25	0.00	± 0.00	0.0%	17
ツグミ類	0.33	± 0.82	0.4%	17	0.00	± 0.00	0.0%	17
計	83.00	± 23.00			86.50	± 21.92		

表2. 繁殖期におけるラインセンサスの結果. 出現個体数の平均値±標準偏差、平均値をもとにした構成比と順位を示した(Nは調査回数). 両年とも0羽である種は調査範囲外あるいは時間外に出現した.

	2016年6月				2018年5,6月			
	N=8		順位		N=7		順位	
カルガモ	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.14	± 0.38	0.3%	15
キジバト	1.50	± 1.51	4.4%	6	3.14	± 1.35	5.7%	5
アオサギ	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.29	± 0.49	0.5%	13
カッコウ	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.00	± 0.00	0.0%	17
カワセミ	0.25	± 0.71	0.7%	10	0.43	± 0.79	0.8%	11
コゲラ	1.75	± 1.04	5.2%	5	2.86	± 1.07	5.1%	7
アオゲラ	0.25	± 0.46	0.7%	10	0.43	± 0.79	0.8%	11
オナガ	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.00	± 0.00	0.0%	17
ハシボソガラス	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.14	± 0.38	0.3%	16
ハシブトガラス	1.88	± 1.89	5.5%	4	2.71	± 1.25	4.9%	8
ヤマガラ	1.00	± 1.77	3.0%	9	4.00	± 3.06	7.2%	4
シジュウカラ	8.13	± 3.04	24.0%	2	15.43	± 5.29	27.8%	1
ツバメ	0.25	± 0.46	0.7%	10	0.00	± 0.00	0.0%	17
ヒヨドリ	12.25	± 3.01	36.2%	1	15.43	± 4.35	27.8%	1
メジロ	1.38	± 1.06	4.1%	7	1.29	± 1.38	2.3%	9
ムクドリ	4.13	± 2.47	12.2%	3	4.86	± 1.57	8.7%	3
スズメ	1.13	± 1.73	3.3%	8	1.14	± 1.57	2.1%	10
ハクセキレイ	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.00	± 0.00	0.0%	17
カワラヒワ	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.29	± 0.49	0.5%	13
ドバト	0.00	± 0.00	0.0%	13	3.00	± 4.28	5.4%	6
ホンセイインコ	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.00	± 0.00	0.0%	17
カラス類	0.00	± 0.00	0.0%	13	0.00	± 0.00	0.0%	17
計	33.88 ± 6.79				55.57 ± 9.16			

小平市内における玉川上水系分水路網の基礎的環境調査
(玉川上水中流域の小川分水と分水路網の残存状況調査)
(研究助成・一般研究 VOL. 4 1 -NO. 2 4 3)

著 者 鈴木 利博
発行日 2019年12月
発行者 公益財団法人 東急財団
〒 150-8511
東京都渋谷区南平台町5番6号
TEL (03) 3477-6301
FAX (03) 3496-2965
<http://foundation.tokyu.co.jp>